

郡市役所 町村役場

明治三十二年六月訓令甲第四十五號市町村衛生費支出標準左ノ通改正ヲ明治三十三年八月十五日ヨリ施行ス

市町村傳染病豫防費補助標準

- 第一條 市町村傳染病豫防費ノ支出ニ對シテハ左ノ各號ノ範圍内ニ於テ縣稅ヨリ補助スルモノトス
- 一 市町村吏員ノ手當ハ一日金參拾錢迄
- 二 傳染病豫防委員(醫師ヲ除ク)ノ報酬ハ一日金五拾錢迄
- 三 傳染病院又ハ隔離病舎雇上醫師ノ手當ハ一日金貳圓迄
- 四 臨時事務員給料ハ一日金五拾錢迄
- 五 看護婦給料ハ一日金壹圓五拾錢迄
- 但附添看護人ニハ補助セサルモノトス
- 六 調劑員給料ハ一日金六拾錢迄
- 七 使了給料ハ一日金四拾錢迄
- 八 市町村吏員豫防醫師看護婦等ノ賄料ハ一日金拾錢迄
- 九 患者運搬及汚物取片付人夫給料ハ一日金六拾錢迄
- 十 消毒人夫給料ハ一日金五拾錢迄
- 十一 豫防委員事務所ノ借家料ハ一日金貳拾錢迄
- 十二 交通遮斷ノ爲メ又ハ一時營業ヲ失フ自活シ能ハサルモノ、生活費ハ大人一日金拾五錢迄但十年未満七十年以上ノ者ハ同金拾貳錢迄

- 十三 貧民患者ノ診察料ハ一日金五拾錢迄
- 但特ニ雇上タル場合ニ限ル
- 十四 貧民患者ノ食費藥費共一日金參拾錢迄
- 十五 貧民患者ノ葬具及火葬費共一人ニ付金五圓迄
- 十六 藥品器具器械費ハ其實費
- 十七 醫師看護婦等傭聘ノ爲メ要セシ往復ノ旅費ハ其實費
- 十八 前各號ノ外ノ支出ハ傳染病豫防上當應ニ於テ必要ノ支出ト認メタルモノニ對シ其實費
- 第二條 市町村ニ於テ貧民患者并死者トシテ取扱フヘキモノ左ノ如シ
- 一 不動産ヲ所有セス又ハ之ヲ所有スルモ既ニ登記濟價入書入ト爲シ其他動産ヲ以テ債務ノ擔保ヲ爲シ能ハサルモノ
- 二 不動産ヲ所有スルモ僅カニ雨露ヲ凌クニ過キサル茅屋及其宅地ノミニシテ之ヲ抵當トナスモ其費用ヲ辨償シ能ハサルモノ
- 三 動産ヲ所有スルモ職業上必要ナル物品(農家ノ農具漁業者ノ漁具車夫ノ車体ニ於タルノ類)及炊具炊具等一通リヲ除キ他ニ費用ヲ償フニ足ルヘキ物品ヲ所有セサルモノ
- 四 他ノ市町村在籍者ナルモハ其本籍地ノ市町村長ニ於テ前各項ノ事實ニ該當スルノ証明アルモノ

附 則

第三條 明治三十二年六月訓令甲第四十五號市町村衛生費支出標準ハ本標準施行ノ日ヨリ廢止ス

○傳染病豫防救治ニ從事セル巡查ニ辭令ヲ交付セ

スシテ檢疫委員ヘ從事セシムル件

訓令丁第一七五號 (明治三十一年九月)

檢疫委員事務所ヲ置キタル郡内警察官署ニ勤務スル巡查ニシテ虎列拉赤痢發疹室扶私「ペスト」ノ豫防救治ニ從事スル場合ハ辭令ヲ不用檢疫委員トシテ從事セシム

○種痘細則ノ件

乙第一三二號(明治十八年十二月)

明治十八年第三十四號布告種痘規則第十一條ニ依リ細則別紙ノ通り相定メ候條此旨布達候事 但明治十三年縣甲第百六號達自今廢止ス

種痘細則

第一條 種痘事務ハ郡長之ヲ總管シ戶長之ヲ掌理スヘシ

第二條 種痘期日及場所ハ郡長ニ於テ之ヲ定メ戶長ヨリ其部内ヘ通達ヘヘシ

第三條 戶長ニ於テハ種痘兒(十六歳未) 人名簿ヲ製置シ異動アルトキハ其都度之ヲ加除スヘシ

第四條 戶長ハ春秋兩期ノ初ニ於テ第二號書式ノ種痘人員表ヲ製シ郡長ヘ開申スヘシ (二十年七月二十八日縣令甲第百二號ヲ以テ本條中改正) (二十年八月十一日號外ヲ以テ第三號ヲ第二號ト正誤ス)

第五條 醫師ハ本年(八月)戊第六十號達ニ依リ務ノテ種痘ノ普及ヲ圖ルヘシ

第六條 醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢診シ第一號書式ノ證書ヲ付與スヘシ

第七條 種痘濟ノ證書ヲ醫師ヨリ受領シタルトキハ十日以内ニ其證書ヲ添ヘ戶長役場ニ届出ツヘシ

第八條 戶長ニ於テ前條證書ヲ受領シタルトキハ直ニ種痘人名簿ヘ初種再三種ノ年月日及善感不善感ノ別ヲ記入シ證書ニ檢印ノ上本人ヘ還付スヘシ

第九條 醫師ニ於テ種痘施行後其種痘兒ノ姓名及ヒ善感不善感ヲ取調戶長役場ヘ差出スヘシ

第十條 (明治二十年七月二十八日縣令甲第百二號ヲ以テ削除ス)

第十一條 種痘料ノ額ハ受種痘者ノ素志ニ任スヘシ 但郡長若シハ戶長ニ於テ支出法ヲ設クルトキハ本條ノ限リニアラス

第十二條 此規則ニ掲グル條項ノ外普及實施ノ方法ハ郡長ノ定ムル處ニ據ルヘシ

第一號書式 (用紙西ノ内六ツ切)

接種ノ月日ヲ記スヘシ

戶長檢印

證

縣國郡町村何某何

年月日

初種(再三種)善感(不善感) 何 某

右種痘濟

何年何月

年月日 醫師 姓名印

國郡町村

證書下付ノ月日ヲ記スヘシ

第二號書式

明治 年 春秋期種痘人員表

町村名	初種	再種	三種	種合計
合計				

右取調及進達候也

年月日 郡 長 宛 戸 長

○種痘施術心得書ノ件

戊第六〇號 (明治十八年八月) 郡役所 戸長役場 衛生委員

明治十三年十月二十日番外達傳染病豫防心得書附録トシテ種痘施術心得書別紙ノ通追加候條此旨相達候事

(別紙)

種痘術ヲ施ス者ハ種痘ノ適否採種ノ方法痘苗採收及貯蓄ノ法善感不善感ノ鑑別種痘ノ注意等ヲ詳知セサル可カラズ其要左ノ如シ

第一 種痘ノ適否

- 第一條 種痘ハ左ニ掲クル者ニハ施ササルチ可トス
 - 一 生後七十日ヲ經サル者
 - 二 種痘ノ爲メニ一時増進スヘキ病患アルモノ
 - 三 丹毒流行ノ土地ニ居住スル者
 - 四 蔓延性ノ皮膚病アル者
 - 五 熱性病ニ罹リ居ル者
- 第二條 種痘ニ適スル時期ハ春(三月四月五月)秋(九月十月十一月)二季ヲ以テ最良トス然レトモ四季共ニ之ヲ施シテ妨ナシ

第二 接種ノ方法

- 第三條 種痘ヲ施スハ上膊(三稜筋抵)ニ於テ各々三針乃至五針(受痘者ノ年齢ニ隨フ)トシ各針ノ距離曲尺五分以上ニシテ痘泡ノ量輪互ニ密接セサル様注意スヘシ
- 第四條 施術ニ先チ針尖ヲ拭淨シ一時ニ數人ニ接種スルトキハ一人毎ニ之ヲ拭淨スヘシ
- 第五條 良性ナル痘漿ヲ採リテ移種スルチ確實ノ良法トスレトモ此方ヲ行フコ

ト能ハサルトキハ貯蓄ノ痘苗ニシテ成ルヘク新鮮ナル者ヲ選ビ用ユヘシ但
痂皮ハ用ヒサルナ可トス

第三 痘苗採收及貯蓄ノ法

第六條 痘苗ハ左ニ掲クル者ヨリ採收スヘカラス

一 痘泡ノ成形過度及過大ノ者、發暈非常ニ大ナル者、泡縁又ハ暈部ニ水泡
ヲ生スル者、痘泡非常ニ隆起シテ澄明ノ漿液ヲ漏出スル者、一種ノ疑フ
ヘキ色例ハハ紅藍色ヲ呈セル如キ者、但此等ノ異常痘泡ノ近傍ニ在ル正
泡モ亦同シ

二 痘漿ノ血液ヲ混セサル者、泡ノ中央ニ在ル痘漿ノ腐敗ニ向ハントスル者
痘泡ノ已ニ化膿ニ傾キ者、爬搔又ハ摩擦ノ爲ニ痘泡破潰セシ者

三 黴毒線病及皮膚病ニ罹リ居ル者、營養不良ノ者

四 丹毒ヲ併發セシ者、經過不整ニシテ不善感ノ疑アル者(第十三條ヲ參照スヘシ)

五 天然痘ヲ經タル者再三種ノ者

第七條 痘漿ヲ採ルハ通常接種後第八日(二十四時間ヲ以テ一日ト算ス以下皆同シ)ヲ以テ佳トスト雖ト

モ時候寒暖及各人ノ性質ニ隨ヒ第七日又ハ第九日ヲ以テ適度トスルコトアリ
痘泡ハ善感良性ノ者ニシテ其包含セル所ノ漿液ハ渾濁セス粘稠露滴ノ如クナ
レヘシ

第八條 痘漿ヲ採ルニハ痘泡ノ中心ヲ避ケ泡面ヨリ斜ニ淺ク刺シ深刺シテ出血
セムヘカラス

第九條 發痘一顆ナルモノ、痘泡ハ其漿液ヲ採ルヘカラス又數顆アルモノ其一顆
ハ傷クヘカラス

ハ傷クヘカラス

第十條 痘苗ヲ貯蓄シテ接種ノ用ニ供セントスルニハ硝子板間ニ貯ヘテ密封シ
又ハ硝子製毛細管ニ吸入セシメテ其兩端ヲ固封シ日光及寒熱ノ劇度ヲ避ケ貯
フヘシ(痘苗ノ貯蓄法甚タ宜シキヲ得ルトキハ五箇月間充分ノ効力アリ)

第四 善感不善感ノ鑑別

第十一條 種痘ノ善感不善感ヲ鑑別スルニハ左ノ各項ヲ以テ要點ト爲ス

一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メシヤ否

二 痘泡常形ニシテ其大サ及ヒ硬サハ皮下皮上共ニ同一ナルヤ否

三 紅暈ハ常形ナルヤ否

四 經過整然トシテ其時宜ヲ誤ラサルヤ否

五 第八日ニ至リテ微熱ヲ發スルヤ或ハ然ラサルモ其他ノ徵候ヲ呈スルヤ否

六 痂皮ハ黯色又ハ黑色ニシテ其厚サ及ヒ硬サハ常度ナルヤ否

第十二條 種痘善感ノ徵候ハ左ノ經過ニ就キテ知ルヘシ

接種後第一日第二日ノ間ハ他ノ刺傷ニ異ナルコト無シ施術後針痕ノ周圍ニ淡
紅色ノ小暈ヲ發スレトモ暫時ニシテ消失ス(或ハ此暈ヲ見サレコトアリ)

第三日ニハ針痕ノ部ニ小ナル紅點ヲ生シ試ニ指頭ヲ以テ之ニ觸レハ稍々隆起
セルヲ覺ユ(經過緩慢ナルモノハ第四日第五日ニ至リ始メテ此紅點ヲ生スル
コトアリ)

第四日ニハ紅色ニシテ硬ク且ツ隆起セル圓形若クハ橢圓形ノ小結節ヲ生ス

第五日ニハ結節細小ノ水泡ト爲リ其周圍ニ狭キ紅暈ヲ見ル

第六日ニハ水泡稍々増大シ其邊縁隆起シテ泡ノ中央ニハ陥凹ヲ呈シ泡中ニハ稀薄透明ニシテ稍々帯藍色ナル液ヲ充實シ周圍ノ紅暈稍々増大ス

第七日ニハ諸症益々増進ス

第八日ニハ痘疱全ク成形ス其大サハ豆大ニシテ周圍ハ痲腫シ微シク疼痛アリ泡中ノ液ハ倍々充實紅暈亦著シク増大ス此期ニ當リ(或ハ此期以前)微熱ヲ發シ或ハ全ク熱候ナク顔面ハ蒼白色ヲ呈スルコトアリ又腋下ニ疼痛ヲ覺シ水脈線腫起スルコトアリ

第九日ニハ紅暈更ニ増大ニ其色澤モ亦加ル

第十日ニハ泡液化痰シテ白濁或ハ黄色ノ濃稠液ト爲リ泡ノ中央稍々凸隆ス然レトモ其形必ス扁圓ナリ

第十二日ニ至ルマテハ痘疱其形狀ヲ變スルコト無ク此ヨリ收斂ヲ始メ泡ノ中央ヨリ邊縁ニ向ヒテ次第ニ乾固シ漸ク褐色ニ變シ周圍ノ紅暈モ亦漸ク消退ス爾後黯褐色又ハ黑色ニシテ堅實ナル厚痂ヲ結ビ初ハ皮膚ニ緊著シテ容易ニ剝離セス結痂後八日乃至十日ニ至リ始テ剝脫ス其剝脫ノ後ニ遺セル痲痕ハ圓形又ハ楕圓形ニシテ淺キ凹窩ヲ爲シ其窩内ニハ更ニ數多ノ小凹點ヲ呈ス但一回種痘セシ者再ニ種痘シテ感染スルコトアルモ其痘顆小ニシテ七八日間モ全ク經過スルヲ常トス

第十三條 種痘不善感ノ徵候ハ左ノ如シ

一 接種後第二日以内ニ成形ノ始メ常形ニ違セスヤ直チニ廣ク蔓延セル炎症ヲ發シ皮下ニ硬キヲ覺ヘズシテ紅暈ハ不整形ナリ痘疱ハ速ニ化痰シ其

隆起ノ狀或ハ半球形成ハ圓錐形ト爲リ乾固スレハ黄色ニシテ鬆疎ナル痂皮ヲ結フ(時トシテ第二日後ニ成形ヲ始ムル者アレトモ其經過總テ不整形ナルヲ以テ自ラ善感ノ者ト區別スルヲ得ヘシ又不善感ノ者ト雖トモ皮下ニ疼痛ヲ覺セ微熱ヲ發スルコト無キニ非ラス)

二 接種後第一日ニ大ナル赤色ノ泡ヲ生シ速ニ漿液ヲ充實シ上皮破レテ膿面ヲ呈シ或ハ濕潤セル淡色ノ痂皮ト爲ルヲ見ル

三 紅暈速ニ増大シテ腫起シ或ハ遂ニ潰瘍ニ陥ル

四 第八日ニ至リ數泡相合シテ一大潰瘍ト爲リ或ハ一面ノ痂皮ヲ結ヒ其潰瘍又ハ痂皮ノ周圍ニハ廣ク赤色ヲ呈ス

五 痂皮剝脫ノ後ニ遺セル痲痕ハ深クシテ不整形ヲ呈シ其底面平滑ナリ

第五 種痘ノ注意

第十四條 初種ノ不善感ハ痘苗ノ不良ナルカ或ハ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ因レ者ナルカ故更ニ三四週ノ後善良ナル痘苗ヲ選ヒテ再ヒ接種スヘシ

第十五條 種痘ヲ施スニ當リテハ併發症ヲ防キ殊ニ天然痘流行ノ際ニハ接種後第八日ニ至ルマテハ嚴ニ其感染ヲ防禦スヘシ然レトモ受痘者已ニ暗ニ天然痘ニ感染シ其潜伏期ニ於テ接種スルコト間々之レアリ

第十六條 天然痘流行シ種痘ヲ猶豫スヘカラサル際ニハ第一條各項ニ掲グル者ト雖トモ熱性病ヲ除クノ外ハ總テ接種スヘシ

第十七條 種痘中ハ寒冷ヲ避ケシメ成ルヘク清潔ノ空氣中ニ居ラシムヘシ平常慣習セル食物等ハ總テ禁忌スルニ及ハス又別ニ醫藥ヲ要セス

○種痘天然痘濟否送籍狀ニ記入方ノ件

丁第七號 (明治十八年二月)

種痘普及ノ計畫ヲ擴張スル爲メ自今戶長役場ニ於テ管内外ヲ問ハス送籍狀送付ノ際慶應元年以來出生ノ者ハ男女ノ別ナク初再三種ノ年月日(年月日詳ナラサル時ハ其旨ヲ記入スヘシ)又ハ天然痘濟未濟等ヲ該狀ニ添付可致此旨相達候事(廿九年三月廿五日訓令甲第七十五號)但寄留ノ者ハ原籍戶長ヨリ寄留地戶長ヘ天然痘及種痘濟否ノ別ヲ詳記シ通報スヘシ(十九年四月二十六日乙第(十八號)ヲ以テ但書追加ス)

○天然痘豫防ニ從事スルモノ種痘濟ニ限ルノ件

訓令甲第六十九號 (明治二十年二月二十三日)

郡役所 戶長役場

天然痘豫防檢疫ニ從事スルモノハ必ス天然痘濟又ハ臨時種痘濟ノ者ニ限ルヘシ

○痘苗請求手續ノ件

訓令甲第二五號 (明治三十一年四月)

町村ヨリ官設痘苗製造所ニ對スル痘苗請求手續左ノ通り相定ム 但明治二十九年八月訓令第三十五號痘苗請求手續廢止ス

痘苗請求手續

第一條 町村長ハ豫メ定期春季秋季種痘期日ヲ定メ種痘規則ニ遵ヒ種痘名簿ニ就キ當期接種人員ヲ點檢シ其所要痘苗ノ具數ヲ概算シ春季ハ前年十二月中秋季ハ其年六月中東京痘苗製造所ニ對シ第一號書式ニ準シ直接報告ヲ爲スヘシ

第二條 町村長ハ前條定期種痘施行期日凡ソ一ケ月前ニ於テ其所要ノ痘苗具數ヲ調定シ東京痘苗製造所ニ對シ第二號書式ニ準シ直接請求ヲ爲スヘシ

第三條 臨時種痘ヲ施行スル場合ニ於テハ第一條ノ概算報告ヲ要セス何時タリトモ便宜痘苗ノ請求ヲ爲スコトヲ得 但其具數五百以上ニ涉ルトキハ可成前以テ其手續ニ及フヘシ

第四條 定期臨時ノ別ナク多數ノ痘苗ヲ要スルモノハ其發送期日ヲ數回ニ分割シ請求スヘシ

(第一號) 痘苗具數概算報告書式

明治何年(春秋)季所要痘苗概數

痘苗具數	所	要	期	日	請	求	所	名
何	具	自何月何日至何月何日						福島縣何郡役所又ハ何郡何町村役場

右及報告候也

年 月 日

右 何郡役所又ハ何郡何町村役場

東京痘苗製造所宛

(第二號) 痘苗請求書式

痘苗請求書

一 痘苗何具

發送期日何月何日

(數回ニ分送テ要スルモノハ左ノ如ク内譯スヘシ)

何具 何月何日

何具 何月何日

右請 求 候 也

登記印紙

年 月 日

福 島 縣

何郡役所又ハ何郡何町村役場

東京痘苗製造所宛

○痘苗請求ニ際シ報告等注意方ノ件

訓令甲第五十九號

(明治三十四年十二月十二日)

郡役所 市役所 町村役場

痘苗請求手續ノ義ニ就テハ去ル明治三十一年四月十七日訓令甲第二十五號ヲ以テ其手續ヲ定メ訓令致置候次第モ有之候處當該市町村ニ於テ往々其所要ノ痘苗具數ノ概算報告ヲ怠リ隨時請求スル向モ有之爲メニ製苗上支障不勘其筋ヨリ訓令ノ次第モ有之候條自今其概算報告並ニ請求具數共正確ナル基礎ニ依リ算出シ報告期月ヲ愆リ又ハ具數ニ違算ヲ生スルカ如キコト無之様注意スヘシ

○娼妓身体検査及治療規則ノ件

縣令第二號

(明治三十四年一月二十一日)

明治三十一年(八月)縣令第六十一號娼妓身体検査及治療規則左ノ通改正シ明治三十四年二月一日ヨリ施行ス

娼妓身体検査及治療規則

第一條 娼妓ハ身体検査醫ノ健康診断及治療醫ノ治療ヲ受クヘシ

第二條 娼妓身体検査所及治療所ハ貸座敷主ニ於テ之ヲ設置シ娼妓ノ健康診断及治療ノ場所ニ充ツルモノトス

第三條 娼妓身体検査所及治療所ヲ設置セントスルトキハ其位置及健康診断室治療室、病室、監督室、娼妓控室、賄室、浴場、便所、塀牆等ヲ詳記シタル構造圖面並住様書ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經由シ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ其改造又ハ變更ヲ要スルトキ亦同シ

第四條 娼妓身体検査所及治療所ハ常ニ清潔ヲラシメ且ツ空氣ヲ流通セシムヘシ

第五條 娼妓ノ健康診断ハ左ノ疾患ノ有無ヲ検査スルモノトス

梅毒下疳瘰癧其他泌尿生殖器諸病結核諸病傳染性皮膚諸病

第六條 娼妓前條ノ疾患アルトキ又ハ妊娠六ヶ月以上分娩後七十日以内ニ於テハ就業スルヲ許サス

第七條 娼妓ノ健康診断ハ之ヲ分テ定期及臨時ノ二種トス

第八條 定期診断ハ毎月六回之ヲ行フ其日割左ノ如シ

但同一ノ検査醫ニシテ検査所ニケ所ヲ擔當セシムルトキハ其一個所ハ前日若クハ翌日ヲ以テ診断定日ト爲カコトアルヘシ

三日 八日 十三日 十八日 二十三日 二十八日

第九條 娼妓ノ健康診斷ハ警察官吏之ヲ監督ス

第十條 娼妓疾病ニ罹リ定日診斷ノ際検査所ニ出頭スルコト能ハサルトキハ其寄留貸座敷主連署ノ當日午前九時迄ニ検査所ニ届出寄留所ニ於テ診斷ヲ受ク可シ

第十一條 前條ノ患者ニシテ次期ノ診斷自迄ニ就業シ能ハサル疾患ト認ムルトキハ當日診斷ヲ行ハサルコトアル可シ

第十二條 臨時診斷ハ左ノ場合ニ之ヲ行フ

一 娼妓名簿ノ登録ヲ受ケントスルトキ

二 休業中ノ者就業セントスルトキ

三 定日診斷ノ際他行中ノ者歸寓シタルトキ

四 第十一條ニ依リ診斷ヲ執行セサルモノ就業セントスルトキ

五 第五條ノ疾患ニ罹リタルコトヲ自覺シタルトキ

六 前各項ノ外臨時診斷ノ必要ヲ認メタルトキ

第十三條 娼妓ハ第十二條第一號乃至第五號ニ該當スル場合ニ於テハ検査醫ノ診斷ヲ請フ可シ

第十四條 娼妓ノ健康診斷ハ午前九時ヨリ午後三時迄トス

第十五條 娼妓ハ診斷證ヲ受領シ置キ受診ノ都度検査醫ノ診斷證印ヲ受ク可シ

第十六條 定期又ハ臨時ノ診斷ニ於テ有病ノ診斷證印ヲ交付セラレタルトキハ即時治療所ニ入り治療ヲ受ク可シ但其疾病難症ニシテ到底治療ノ見込ナキモ

ノ及治療スル迄ニヶ月以上ノ日子ヲ要スヘシト認ムルモノハ他ノ醫師ノ治療ヲ受クルコトヲ得

第十七條 娼妓治療ヲ受ケ全治シタルトキハ治療醫ノ全治證ヲ受ク可シ 但就業前所轄警察官署又ハ巡查駐在所ニ届出全治證ニ捺印ヲ受ク可シ

第十八條 健康診斷ノ際第五條ノ疾患アリト認メタル娼妓ニシテ他ノ重患並發シタルトキハ治療醫ノ治療ヲ猶豫スルコトアル可シ

第十九條 貸座敷取締ハ定期診斷ノ際貸座敷主並娼妓ノ氏名ヲ記シ且ツ之ニ受診者、治療中ノ者、休業中ノ者等ノ區別ヲ記シ臨監ノ警察官吏及検査醫ニ届出ツ可シ

第二十條 治療所ニ娼妓監督者ヲ置キ娼妓ノ監督ヲ爲サシムヘシ其監督者及監督方法ハ貸座敷業者之ヲ定メ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受ク可シ

第二十一條 第六條第十六條第十七條但書ニ違背シタルモノハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第二十二條 明治三十一年(八月)縣令第六十一號娼妓身体検査及治療規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十三條 遊廓ノ設ケナキ地ノ貸座敷取締ハ娼妓身体検査所及治療所ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

○娼妓身体検査醫及治療醫執務規程ノ件

訓第一一號 (明治三十四年一月二十八日)

警察署
警察分署
娼妓身體檢查醫
娼妓治療醫

明治二十八年(七月)福島縣訓令第七二號娼妓身體檢查醫及治療醫心得左ノ通
改正シ明治三十四年二月一日ヨリ施行ス

娼妓身體檢查醫及治療醫執務規程

第一條 娼妓身體檢查醫ハ娼妓身體檢查及治療規則ニ依リ娼妓ノ疾病有無ヲ診斷シ治療醫ハ其患者ヲ治療スルモノトス

第二條 娼妓身體檢查及治療規則第五條ニ掲ケタル疾患トハ概テ左ノ諸病ヲ云

瘰癧

初起硬結及潰瘍、無痛便毒、淋巴系病、皮膚系病、粘膜炎

軟性下疳、急性便毒、癩病、膀胱加答兒、白帶下及膈炎、子宮口潰瘍、割

脫、外陰部急性炎、痔疾

結核諸病、呼吸器、消化器、泌尿生殖器、腦神經系、骨及皮膚系病
傳染性皮膚諸病(癩病、濕疹、水泡疹、疥癬)其他ノ諸病

第三條 檢查醫ノ報告スヘキ事項ハ左ノ區別ニ依ルヘシ

一 娼妓ノ健康診斷ヲ爲シタルトキハ其都度左ノ事項ヲ具備シタル書面ヲ以テ所轄警察官署ニ報告スヘシ

不定期又ハ臨時診斷ノ別

有娼妓ノ氏名病名及其寄留貸座敷主名

(ハ)娼妓寄留ノ貸座敷ニ就キ診斷ノ際治療又ハ診斷ノ猶豫ヲ爲シタルコト

二 娼妓身體檢查月表(第一號式)ヲ調製シ翌月五日迄ニ所轄警察官署ヲ經由シ縣廳ニ報告スヘシ

第四條 治療醫ハ娼妓治療狀況月表(第二號式)並ニ娼妓治療月表(第三號式)ヲ調製シ翌月五日迄ニ所轄警察官署ヲ經由シ縣廳ニ報告スヘシ

第五條 檢查醫ハ診斷ノ際娼妓身體檢查及治療規則第五條ノ疾患ヲ認メタルトキハ娼妓ノ氏名及病名ヲ記載シ治療醫ニ通知スヘシ

第六條 檢查醫ハ警察官署ノ指揮ニ依リ娼妓名簿登錄申請者ノ健康ヲ診斷シ娼妓身體檢查及治療規則第五條ニ掲ケタル疾患ノ有無及娼妓稼業ニ堪ユル體質ナルヤ否ヤヲ診定シ所轄警察官署ニ報告スヘシ

第七條 檢查醫ハ娼妓健康診斷證(第四號式)ヲ貸座敷取締ヲ經由シテ娼妓ニ下付スヘシ診斷證ハ所轄警察官署ニ請求スヘシ

第八條 檢查醫ハ健康診斷ノ際疾患アルモノハ診斷證ニ「有」ノ印ヲ疾患ナキモノハ「無」ノ印ヲ捺捺スヘシ有病ノ娼妓ニ對シテハ即時治療所ニ入り治療ヲ受クヘキコトヲ命スヘシ

但娼妓身體檢查及治療規則第十八條ノ場合ニ於テハ治療ノ猶豫ヲ與フルコトヲ得

第九條 檢查醫ハ娼妓身體檢查及治療規則第十一條ノ場合ニ於テハ診斷ノ猶豫

- ナ與フルコトヲ得
- 第十條 診斷室ニハ診斷ノ際使役スル婦人ノ外入ラセムルコトヲ得ス
- 第十一條 検査醫ニハ手當旅費ヲ支給ス其金額ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十二條 治療醫ニハ別ニ手當ヲ給セス患者ノ藥價トシテ一人ニ付一日金拾錢ヲ支給ス 但退室ノ日ハ之ヲ支給セサルモノトス
- 第十三條 治療醫ハ左ノ各事項ヲ遵守スヘシ

- 一 毎日診察及治療スルコト
- 二 時々治療所ヲ巡視シ患者ノ攝生及取締等ニ注意スルコト
- 三 全治者ニ對シ全治證ヲ附與スルコト
- 四 患者中危篤症ヲ發スルモノアルカ若クハ大手術ヲ舉行セントスルトキハ親族又ハ其寄宿主ヘ通報スルコト
- 五 患者ニ寄贈ノ飲食物ヲ許サスルコト
- 六 患者面會願フ許サスルコト
- 七 患者ヨリ一時退室ノ申立アルモ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケタルモノニアラサレハ之ヲ許サハルコト
- 八 八種傳染病ノ兆アルトキハ傳染病豫防法ニ依リ相當處置スルコト
- 九 處方錄ヲ備置キ患者ノ氏名年齢病歴經過及處方等ヲ詳記スルコト

第十四條 明治二十八年(七月)訓令丁第七二號ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス (第一號式)

附 則

何町市村 娼妓身体検査表 (年 月 分)

検査一回ニ對ス 定日	臨時検査人員	臨時					新就業 登録換	就休業者	自覚	他行者	歸來者	検査猶豫 シタル者	小計	合計	検査人員	検査一回ニ對ス 定日	病 諸 核 結														計
		定日	臨時検査人員	新就業	就休業者	自覚											他行者	歸來者	検査猶豫 シタル者	小計	合計	検査人員	検査一回ニ對ス 定日	病 諸 核 結							
		新就業	就休業者	自覚	他行者	歸來者	検査猶豫 シタル者	小計	合計	検査人員	検査一回ニ對ス 定日	病 諸 核 結														計					
												病 諸 核 結																			
												病 諸 核 結																			
												病 諸 核 結																			
												病 諸 核 結																			
												病 諸 核 結																			
												病 諸 核 結																			
												病 諸 核 結																			
												病 諸 核 結																			
												病 諸 核 結																			
												病 諸 核 結																			
												病 諸 核 結																			
												病 諸 核 結																			
												病 諸 核 結																			
												病 諸 核 結																			
												病 諸 核 結																			
												病 諸 核 結																			
												病 諸 核 結																			
												病 諸 核 結																			
												病 諸 核 結																			
												病 諸 核 結																			

考 備	娼妓平均數			現 員			臨時		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計

九百八十六

右及報告候也

年 月 日

福島縣知事何某殿

記 載 例

一 検査ノ人員欄ニハ一ヶ月間検査シタル人数ヲ掲クルモノニシテ例ヘハ一人ノ娼妓一ヶ月六回検査ヲ受クルトキハ一ヶ月間六人ト算スルカ如シ

一 臨時検査人員ハ即チ定日以外ニ検査ヲ爲シタル数ヲ掲クルモノニシテ例ヘハ一日ノ内午前ニ自覺一人新就業二人チ一時ニ検査シ午後ニ登録換一人チ検査シ又時ヲ經テ自覺一人チ検査シタルトキハ五人ト算スル類ノ如シ

一 検査一回ニ對スル娼妓平均數ノ欄ヘハ一ヶ月間検査ノ回数ヲ以テ一ヶ月間ニ検査ヲ受ケタル娼妓ノ總人数ヲ除シ算スルモノトス但定日ト臨時トハ格別ニ此方法ニ據リテ算出スルモノトス

臨時検査ニシテ本表ニ相當欄ナキモノハ其件名病名及度數人員等ヲ備考欄ニ掲クルモノトス

第二號式

何町娼妓治療状況月報

(年 月分)

病 名	入 室 月 日	退 室 月 日	經 過	貸 座 數 及 患 者 氏 名

何 町 市 治療委託醫

何 某

治 療 總 日 數	治 療 總 人 員	子 宮 口 潰 瘍	剝 脫	外 陰 部 急 性 炎	痔 疾	其 他 ノ 諸 病	合 計	患 者 一 日 平 均 數

備
考
右及報告候也

年 月 日

願島縣知事何某殿

記 載 例

- 一 入室日數別ノ欄ヘハ退室ノ日ハ算入セサルモノトス
- 一 治療總人員欄一ヶ月治療シタル延人員ヲ掲クルモノニシテ例ヘハ一人ノ娼妓十日間治療ヲ受クルトキハ十人ト算スル類ノ如シ

何
市 町 村
治療委託醫
何 某

月	日	疾 患 ノ 有 無	日	疾 患 ノ 有 無	日	疾 患 ノ 有 無	日	疾 患 ノ 有 無	日	疾 患 ノ 有 無	日	疾 患 ノ 有 無
一 月												
二 月												
三 月												
四 月												

一 治療日數欄現ニ治療シタル日數ヲ掲クルモノニシテ例ヘハ十人ノ娼妓十日間ツ、治療ヲ受ケタルトキハ百日ト算スルカ如シ但退室ノ日ハ算入セサルモノトス

一 患者一日平均數欄治療總人員ヲ一ヶ月間ノ日數ヲ以テ除シ算出スルモノトス

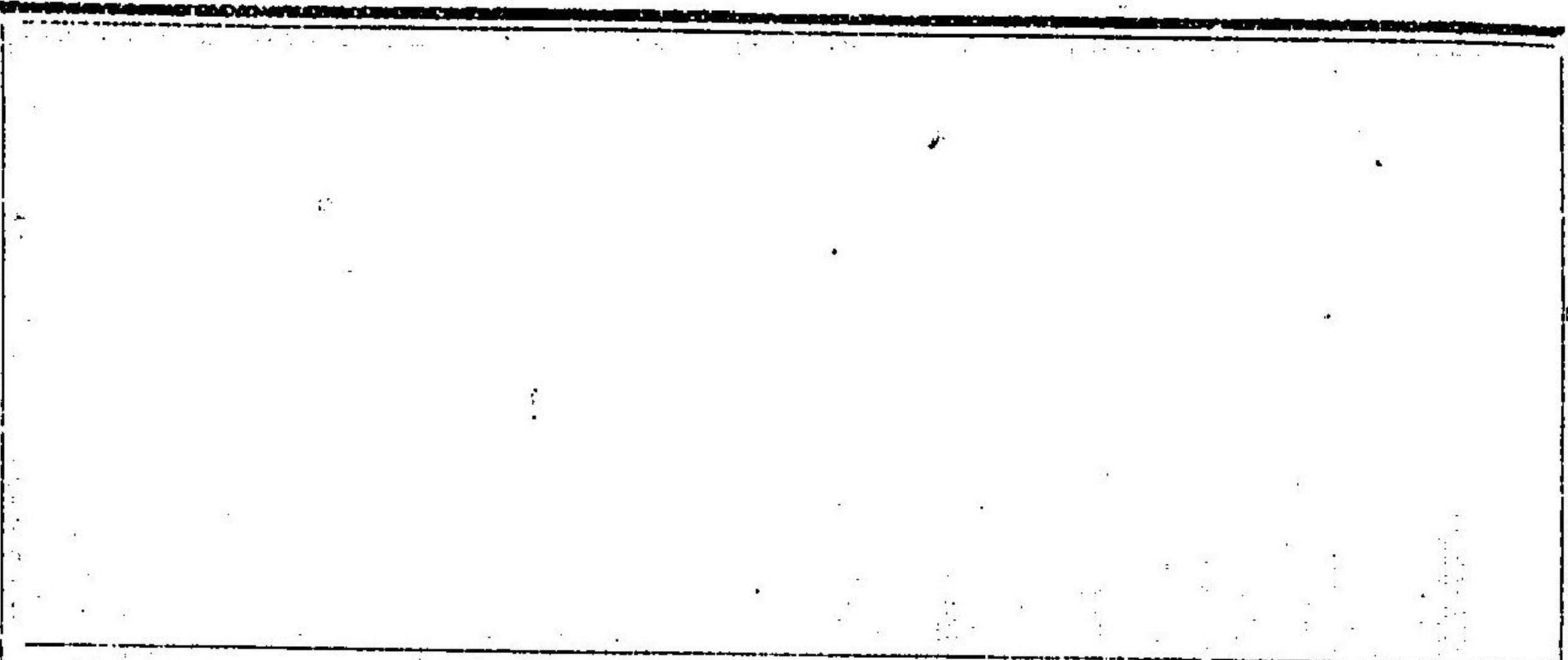
(第四號書式)

娼妓健康診斷證

福島縣
貸座敷

方寄留

年 月生



責ニ任スヘシ
第二條 町村ハ健康上有害ナラサル適當ノ場所ニ塵芥汚物棄却場ヲ設置スヘシ
但設置前豫メ土地ヲ撰定シ所轄郡役所ニ届出認可ヲ受クヘシ
第三條 町村ハ清糞保ノ爲メ五戸若クハ十戸共用ニ便宜ノ場所ニ塵芥汚物蒐集場ヲ設置スヘシ 但設置前豫メ場所ヲ撰定シ所轄郡役所ニ届出認可ヲ受クヘシ
第四條 町村ハ塵芥汚物蒐集ノ爲メ若干ノ掃除人夫ヲ常置シ人家連綴ノ地ニ於ケル道路及各戸ニ於テ棄却シタル塵芥汚物ヲ毎日若クハ隔日ニ之ヲ蒐集セシメ一定ノ場所ニ運搬シ棄却若クハ焼却セシムヘシ
第五條 各戸ニ於テハ町村ノ設置シタル一定ノ場所ノ外濫リニ塵芥汚物等ヲ投棄スヘカラス 但汚水漏泄ノ虞ナキ容器ノ備ヘアリテ之ニ投棄スルカ若クハ肥料ニ供スル爲メ健康上障害ナキ地ニ運搬スルハ此限リニアラス
第六條 公衆用ノ便所又ハ共同便所ハ少クモ毎週二回以上汲ミ取り且ツ便所内ハ時々掃除ヲ爲シ不潔物ヲ除却スヘシ
第七條 旅ハ宿飲食店料理店寄席劇場貸座敷工場ノ如キ多人數群集ノ場所ニ於ケル便所ハ前條ニ準ス
第八條 溝渠下水汚水溜等ハ少クモ毎年二回以上浚渫掃除ヲ爲シ破損又ハ勾配不良ノ爲メ疏通セサルモノアルトキハ直ニ改良又ハ修繕ヲ加フヘシ
第九條 前條ニ依リ浚ヒ揚ケタル汚泥塵芥等ハ健康上有害ナラサル一定ノ場所ニ運搬シ路上ニ堆積若クハ散逸セシメ又ハ道路ニ布シヘカラス

五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月

福島縣娼妓身体検査營

明治 年 月 日

○清潔法施行規則ノ件

縣令第四十八號 (明治三十三年六月二十五日)

清潔法施行規則左ノ通相定メ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス

清潔法施行規則

第一條 町村ハ其町村内ノ清潔ヲ保持スル爲メ其方法順序ヲ定メ之レカ施行ノ

第十條 溝渠下水ノ必要アリテ未タ其設置ナキモノハ直ニ之ヲ布設スヘシ

第十一條 飲料水及使用水ノ近傍ハ特ニ注意ヲ加ヘ汚水滲透又ハ汚物混入等ノ虞ナカラシムヘシ

第十二條 各戸ニ於ケル清潔法ヘ左ノ方法ニ依リ毎年二回以上施行スヘシ

- 一 家什ヲ出シ塵ヲ揚ケ建具ヲ外シテ室内ヲ掃除シ其器具等ハ日光空氣ニ曝スヘシ
- 二 床下ノ塵芥ハ之ヲ除却シ其跡ニハ成ルヘク乾キタル土砂又ハ石灰ヲ撒布スルコト
- 三 衣服臥具ノ類ハ殊ニ能ク日光ニ曝シ其汚レタルモノハ洗濯スルコト

第十三條 傳染病流行ニ際シ若クハ流行後ニ於テハ定期施行ニ拘ラス臨時之ヲ施行スヘシ

第十四條 前條ニ依リ臨時施行ノトキハ定期施行ノ方法ヲ一層周密ニ勵行スルノ外尙ニ左ノ各號ニ據ルヘシ

- 一 溝渠下水ヲ浚漂スルトキハ先ツ生石灰末石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ能ク攪拌シタル後多量ノ水ヲ以テ洗滌シ十分ニ疏通セシムルコト
- 二 便所ノ糞尿ヲ汲ミ取ルトキハ先ツ生石灰末石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ能ク攪拌シタル後之ヲ汲ミ取ルコト
- 三 芥溜ノ塵芥ヲ處置スルニハ石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ燒却スルコト
- 四 傳染病患者アリタル家及患者發生ナキ家ト雖トモ患家トノ關係ニ依リ病毒潜伏ノ虞アル家屋ニ對シテハ明治三十年五月內務省令第十三號清潔方

法第一條一號乃至三號同第二條第三條第四條及同令第十一條五號乃至七號ニ據リ施行スルモノトス

第十五條 本則第二條第三條第四條第五條第九條ハ人家稠密ナル町村ニ限り施行シ其他ノ町村ニアリテハ參酌施行スルコトヲ得

第十六條 町村ハ本則第一條ニ依リ其方法順序及本則施行ニ關シ必要ナル事項ヲ設定シ所轄郡役所ニ届出認可ヲ受ケヘシ 但變其更テ爲ストキ亦同シ

第十七條 本則第二條第三條及第十六條ノ認可ヲ得タルトキハ町村長ハ其贖本ヲ添ヘ直ニ所轄警察官署ニ通報スヘシ

第十八條 郡長及警察署長警察分署長ハ清潔法ノ施行ヲ監督シ其實施ノ狀況ヲ具シ當廳ニ報告スヘシ

附 則

第十九條 第一條ニ依リ方法順序ヲ定ムルハ本則施行後三十日以内トス

第二十條 本則ハ本年法律第三十一號汚物掃除法施行ノ町村一ハ之ヲ適用セズ

○汚物掃除法令施行規則ノ件

縣令第五十八號 (明治三十三年七月二十八日)

汚物掃除法令施行規則左ノ通り相定ム

汚物掃除法令施行規則

第一條 汚物掃除法施行規則第二條ニ依リ建物又ハ土地ノ所有者若クハ同則第六條ニ依リ市ニ於テ築造スヘキ溝渠ヲ構造ヘ左ノ規定ニ據ルヘシ

- 一 暗渠ハ石材煉瓦セメントノ破若クハ内外ニ釉藥ヲ施シタル陶管ヲ用ヒ其

陶管ノ接合部ハ「セメント」ヲ入膠泥ヲ以テ包裹スヘシ露渠ハ石材煉瓦「セメント」ノ敵内外ニ粘薬ヲ施シタル陶樋又ハ厚板(厚サ八分以上)ヲ以テ作ルヘシ
但陶樋ノ接合部ハ「セメント」ヲ入膠泥ヲ以テ包裹スヘシ
二 幅及深サハ水量ニ應ジテ構造シ且ツ適當ノ勾配ヲ付テ汚水ノ疏通ニ便ナラシムヘシ
第二條 土地ノ状況ニ依リ汚水ヲ溝渠又ハ適當ノ場所ニ排泄シ難キトキハ警察官署ノ認可ヲ得テ人家及飲料水ヲ距ル三間以上ノ場所ニ汚水溜ヲ設クルコトヲ得
汚水溜ハ不透透質ノ材料又ハ厚板ヲ以テ構造シ且ツ適當ノ覆蓋ヲ設クヘシ汚水溜ノ汚水ハ充溢セザル様汲み取り公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排棄スヘシ
第三條 掃除義務者ニ於テ備フヘキ塵芥容器ハ陶器又ハ金屬製若クハ木製ニシテ覆蓋ナ有シ汚物ノ漏泄セサルモノヲ用フヘシ
第四條 掃除義務者ニ依リ警察官署ノ認可ヲ得テ數人共同ノ塵芥容器ヲ用ユルコトヲ得但場所ニ依リ警察官署ニ於テ汚泥容器ヲ備ヘントスルトキハ陶器又ハ金屬製若クハ木製トシ且ツ覆蓋ヲ設クヘシ
第五條 左ニ掲クル汚水ハ掃除義務者ニ於テ本條所定ノ方法ニ依リ處置シ公共溝渠ニ排泄スヘカラス
一 劇毒性ノ物質ヲ含有スルモノ
二 甚シキ臭氣ヲ發スルモノ

三 多量ノ沈澱物ヲ混スルモノ
四 死体解剖ニ因リ生シタルモノ
五 外科手術ニ因リ生シタルモノ
六 屍体湯瀝ニ因リ生シタルモノ
七 前各項ノ外警察官吏ニ於テ有害ト認ムルモノ
本條第一號第二號第四號第五號第六號ノ汚水ハ警察官吏ノ承認ヲ得タル場所ニ排棄スヘシ但相當ノ除害又ハ消毒ヲ爲シタルモノハ直ニ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排棄スルコトヲ得
本條第三號ノ汚水ハ汚泥取扱場ニ搬出スヘシ
但沈澱物ヲ漏過シタルモノハ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排棄スルコトヲ得
本條第七號ニ該當ナルモノハ警察官吏ノ指定シタル方法ニ依リ處置スヘシ
第六條 塵芥運搬容器及汚物運搬容器ハ堅牢ニシテ汚物ノ漏泄セザル様構造シ且ツ適當ノ覆蓋ヲ設クヘシ
第七條 市町村ニ於テ塵芥取扱場塵芥焼却場及汚泥取扱場ヲ設置セントスルトキハ其位置構造仕様書及圖面ヲ具備シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ
第八條 塵芥取扱汚泥取扱場ノ位置及構造ハ左ノ規定ニ據ルヘシ
一 人家道路及飲料水ヲ距ルコト十五間以上
二 取扱場ノ周圍及地盤ハ石材煉瓦「セメント」「コンクリート」漆喰敵又ハ厚板ト爲シ適當ノ家根ヲ設クルコト
第九條 塵芥焼却場ノ位置及構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

- 一人家道路及飲料水ヲ距ルコト三十間以上
- 二 周圍ニハ高サ一間半以上ノ塙垣ヲ設クルコト
- 三 燒却竈ハ高サ八間以上ノ烟突ヲ設ケ消烟ノ装置ヲ爲スコト
- 第十條 厠圍ノ位置及構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ 但シ特殊ノ装置ニテ周圍ノ土地ヲ汚ス虞ナキモノハ此限リニアラス
- 一 飲料水ヲ距ルコト三間以上
- 二 尿管竈ハ内外ニ袖藥ヲ施シタル甕又ハ其他ノ不透透質ノ材料ヲ以テ構造スコト
- 三 尿管竈ノ周邊ハ漏斗狀ニシテ厚サ三寸以上ノ「モルタル」「コンクリート」又ハ漆喰敲ト爲スコト
- 第十一條 尿管運搬器ハ堅牢ニシテ密閉スヘキ蓋蓋ヲ備ヒ臭氣及汚水ノ發散漏泄セサル機構造スヘシ
- 第十二條 尿管汲取及運搬時限ハ日没時ヨリ日出後二時間ヲ過ク可ラス 但シ土地ノ狀況ニ依リ特ニ警察官署ノ認可ヲ得タル者ハ此限リニアラス
- 第十三條 本則第一條第二條第三條第四條第五條第六條及第十條第十一條第十二條ニ違背シタルモノハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 附 則
- 第十四條 從來設置セル塵芥溜ハ管分ノ内其使用ヲ許可ス溝渠及厠圍ハ明治三十四年六月三十日迄ニ本則ニ依リ改造スヘシ
- 第十五條 本則ハ明治三十三年法律第三十一號汚物排除法施行ノ地ニ限リ之ヲ

施行スルモノトス 但同法ヲ準用シタル地域ニ於テハ其準用シタル事項ニ關シテノミ本則ヲ施行ス

訓令甲第二十五號 (明治三十三年三月三十一日)

○掃除巡視採用規則ノ件

郡 役 所
市 役 所
町 村 役 場

掃除巡視採用規則左ノ通相定ム

- 掃除巡視採用規則
- 第一條 掃除巡視ハ試驗ノ上採用スヘキモノトス 但左ニ記載シタル者ハ此限リニアラス
 - 一 曾テ判任以上ノ職ヲ奉シタル者
 - 二 巡查精勤證書ヲ有スル者
 - 三 陸軍兵卒ニシテ現役滿期トナリ又ハ戰時召集ヲ解除セラレ下士適任證書ヲ有スル者
 - 四 其市町村吏滿三年以上勤續シ現ニ其職務ニ從事スル者ニシテ本則第二條第三條ニ牴觸セサル者
 - 第二條 掃除巡視志願者ハ品行方正年齡二十一年以上四十五年未滿ニシテ徵兵ニ相當セス且ツ左ノ各號ノ一ニ牴觸セサルモノタルヘシ
 - 一 重罪ノ刑又ハ重禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ同上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ

犯ノ單ニ監視ニ付セラレタル者
 及監禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經過セサルモノ
 但舊法ニ依リ施體ノ刑ニ處セラレタルモノハ總テ本文ノ例ニ準ス
 二 文官懲戒令又ハ官吏懲戒例其他懲罰令ニ依リ免職セラレ若クハ故ナク辭職シ滿二ケ年ヲ經過セサル者
 但掃除巡視免職又ハ辭職ノ場合モ本文ノ例ニ準ス
 三 身分不相應ノ負債アル者又ハ身代限りノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサルモノ及家資分散若シクハ破産ノ宣言ヲ受ケ其確定シタルトキヨリ復權ノ決定スルニ至ル迄ノ者
 四 酒癮アル者又ハ暴行ノ癖アル者
 第三條 掃除巡視體格ノ檢査ハ左ノ各號ノ一ニ適合スル者ヲ以テ合格トス
 一 體質善良ニシテ左ニ記載スル等ノ欲所ナキ者
 四肢完具セサル者但執筆把握ニ差支サル指ノ萎小彎曲強直等ノ類ハ此限リニアラス
 胸腺機關及腹内臟器若クハ皮膚病較著ノ疾病アル者
 較著疾病ニアラサルモ全身諸機關機能減衰ノ者服裝又ハ運動ニ不便ナル者
 發生物時形容容貌醜惡ナル者
 二 身幹五尺一寸以上ニシテ胸圍大約身長ノ半ニ等シク呼吸縮張ノ差一寸以上ノ者

三 兩眼共視力三分ノ二以上ニシテ辨色力完全ノ者
 四 精神完全ナル者即チ精神病及神經病(癡癡、癲狂、癡癡及舞蹈病、癩癩等ノ類)ナキモノ
 第四條 掃除巡視ノ試驗ハ左ノ各號ニ適合スル者ヲ以テ合格トス
 一 刑法刑事訴訟法衛生法規及地方制度等ノ大要ニ通スル者
 二 假名交リ論文及普通往復文ヲ作り得ル者
 第五條 掃除巡視ノ試驗ハ市町村長ニ於テ委員ヲ定メ之ヲ施行スヘシ
 第六條 掃除巡視ノ服務年限ハ滿三年トス 但採用ノ際證書ヲ差出サシムヘシ
 附 則
 第七條 本則ハ本年法律第三十一號ノ準用ヲ命セサル町村ニハ之ヲ施行セス
 ○掃除監督長掃除監督給額ノ件
 訓令甲第二十六號 (明治三十三年三月三十一日)
 郡 役 所
 市 役 所
 町 村 役 場
 掃除監督長掃除監督給額左ノ通り相定ム
 一 掃除監督長 月俸貳拾圓以上參拾圓以下
 二 掃除監督 月俸拾五圓以上貳拾圓以下
 三 掃除巡視 月俸六圓以上拾五圓以下
 ○掃除巡視服務紀律ノ件

訓令甲第二十七號 (明治三十三年三月三十一日)

郡役所
市役所
町村役場

○除巡視服務紀律左ノ通相定ム

掃除巡視服務紀律

- 第一條 掃除巡視ハ上司ノ命令ニ服従シ職務ノ本分ヲ盡クスヘシ
- 第二條 掃除巡視ハ職務ノ内外ヲ問ハズ廉恥ヲ重ンシ貪汚ノ所爲アルヘカラス
- 第三條 掃除巡視ノ上司ニ申告スル事件ハ毫モ虚構又ハ増飾ヲ爲スヘカラス
- 第四條 職務上見聞シタル事項ハ上司ニ申報スルノ外他ニ漏洩スヘカラス其職務ヲ退クニ於テモ亦同シ
- 第五條 凡ソ部民ヲ遇スルニハ専ラ懇切ヲ旨トシ權威ケ間敷所爲アルヘカラス
- 第六條 掃除巡視ハ上司ノ許可ヲ得ルニ非ラサレハ本職ノ外ニ給料又ハ報酬ヲ得他ノ事ニ關與スルコトヲ得ス
- 第七條 身分不相應ノ負債ヲ爲シ又ハ他人ノ金錢貸借等ノ受人證人トナルコトヲ得ス
- 第八條 掃除巡視ハ上司ノ許可ナクシテ人民ノ贈遺又ハ糞應ヲ受クヘカラス
- 第九條 契約期限内ハ父母疾病ニ罹リ他ニ侍養者ナク又ハ本人ヲ要セサレハ一家ヲ維持シ能ハサル場合ニアラサレハ辭職ヲ出願スルコトヲ得ス

○掃除監視吏員設置ノ件

訓令乙第十二號

(明治三十三年三月三十一日)

若松市役所

汚物掃除第五條ニ依リ其市ニ左ノ掃除監視吏員ヲ設置スヘシ

- 一 掃除監督二人
- 二 掃除巡視四人

○公立病院設置規則ノ件

縣令第三〇號

(明治二十九年三月)

- 第一條 公立病院ヲ設置セントスルトキハ其管理者ヨリ左ノ事項ヲ具備シタル書面ヲ以テ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ
- 一 病院ノ位置、名稱
- 二 院則
- 三 患者取扱手續、入院料、藥價、手術料等
- 四 院長、醫員、藥局員ノ住所、族籍、氏名、年齢及履歷書
- 五 院長以下職員ノ給料額
- 六 病院費ノ豫算及其細目
- 第二條 公立病院ハ左ノ資格ヲ具備スヘシ
- 一 院長ノ外醫員二名以上
- 二 藥局員一名以上
- 三 患者十名以上収容スヘキ病室

第三條 院長及醫員、藥局員ニ異動アルトキハ七日以内ニ縣廳ニ届出ツヘシ
但新任ノ者ハ其履歷書ヲ添付スヘシ

第四條 病院ノ位置、名稱、院則、構造等ヲ變更シタルトキハ其事由ヲ詳記シ
二週日以内ニ縣廳ニ届出ツヘシ

第五條 出張診察所ヲ設ケタルトキハ其郡町村番地及出張日時ヲ記載シ七日以
内ニ縣廳ニ届出ツヘシ

第六條 病院又ハ出張診察所ヲ廢止シタルトキハ其事由ヲ詳記シ七日以内ニ縣
廳ニ届出ツヘシ

第七條 本則ニ依リ差出スヘキ届書ハ總テ所轄郡役所ヲ經由スヘシ
附 則

第八條 明治十九年(三月)乙第二十四號公私立病院設置規則ハ本令施行ノ日ヨ
リ廢止ス

○醫師取締規則ノ件

縣令第四十九號 (明治三十三年六月二十五日)

明治二十九年(三月)縣令二十九號醫師取締規則左ノ通改正シ明治三十三年七月
一日ヨリ施行ス

醫師取締規則

第一條 醫師開業セントスルトキハ族稱、住所、氏名、年齢ヲ記載シ醫師開業
免狀ノ寫ヲ添ヘ開業三日以前ニ當廳ニ届出ツヘシ

第二條 醫師開業地ヲ轉シタルトキハ前住地及現住地ヲ記載シ七日以内ニ當廳
ニ届出ツヘシ

ニ届出ツヘシ

第三條 醫師分院又ハ出張所等ヲ設ケントスルトキハ醫師開業免狀ヲ所持スル
代理者ヲ置キ左ノ事項ヲ詳記シ代理者連署ノ上七日以内ニ當廳ニ届出ツヘシ

一、分院又ハ出張所々在ノ郡市町村番地
二、分院又ハ出張所へ出張ノ月日
三、業務代理者開業免狀寫

分院又ハ出張所等ヲ廢止シ又代理者ヲ解任シタルトキハ七日以内ニ當廳
ニ届出ツヘシ

本縣外ノ開業醫ニテ分院又ハ出張所ヲ設ケントスルトキハ其設置三日
前ニ族稱住所氏名、年齢及出張ノ場所並ニ出張ノ月日ヲ記載シ且ツ醫師開
業免狀寫ヲ添ヘ當廳ニ届出ツヘシ其廢止ニ係ルトキハ七日以内ニ其旨當
廳ニ届出ツヘシ

第四條 醫師免狀規則第八條第十條ニ依リ免狀ノ書換又ハ返納ヲ爲ストキハ其
事由ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ 但死亡ニ係ルトキハ其月日ヲ
届書ニ記載シ遺族ニ於テ本條ノ手續ヲ履行スヘシ

第五條 醫師ノ免許規則第五條ニ依リ醫術假開業免狀ヲ所持スル者ハ免許區域
外ニ於テ診察治療ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 醫師ハ處方錄ヲ備ヘ置キ施治患者ノ住所、氏名、年齢、病名、處方等
ヲ詳記スヘシ 但處方錄ハ十ヶ年間保存スヘシ

第七條 施治ノ患者死亡シタルトキハ左ノ諸件ヲ詳記シタル死亡届書又ハ施治

ノ患者ニアラステ死亡シタル者ナルトキハ檢案書ヲ其家人若クハ關係人ニ付與スヘシ

一 死亡者ノ住所、氏名、職業族稱、身分、年齢、戸主トノ續柄

二 死亡ノ年月日時

三 病類及病名

第八條 患者ヲ診察セスンテ投藥シ又ハ處方箋診斷書ヲ附與シ若クハ死体ヲ檢案セスンテ檢案書ヲ附與スルヲ得ス

第九條 醫師ノ治療ヲ受ケスシテ死亡シ又ハ妊娠四ヶ月以上ノ死産兒ニシテ檢案ヲ乞フ者アルトキハ故ナク檢案ヲ拒ミ又ハ檢案書ノ付與ヲ拒ムコトヲ得ス

第十條 屍體檢案上變死産胎ノ疑アルモノハ警察官ノ立會ヲ求ムヘシ

第十一條 施治ノ患者傳染病者ナルトキハ別ニ定ムル規則ニ據ルヘシ

第十二條 飲食物其他藥物ノ爲メ中毒セシ患者ヲ診察セントキハ左ノ諸件ヲ具シ直ニ當廳ニ届出ツヘシ

前項ノ患者轉歸シタルトキハ轉歸ノ年月日及轉歸ノ種別ヲ記載シ直ニ當廳ニ届出ツヘシ

一 中毒患者ノ住所氏名職業族稱年齢戸主トノ續柄

二 中毒ノ場所及中毒品名并ニ中毒シタ月日時

三 中毒者ノ症狀

四 飲食後直ニ中毒セシヤ否數人ニテ飲食セシモノナレハ悉ク中毒セシヤ否各一人飲食ノ量中毒品生煮燒ノ別中毒品ニ用ヒタル器物其他注意スヘキ事

項

第十三條 中毒品ニシテ其性状不明ナルモノハ患者届出ノ際現品ヲ添付差出スヘシ

第十四條 本則ニ依リ 出スヘキ願届等ハ所轄町村役場及郡市役所ヲ經由スヘシ

第十五條 本則第一條第二條第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背シタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○死亡診斷書死体檢案書醫師產婆ノ作爲スル死

產證書檢案書様式ノ件

縣令第九十九號 (明治三十三年十二月二十七日)

明治三十三年(九月)内務省令第四十一號ニ依リ來ル明治三十四年一月一日ヨリ醫師ノ作爲スヘキ死亡診斷書死体檢案書及醫師又ハ產婆ノ作爲スヘキ死産證書死胎檢案書ノ様式并ニ其記載方ハ左ノ各項ニ據ルヘシ

第一死亡診斷書、死体檢案書

様式

死亡診斷書(死体檢案書)

一 氏名

二 男女別

三 出生ノ年月日

- 四 職業(死亡者ノ職業家計ノ主ナル職業)
- 五 病死、自殺、其他ノ變死、中毒ノ別
- 六 病名(自殺者ニ在テハ手段、自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在リテハ種類)
- 七 發病ノ年月日(變死者自殺者等ニ在テハ之ヲ除ク)
- 八 死亡ノ年月日時
- 九 死亡ノ場所

右證明(檢案)候也

年月日

住所醫師 何

某印

記載方

- 一 戶籍上ノ氏名ヲ記スヘシ自殺者變死者等ニ在テ若シ氏名明ラカナラサルトキハ不詳ト記スヘシ
- 二 經久ノ死体ニシテ男女ノ區別明瞭ナラサルトキハ不詳ト記スヘシ
- 三 自殺者變死者等ニシテ出生ノ年月日明瞭ナラサルトキハ推定年齡何歲ト記シ若シ推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ
- 四 死亡者家計ノ主動者ナル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ノミヲ記シ死亡者若シ幼者、老者、婦女等ニシテ一定ノ職業ナキ場合ニ於テハ家計ノ主ナル職業ヲ記シ死亡者ノ職業ナシト記スヘシ又死亡者一定ノ職業アルモ他ニ家計ノ主動者アル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ト家計ノ主ナル職業トヲ併記スヘシ
- 五 病死ナルヤ自殺ナルヤ若クハ自殺以外ノ變死者ナルヤ中毒ナルヤ別ヲ記スヘシ

- 六 病死ノ場合ニ於テハ其死因トナリタル病名ノ外何等ノ事項ヲモ記スヘカラス
- 同時ニ二種以上ノ疾病ニ侵サレ死亡シタルモノニシテ一ノ原因アリテ他ハ繼發若クハ胎後病ナルトキハ其原病名ノミヲ記シ又各種獨立ノ疾病ナルトキハ主トシテ死亡ノ原因トナリタル病名ノミヲ記スヘシ若クハ以上ノ區別ヲ爲シ能ハサルトキハ各種ノ病名ヲ併記スヘシ
- 全ク死因タル病名ヲ推定シ能ハサルトキハ不詳ト記スヘシ
- 自殺者ニアリテハ其自殺ノ手段例令ハ縊死、刀傷、入水等ノ別ヲ記スヘシ自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ其種類例令ハ溺死、壓死、燒死、他殺河豚中毒「アルコール」中毒等ノ別ヲ記スヘシ
- 七 死亡者ニ在リテハ死因トナリタル疾病ノ發病年月日ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定何年何月何日ト記スヘシ又全ク推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ
- 八 死亡、自殺、變死、中毒ニ拘ハラズ死亡ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ自殺者變死者等ニ在テ死亡ノ時明瞭ナラサルトキハ推定セル年月日時ヲ記スヘシ
- 此ノ場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス
- 九 死亡ノ場所ハ郡市區町村大字名及番地(番戶番屋敷)ヲ記スヘシ若シ自殺者變死者等ニシテ漂着セル死体ナルトキハ其漂着シタル場所ヲ記スヘシ此場合ニハ其下ニ漂着ト記スルヲ要ス

第二死産證書、死胎檢案書

様式

死産證書（死胎検査書）

- 一 父ノ氏名（私生子ノ場合ニ在テハ母ノ氏名）
 - 二 父ノ出生年月日（私生子ノ場合ニ在テハ之ヲ除ク）
 - 三 母ノ出生ノ年月日
 - 四 父ノ職業（私生子ノ場合ニ在テハ）母ノ職業
 - 五 妊娠ノ月數
 - 六 分娩ノ年月日時
 - 七 分娩ノ場所
 - 八 死胎ノ男女ノ別
 - 九 死胎ノ嫡出子、庶子、私生子ノ別
- 右證明（検査）候也

年 月 日

住所醫師（産婆） 何 某印

記載方

- 一 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ氏名ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ氏名ヲ記スヘシ
- 二 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ
- 三 死胎ノ何タルニ不拘其母ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ
- 四 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ職業ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ職業ヲ記スヘシ

總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ

- 五 妊娠ノ月數ハ受孕ヨリ分娩ニ至ル妊娠ノ經過ニシテ死胎ハ約四週日ナ一月ト做シタル第幾月日ニ該當スルカヲ記スヘシ
- 六 分娩ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラザルトキハ推定シタル年月日時ヲ記スヘシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス
- 七 分娩ノ場所ハ郡市區町村大字名及番地（番戶番屋敷）ヲ記スヘシ
- 八 死胎ノ男女孰レニ屬スルカヲ記スヘシ若シ鬼胎等ニ在テ男女ノ區別ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ添テ不詳ト記スヘシ
- 九 死胎ハ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルカ若クハ私生子ナルカノ別ヲ記スヘシ

○開業醫組合規則ノ件

乙第四六號（明治十六年四月）

- 第一條 開業醫組合ハ其職業ニ關スル法律規則ヲ遵守シ各自其本業ノ義務ヲ盡サンカ爲メ之ヲ設クルモノトス
 - 第二條 組合區畫ハ便宜郡長ノ定ムル處ニ依ルヘシ
 - 第三條 開業醫ハ其地ノ組合ニ視ルルヲ得ス
 - 第四條 組合中ヨリ幹事一名乃至二名ヲ互選シ諸事ヲ掌理セシム（第四條ハ廿五年五月號ヲ以テ改正）
- 但組合區畫ノ都合ニ依リ幹事ノ増員ヲ要スルコトアルトキハ知事ノ認可ヲ得テ之ヲ増置スルコトヲ得

幹事ノ選ニ當リタル者ハ其旨郡役所チ經テ縣廳ヘ届出ツヘシ
 第五條 幹事ノ任期ハ一年トシ滿期毎ニ之チ改選ス 但前任者チ再選スルコト
 得
 第六條 幹事ハ組合委員チテ第一條ニ關スル業務上ニ付キ會合協議スルノ方
 法ヲ設クベシ
 第七條 幹事ハ組合現員チ毎年兩次七月郡役所チ經テ縣廳ヘ届出ツヘシ
 第八條 傳染病流行ノ兆アルトキハ組合ニ於テ豫防治療法ヲ協議シ郡役所チ經
 テ縣廳ニ具狀スヘシ
 第九條 他組合ニ於テ傳染病流行ノ兆アルチ發見セントキハ其組合幹事ニ商リ
 前條ノ協議ヲナスコトヲ得
 第十條 衛生上ノ利害得失ニ就キ意見アルトキハ之チ組合ノ衆議ニ附シ其公議
 ヲ以テ縣廳又ハ郡役所ヘ具狀スルヲ得
 第十一條 各組合協議ノ爲メ臨時幹事ノ聯合會ヲ開クコトヲ得 但會場及日時
 ハ其郡度郡役所チ經由テ縣廳ヘ届出ツヘシ
 第十二條 各組合申合セ規則ヲ設ケ郡長ノ認可ヲ受クヘシ
 第十三條 組合ニ係ル經費ハ渾テ其組ノ自辨タルヘシ 但別ニ支出方法ノ設ケ
 アルモノハ此限リニアラス

○死体解剖取締規則ノ件

縣令第二十號 (明治二十六年三月四日)
 死体解剖規則左之通相定ム

死体解剖取締規則

第一條 死体解剖ハ醫術研究ノ爲メ特ニ許可スルモノトス
 第二條 死体解剖ハ公私立病院及開業醫師ニアラサレハ之チ行フコトヲ得ス
 第三條 死体解剖チ行ハントスル者ハ全体若クハ局部及施行ノ場所日時ヲ記シ
 死者ノ遺言ヲ證明スヘキ書類又ハ尊族親ノ承諾書ヲ添ヘ郡役所ニ願出テ許可
 チ受クヘシ
 第四條 刑死者及在監中死亡セシ遺体ノ下付チ請フモノチキトキハ公立病院ニ
 於テ典獄又ハ監獄支署長ノ承認ヲ得テ之チ解剖スルコトヲ得 但刑死者及死
 亡者ニ於テ某私立病院又ハ某開業醫ニ對シ遺言セシモノハ本文ノ手續ニ依リ
 解剖スルコトヲ得
 第五條 解剖ハ死後二十四時間ヲ經過スルニアラサレハ之チ行フコトヲ得ス
 但刑死者ハ此限リニアラス
 第六條 解剖ハ關係官吏醫師醫學生及死者ニ關係アル親族ノ外參觀セザルコ
 トヲ得ス
 第七條 解剖ヲ終リタルトキハ解剖記事ヲ作り十日以内ニ縣廳ニ報告スヘシ
 第八條 第五條ニ違背シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢
 以上一圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス
 質疑
 醫學研究ノ爲メ小兒ノ死体チ亞兒簡保兒ニ浸漬シ貯藏スルハ不都合ナキモノ

ナルヤ

辨明

胎兒ノ死体ニ限リ殊ニ畸形ニシテ醫學上研究ノ資料トモ可相成モノハ其父母並ニ醫員熟識ノ上ハ縣知事ノ許可ヲ經テ貯漬スルハ不都合ナキ事ト思考セラ

質疑

監獄則ニ掲グル所ノ刑死者及死亡者ノ死体剖親後ノ取扱方如何

辨明

原体ニ修理セシ上ハ典獄ニ於テ監獄則第七十九條第二項ニ從ヒ假葬スヘキモノト思考ス

○産婆講習方標準ノ件

訓令第五號 (明治二十六年二月四日)

郡 役 所

町 村 役 場

産婆ノ業務タル衛生上緊要ノコトナルヲ以テ是迄一教師ヲシテ各郡ヲ巡回セシメ産婆講習ヲ施行シ來リタル所求ル二十六年度ヨリ此方法ヲ改メ産婆講習費トシテ郡役所ニ各金五拾圓下渡スヘク候條左ノ標準ニ依リ適宜ノ方法ヲ設ケ本年三月十五日迄ニ申報スヘシ

産婆講習方法標準

第一條 郡内便宜ノ地ニ産婆講習所ヲ設ケ現在ノ産婆營業者及將來ノ産婆志願

者ヲ講習セシムヘシ

第二條 講師ニ相當セル産婆ヲ選シ之ニ教務ヲ囑托スヘシ 但手當ハ適宜ニ定ムヘシ

第三條 町村衛生事業中ニ産婆講習ノ設ケアレカ若クハ私立産婆講習會ノ設ケアル郡ニ於テハ下渡金ヲ以テ之ニ第一條第二條ノ事務ヲ囑托スルコトヲ得

第四條 郡ノ狀況ニ依リテハ第一條第二條第三條ノ例ヲ用ヒス産婆講師トナスヘキ産婆養成ノ目的ヲ以テ帝國大學醫科大學第一醫院産婆養成所若クハ公立産婆學校ニ入學セシムルコトヲ得

此場合ニ於テハ相當ノ限ヲ定メ卒業ノ後部内ニ於テ講師ノ義務ヲ盡サシムヘシ

第五條 産婆講習所設置ノ申報ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

講習所設置方法

講習所設置ノ場所及講習ノ時期日數授業時間

講師ノ履歷及手當額

第六條 産婆講習ノ事務ヲ他ニ囑托スルトキノ申報ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

講習所若クハ講習會成立ノ來歴

講習ニ關スル締約書

講習ニ關スル諸規則

第七條 産婆學生養成ノ申報ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

産婆學生ノ履歷

産婆學生入學ノ場所
在學期限
産婆學生締約書
産婆學生給費額
第八條 産婆講習會ヲ終リタル後郡長ハ毎會其講習ノ景况及成績ヲ詳記シ縣廳ニ報告スヘシ
第九條 産婆講習費ハ郡長ニ於テ収支精算ヲ遂ケ翌年度四月三十日限り縣廳ニ報告スヘシ

○産婆試験出願人心得ノ件

縣令第六十一號 (明治三十二年九月二十七日)

産婆試験出願人心得左ノ通相定ム

但明治十三年九月縣令第三百三號産婆營業取締規則及明治二十九年三月告示第七十五號産婆試験執行指定ノ件廢止ス

産婆試験出願人心得

第一條 産婆試験出願ノ期日及舉行期日並其場所ハ三ヶ月前之ヲ告示スヘシ
第二條 産婆試験ヲ受ケントスル者ハ産婆試験規則第五條ニ依リ其願書ニ同則第六條ノ試験手数料ヲ貼付シ所轄郡市役所及町村役場ヲ經由シ縣廳ニ差出スヘシ
第三條 前條ノ願書ヲ受理セラレタル者ハ試験舉行ノ前日受験地ニ到着シ宿所氏名ヲ試験場ニ届出ツヘシ

第四條 産婆試験ノ學說試験ハ筆記トス

第五條 産婆試験願書ハ左ノ様式ニ據ルヘシ
(願書式用紙半紙)

産婆試験願

住所(寄留ナレハ原籍)族籍

氏名

生年月

右私儀何年何月何市(町村)ニ御奉行ノ産婆試験(又ハ實地試験)相受度依テ別紙書類相添此段奉願候也

右

本人 氏

名印

年月日

縣知事 宛

○産婆ガ死産ニ立會ヒタルトキ死体檢案書ヲ付與スル件

縣令第五號 (明治三十四年二月二十六日)

産婆妊娠四ヶ月以上ノ死産ニ立會タルトキハ死産證書又ハ戶籍法第三百三十六條ニ據リ家督相續人ト定メタル胎兒ノ死産ナルトキハ死体檢案書ヲ其家人若クハ關係人ニ付與スヘシ犯ス者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○鍼灸灸治營業取締規則ノ件

縣乙第四十九號 (明治十八年五月八日)

明治十三年(十一月)縣甲第一百十八號針灸灸治營業取締規則別紙ノ通り改正候此旨布達候事

(別紙)

針灸灸治營業取締規則

- 第一條 針灸灸治ノ業ハ營業證所持ノ者ニ非サレハ其術ヲ施スコトヲ許サス
- 第二條 針灸灸治ノ業ヲ營マント欲スル者ハ修學履歷書及ヒ師家ノ證明書ヲ添ヘ願出ヘシ
- 第三條 轉籍若クハ寄宿スルトキハ其旨届出ツベシ
- 第四條 營業證ヲ遺失毀損又ハ氏名變換シタルトキハ其事由ヲ詳記シ更ニ書換若クハ下渡ヲ願出ツベシ
- 第五條 醫師治療中ノ患者ニ對シテハ主治醫ノ承認ヲ受クルニ非サレハ施術スルヲ許サス
- 第六條 猥ニ施術ヲ勸メ又ハ患者ニ藥方ヲ示シ藥劑ヲ與フル等ノ所爲アルヘカラズ
- 第七條 重症ノ患者ニシテ未タ醫師ノ診察ヲ受ケサル者ヘハ施術スヘカラス
- 第八條 此規則ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラル、ノ外其營業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

針灸(灸治)營業願

今般針灸(灸治)營業仕度候間營業證御下渡被下度依テ履歷書及師家ノ證明書相添此段奉願候也

縣國郡町村番地身分 (寄留ナレハ本籍及寄留町村番地ヲ記スヘシ以下敬之)

氏名

年月生

衛生委員 氏名

戸長 氏名

縣令宛 履歷書

縣郡町村番地身分

氏名

年齡

何年何月ヨリ何年何月マテ何國郡町村醫師又ハ針灸灸治何之誰ニ從ヒ何年間修業云々逐次詳細記載スヘシ

右之通相違無之候也

年號月日

證明書

縣國郡町村番地身分

氏名

右之者何年月ヨリ何年月迄何月何日間私方ニ於テ何々學修業候條此段證明候也
縣國郡町村番地身分
醫師針灸治 氏 名

年 號 月 日

○入齒々抜口中療治接骨營業取締規則ノ件

縣乙第四十八號 (明治十八年五月八日)

入齒々抜口中療治接骨營業取締規則左ノ通相定候條從來營業ノ者ハ來ル六月三十日限リ願出ツベシ此旨布達候事

入齒々抜口中療治接骨營業取締規則

第一條 入齒々抜口中療治接骨ノ業ハ明治十六年第三十四號布達ニ依リ醫術開業試驗ヲ經ルニ非サレハ新ニ開業スルヲ許サズ

第二條 入齒々抜口中療治接骨從來營業ノ者ハ左式ノ願書ニ修學歷書相添ヘ願出ツヘシ

第三條 入齒々抜口中療治接骨ノ業ハ免許鑑札所持ノ者ニ非サレハ營業スルヲ許サズ

第四條 免許鑑札ヲ他人ニ貸渡スヘカラス且ツ營業ノ爲メ外出スルトキハ必ス之ヲ携帯スベシ

第五條 轉籍若シクハ寄留スルトキハ其旨届出ツヘシ 但廢業若シクハ他管内ニ轉籍寄留スルトキハ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第六條 免許鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ氏名變換セシトキハ其事由ヲ具シ更ニ鑑札書換若クハ下渡ヲ願出ツヘシ

第七條 各營業者ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一 猥ニ施術ヲ勸メ又ハ危險ナル手術ヲ施スヘカラス

一 劇毒藥配伍ノ藥劑ヲ用ユヘカラス

一 路頭ニ於テ營業スルヲ許サズ

一 接骨營業者ハ切斷術ヲ施スヲ許サズ

第八條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラル、外其營業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

第何號

縣國郡町村身分

氏 名

右 入齒 抜口 中療治 接骨 營業 免許 候事
年 月 日 福 島 縣 印

入齒 抜口 中療治 營業 願

私 儀

從來入齒何々營業罷在候處尙引續營業仕度候間免許鑑札御下附被成下度履歷書相添此段奉願候也

縣國郡町村番地身分

氏名
 衛生委員 氏名
 戶長 氏名

縣令宛
 履歷書

縣國郡町村番地身分
 氏名
 年 齡

一、何年何月ヨリ何年何月迄何誰ニ隨從何々學修業云々逐次記載スヘシ
 右ノ通相違無之候也

○賣藥規則公布ニ付其手續書及書式雛形ノ件

縣甲第三十號 (明治十年四月十五日)

本年一月太政官第七號ヲ以テ賣藥規則公布相成候處乙第三十二號內務省ヨリ別冊之通手續書及書式雛形通相成候條此旨布達候事

(別冊)

乙第三十二號

府 縣

本年一月太政官第七號賣藥規則公布相成候ニ就テハ左ノ手續書及書式雛形ニ照進取扱可申此旨相違候事

内務卿大久保利通代理

明治十年三月十二日

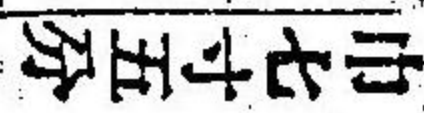
内務少輔 前 島 密

- 一 一昨明治八年七月以降當省ニ於テ下附候賣藥鑑札ハ追テ相違候迄免許發賣共當分書換爲類出ニ不及規則公布後相渡候鑑札同様相心得ヘシ
- 一 前條ノ鑑札所持ノモノ營業免許年季ハ其鑑札ニ記載ノ月ヨリ起算スヘク尤モ税金ノ儀ハ本年分ヨリ徵收スヘキニ付昨九年マテノ分ハ納メシムルニ及ハズ
- 一 但鑑札料ハ總テ上納爲致定期納附ノ節勘定帳ニ其區分ヲナスヘシ
- 一 營業鑑札請賣鑑札ハ所持人ノ居家ニ限リ營業ノ權アルモノニ付別戶支店等ニ於テハ別ニ其居住人ニ於テ鑑札ヲ所持スルニ非サレハ營業スルヲ得ヘカラス (明治十年七月十三日內務省乙第六十五號ヲ以テ本項追加)
- 一 前條營業鑑札所持ノ賣藥ヲ請賣又ハ行商營業致シ居候分來ル四月三十日マテニ悉皆爲願出鑑札交附取計フヘシ
- 一 明治八年七月以降本年一月規則發行前ノ鑑札所持ノ者本年六月マテニ廢業届出候分ハ特別ノ詮議ヲ以テ本年ニ限り前半期ノ税金ハ免除スベシ (同上)
- 一 賣藥營業者並ニ請賣者免許看板ハ左式ノ通り製セシムベシ

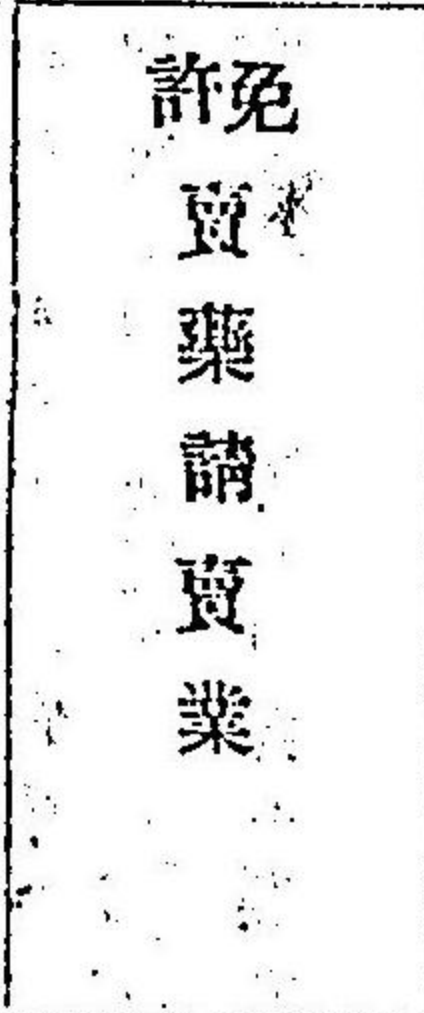
竪三尺

寸法同上

許免 賣藥營業



許免 賣藥請賣業



一 税金並ニ諸鑑札料納付ノ節ハ上納證ヲ添ユルノミニシテ勘定帳ハ一ケ年取
 束ネ毎年八月三十一日限リ該地差立大藏省租稅局へ進達スベシ(同上)
 但會計年度ノ都合モ有之本年一月ヨリ六月マテノ分ハ別牒ニ製シ八月三
 十一日限リ該地差立同局へ進達スベシ

一 行商鑑札ハ各管廳ニ於テ雛形ノ通之ヲ製シ願人ニ下付スベシ尤モ行商スル
 藥劑ハ其方名ヲ一々鑑札ニ記載スベシ
 但一人ニシテ數人ノ藥劑ヲ行商スルトキハ方數ニ拘ハラヌ營業者異ナル
 毎ニ鑑札ヲ別製シテ之ヲ渡スベシ

一 行商鑑札ヲ下付シタル分ハ其都度明細簿ニ登記シ置キ每半年分宛別ニ一本
 ヲ調製シ一月七月ノ兩度内務省ニ開申スベシ(十一月八日内務省達乙第七十
 ハサル旨
 達セラレ)

一 (明治十四年乙第五號寄達ヲ以テ
 行商鑑札製作費ノ一項ヲ削除ス)
 一 賣藥營業稅並諸鑑札料上納勘定帳雛形(明治十年七月十三日内務省乙第六十五號達ヲ以
 テ全項ヲ改正ス、會計法規ノ改正ニ依リ雛形削
 除ス)

賣藥營業願書式
 明治八年常省乙第九十八號達雛形ニ照準スベシ

賣藥願書雛形摘錄
 賣藥檢査御願
 一方名
 賣劑ノ量

何藥量目何程 何藥同 何藥同
 以上幾味調合或ハ丸散トシ幾貼ニ分チ或ハ幾粒トナシ幾粒ヲ一包トナシ一度或
 ハ一日ノ用量大人小兒ノ區別等其用法詳細
 一 主治功能詳細
 右ハ從來發賣渡世仕來リ候或ハ此度新ニ調製發賣仕度奉存候間御檢査ノ上御差
 支モ無御座候ハ、免許鑑札御下渡被下度依テ製劑相添此段奉願候也

府縣華士族或ハ平民
 大小區町村名番號
 本人 姓 名印
 醫務取締或ハ區戶長 姓 名印

年號月日

府縣長官姓名宛
 賣藥改正願書式 (用紙美濃紙)
 賣藥改正願

府縣大小區國郡町村番地
 族籍
 營業人 氏 名

一方名
 藥品 分量
 製法

用法 服量
功能

右者何年月日御檢査済鑑札御下渡營業仕候處今般何々ノ糜左記之改正仕度御差支無之候ハ、鑑札御書換被下度此段奉願候也
一改正ノ糜ヲ詳記スベシ

年月日

願 人 氏

名 印

區戸長或ハ醫務取締 氏

名 印

管轄廳長官氏名宛

賣藥請賣鑑札願書式 (用紙同上)

賣藥請賣願

一方名 一同 一同 一同

右營業人府縣大小區國郡町村番地

族 籍 氏 名

但營業者異ナレハ縱令一方タリトモ必ス各營業者ノ族籍住所氏名ヲ上ノ例ニ倣ヒ之ヲ區別シテ書記スベシ

右之賣藥幾方今般請賣仕度依テ別紙營業者へ御免許ノ御指令寫並ニ約定書相添此段奉願候也

年月日

府縣大小區國郡町村番地

名 印

管轄廳長官氏名宛

請賣願人族籍 氏

名 印

賣藥請賣約定書

一方名 一同 一同 一同

右ハ何某ノ官許ヲ得タル賣藥ニシテ今般何某請賣可致示談相整ヒ候ニ付請賣者ニ於テ請賣鑑札ヲ願受テ營業者ノ製關シタル賣藥ヲ取次販賣致スベシ然ル上ハ營業者賣藥免許期限内ハ總テ賣藥ニ關スル諸規則及御達ノ趣旨ヲ確守シ不正ノ所業致問取候依テ約定書如件

年月日

府縣大小區國郡町村番地

名 印

同

賣藥請賣人族籍 氏

名 印

賣藥營業鑑札並ニ請賣鑑札之^{遺失}毀^失之節書換願書式 (用紙同上)

賣藥營業鑑札^{遺失}或ハ賣藥請賣鑑札^{遺失}ニ付御書換願

府縣大小區國郡町村番地

賣藥營業人族籍 氏

名

一方名

賣藥請賣鑑札ナレハ左之通認ムベシ

府縣大小區國郡町村番地

賣藥營業人族籍 氏

名

一方名

右請賣人

同

族籍 氏 名

右ハ何年月（領略ヲ記スベシ）御下渡被下候（賣藥營業鑑札何月日何々ノ事故ニテ遺失

年月日

氏 名 印

或ハ受賣人

氏

名 印

區戶長或ハ醫務取扱

氏

名 印

管轄廳長官名宛

賣藥營業鑑札讓渡願書式（用紙同上）

賣藥營業鑑札讓渡願

府縣大小區國郡町村番地

營業人族籍

氏

名

一方名

藥品 分量

製法

用法 服量

功能

但賣藥數種アルハ上ノ例ニ從テ連署スベシ

右ハ何年月御検査濟鑑札御下渡營業仕候處今般府縣族籍何某（示談ノ上讓渡申

度依テ所持之鑑札御返納仕候間御書換被下度此段奉願候也

府縣大小區國郡町村番地

年月日

賣藥鑑札主氏

名 印

同

右讓受人族籍 氏 名 印

（鑑札主）ノ區長或ハ醫務取扱 氏 名 印

管轄廳長官氏名宛（但讓受人ノ管轄廳ニ出シ鑑札主ノ管轄廳ヘハ其旨届出ツベシ）

○醫藥用ト職工用トテ問ハス藥種商ハ毒藥劇

藥零賣不相成ノ件

告諭第二號 （明治廿四年五月二日）

明治二十二年法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第二十二條藥種商ハ毒藥劇藥ノ容器開キテ零賣スルコトヲ許サス然ルニ職工用者クハ繪具料トシテ販賣授與スルハ該法律ノ範圍外トナシ零賣スルモ妨ケナキ樣心得居候向モ有之哉ニ相聞ヒ右ハ藥種商トシテハ醫藥用ト職工用トテ向ハス零賣不相成義ニ付心得違無之樣注意スヘシ

○廢業ノ賣藥請賣者ニ限り販賣差許方ノ件

縣成衛百廿八號 （明治十三年十二月六日）

郡 役 所

賣藥營業者自己ノ都合ニ依リテ廢業ノスルモ其請賣人營業者ニ於テ尙殘餘ノ藥劑所持スル者有之節ハ營業人廢業ノ月ヨリ六ヶ月限り販賣爲致不苦候條爲心得

此旨相違候事

○家傳妙法ト唱ヒ自製ノ合藥施與不相成ノ件

縣甲第三百三十五號 (明治十三年十二月十一日)

家傳妙法ト唱ヒ自製ノ合藥ヲ衆庶ニ對シ施與候儀ハ不相成候條心得違無之樣可致此旨布達候事

但免許ヲ得タル賣藥ヲ相對施與スルハ此限ニアラス

○藥賣請賣定約書ニ印紙貼用方ノ件

訓令甲第四十七號 (明治三十二年七月四日)

郡役所
市役所

賣藥請賣定約書ハ賣藥規則第五條ニ依リ双方ノ契約ヲ證明スヘキ證書ナルナリテ該約定書ニハ自今印紙稅法ニ依リ印紙ヲ貼用セシムル義ト心得ヘシ

○家畜ノ治病藥劑ハ賣藥規則ニ依ルベキ達ノ件

縣甲第三百十六號 (明治十三年十月廿七日)

一般家畜類治病ニ用ユル藥劑ト雖モ能書等ヲ附シ廣ク販賣スル者ハ十一年一月第七號公布ニ照準賣藥營業免許ヲ受クベキ儀ニ付心得違無之樣可致此旨布達候事

○藥湯營業者心得方ノ件

縣甲第七十二號 (明治十一年八月廿四日)

藥湯營業之義ハ蒸氣浴海水浴並ニ天造溫泉ヲ運搬セシ如キ藥品ヲ配伍セサルモ

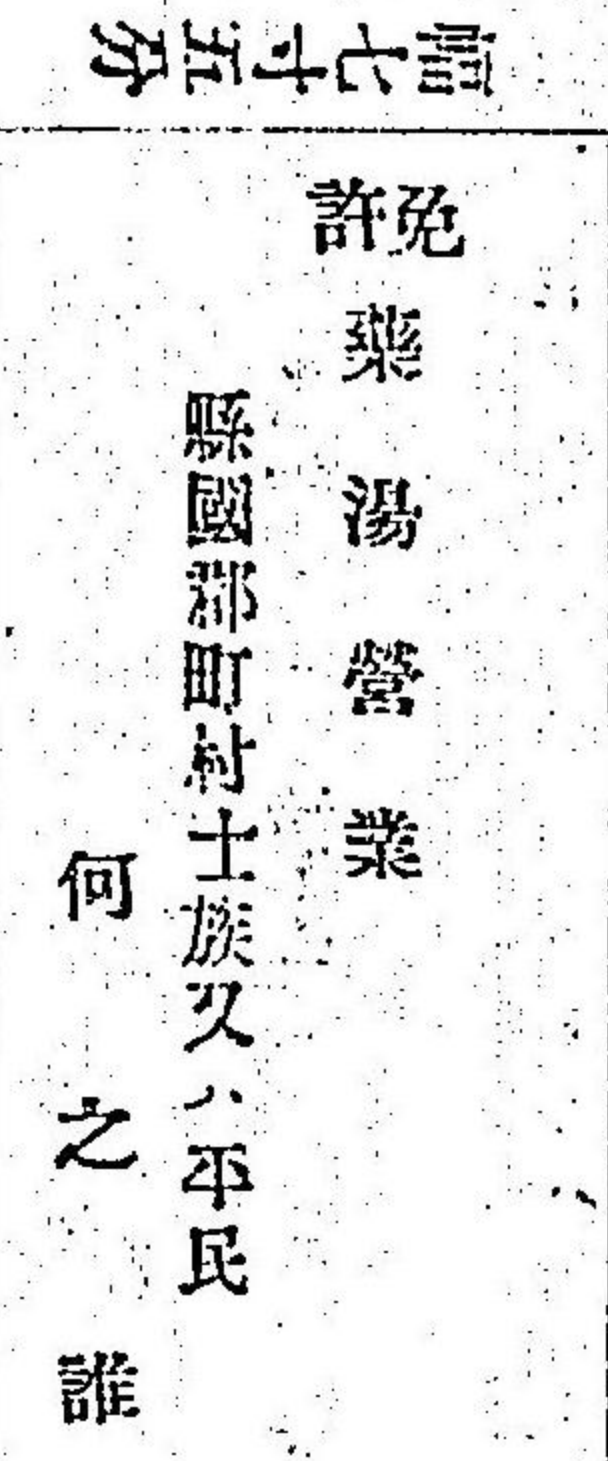
ノヲ除クノ外新規開業ハ勿論從來開業之者ソリモ薄テ賣藥規則ニ照準シ藥品功能溫度入浴數共詳細記載免許證札ヲ願受營業候義ト可相心得此旨布達候事

○藥湯營業者ノ看板書式及寸法ノ件

縣甲第三百一十一號 (明治十三年十一月二十四日)

藥湯營業之者ハ自今戶外ニ左ノ雛形ノ看板ヲ掲グヘシ

堅三 尺



○賣藥請賣營業者心得方ノ件

縣己第八號 (明治十四年七月二十六日)

郡役所 戶長役場
衛生委員事務取扱所

賣藥請賣營業者ニシテ其賣藥ヲ調製販賣候義ハ會テ無之筈ニ候得共或ハ發賣藥者ノ藥方分量ヲ傳リ調製候者萬一有之候バ、改正賣藥規則第三十三條ノ罰則ニ該ルヘキモノニ候條速ニ調製相止メ更ニ賣藥營業爲願出候様可取扱此旨相違候事

○賣藥營業期限廢止ニ付請賣行商者心得方ノ件

訓令甲第三百十四號 (明治二十年十一月二日)

郡 役 所

明治十九年十一月勅令第七十二號ヲ以テ賣藥營業期限廢セラレ候處賣藥營業者廢業ノ節請賣行商者ニ於テ所持スル該營業者ノ賣藥ハ從前之通其廢業後六ヶ月間販賣差許シ苦シカラズ

○賣藥發賣禁止ヲ受タルトキ請賣行商者心得方ノ件

縣甲第二十四號 (明治十四年三月三日)

賣藥營業者發賣禁止ヲ受ケタルトキ其請賣及行商者ニ於テ藥品ヲ所持スルモノハ營業人同様所辦郡役所ヲ經テ縣廳へ納付スベシ

○賣藥廢業又ハ禁止へ者取扱方ノ件

縣戊衛第六十五號 (明治十三年八月十四日)

郡 役 所

賣藥營業者廢業又ハ禁止セラレントキハ當廳衛生課ヨリ其郡度報告之筈ニハ候得共營業人ニ於テ其請賣及賣子ニ其旨相違候様該營業人共へ違方可取計此旨相違候事

追テ請賣者無之向ハ届書ハ其旨書添ヒ可爲差出事

○行商鑑札面記載方書式ノ件

縣令甲第六十六號 (明治二十一年六月十五日)

明治十年(四月)縣甲第卅號違中第六項行商鑑札表而記載方書式左ノ通り改定ス

賣藥營業者自ラ行商ノ分 賣藥營業者賣子ヲ派出シ行商セシムル分

賣藥行商許可之證

何廳府縣郡區町村族籍

賣藥營業者

氏 名

一方名 一方名 一方名

一方名 一方名

右行商開届候事

賣藥行商許可之證

何廳府縣郡區町村族籍

賣藥營業者

賣子 氏 名

一方名 一方名 一方名

一方名 一方名

右行商開届候事

賣藥請賣者自ラ行商ノ分

行商許可之證

何廳府縣郡區町村族籍

賣藥營業人 氏

何廳府縣郡區町村族籍

賣藥請賣營業氏

一方名 一方名 一方名

一方名 一方名

右行商開届候事

賣藥請賣者賣子ヲ派出シ行商セシムル分

賣藥行商許可之證

何廳府縣郡區町村族籍

賣藥營業人 氏

何廳府縣郡區町村族籍

賣藥請賣營業氏

賣 子 氏

一方名 一方名 一方名

一方名 一方名

右行商開届候事

裏

年月日

郡役所印

番
號

○賣藥行商鑑札ハ紙製トシ朱印ヲ捺スル事ノ件

縣訓令乙第二十三號 (明治二十六年五月三十日)

郡 役 所

行商鑑札ハ紙製トナシ朱印ヲ捺スベキ違賣藥行商鑑札ハ紙製トナシ朱印ヲ捺ス
ベシ

○轉籍鑑札書換願並廢業届雛形ノ件

縣甲第十一號 (明治十四年一月二十日)

賣藥營業願雛形等ノ義明治十年四月縣甲第三十號ヲ以テ布達及置候處尙轉籍鑑
札書換並ニ廢業届雛形別紙通相定メ候條此旨布達候事

(別紙)

移住ニ付賣藥鑑札書換願

何年何月日免許

一方名

何府縣何國何郡何町村番地士族平民
賣藥人 何 之 誰

一同

以下倣之

右ハ何府縣ニ於テ御免許之上營業罷在居候處今般都合ニヨリ御管下何郡何町村
番地(寄附)仕候間鑑札書換御渡被下度別紙鑑札相添ヘ奉頭候也

年 月 日
右願人 何 之 誰印
其移住セン處ノ衛生委員 何 之 誰印
同戶長 何 之 誰印

福島縣知事何某殿

轉居ニ付御届

何年何月日

一方名

一同

以下倣之

右ハ御免許之上營業罷在候處今般何府縣國郡町村番地(寄附)之上營業仕候間

此段御届仕候也

年月日

何國郡町村番地主族平民

何之誰印

右町村衛生委員何之誰印

同戸長何之誰印

福島縣知事何某殿

賣藥廢業御届

何年何月日免許

一方名

但請賣及行商營業約定候者(別紙之通)或ハ(無之候)

一同

但同

以下倣之

右營業罷在候處今般何々(廢業スル事故ヲ明記マヽ)ニ付廢業仕候間鑑札相添
又此段御届仕候也

年月日

何國郡町村番地主族平民

何之誰印

右町村衛生委員何之誰印

同戸長何之誰印

福島縣知事何某殿

賣藥請賣及行商約定者人名調

何府縣何國郡町村番地主族平民

請賣營業者 何之誰
或行商者 何之誰

一方名 一同 一同

一同 一同

以下倣之

右請賣行商候者取調候處相違無之候以上

年月日

賣藥營業者 何之誰

○賣藥鑑札商面月日記入方ノ件

縣戊寅第十號 (明治十四年二月二十日)

郡 役 所

賣藥營業鑑札面月日ノ義ハ是迄當應ニ於テ記載下渡來候處自今石月日ヲ記載セ
又送達候條其應ニ於テ記入營業人ハ交附ノ鑑札領取證一同記入ノ月日可届出此
旨相違候事

○請賣鑑札割印方ノ件

縣戊寅第百十九號 (明治十三年十一月二十日)

郡 役 所

賣藥請賣營業免許鑑札上端割印之義ハ郡役所印ヲ可用此旨相違候事

○諸賣行商鑑札郡役所名記載方ノ件

縣戊寅第七十六號 (明治十二年六月二十日)

郡 役 所

賣藥請賣并行商鑑札ノ義ハ表裏面捺印之上衛生課ヨリ交附致來リ候處來ル七月一日ヨリ郡役所名ヲ記載シ下付可致此旨相達候事
但本文取扱方之義ハ本年二月戊衛第二號演說達之通ト可相心得事

○雜藥販賣取締規則ノ件

縣乙第百八號 (明治十八年十月一日)

雜藥販賣取締規則別紙之通相定候條此旨布達候事
但此規則ニ牴觸スル從前ノ違及指令等ハ廢止ス

(別紙) 雜藥販賣取締規則

第一條 此規則ニ稱スル雜藥トハ防臭及食物ノ防腐鼠蠅虱蚤蚊等驅除ノ目的ヲ以テ調製シタルモノヲ云フ

第二條 免許證所持ノ者ニアラサレハ雜藥販賣スルヲ許サズ

第三條 雜藥ヲ製造販賣セント欲スル者ハ方名藥味分量製法用法用分量功能ヲ詳記シタル第一號書式ノ願書ニ藥品製造品相添ヒ免許ノ證ヲ受クヘシ

第四條 前條願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品取扱上失誤ヲ失シ易キモノハ一切之レヲ許サズ

第五條 免許ノ藥劑ト雖トモ其藥味分量製法用法用分量功能ヲ改正セント欲スルトキハ第二號書式ノ願書ニ藥品製造品相添ヒ許可ヲ受クヘシ

但方名ヲ改正セント欲スルトキハ舊免許證ヲ返納シ更ニ免許證ヲ受クヘシ

第六條 雜藥ヲ請賣セント欲スル者ハ第三號書式ノ願書ニ製造人所持ノ免許證寫ヲ添ヒ請賣免許證ヲ受クヘシ

但他管下ノ者ヨリ請賣セント欲スル者ハ本文ニ準スヘト雖トモ其證ナキ者ハ第三條ノ手續ニ依ルヘシ

第七條 製造人又ハ請賣人ニ於テ自ラ行商シ或ハ賣子ヲ行商ナサシメメント欲スル者ハ更ニ行商免許證ヲ願受行商ノ際ハ之ヲ携帯スヘシ

第八條 免許ノ雜藥ト雖モ有害品ナルヲ更ニ發見スルトキハ直ニ發賣ヲ禁止スルコトアルヘシ

第九條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラルトキハ其請賣者及賣子共其販賣ヲ許サズ

但此場合ニ於テハ營業者ハ勿論其請賣者及行商者ニ於テモ總テ鑑札ヲ返納スヘシ

第十條 免許證ハ賣買貸渡讓與スルヲ許サズ

第十一條 廢業或ハ他管下ヘ轉籍寄留セントスルトキハ免許證ヲ返納スヘシ
但本文ノ場合ニ於テハ製造人ハ請賣行商請賣者ハ行商者ノ住所姓名ヲ記載シ届出ツヘシ尤モ無之節モ其旨届出ツヘシ

第十二條 相續人ニ於テ營業ヲ繼續セント欲スル者ハ其旨願出免許證書換ナヒフヘシ

第十三條 免許證ヲ遺失毀損スルカ又ハ他町村ニ轉居或ハ改姓名ヲナシタルト

キハ其事由ヲ記シ免許證下付又ハ書換ヲ願出ツヘシ

第十四條 此規則第二條第五條第六條第七條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ處分セラルベシ

第一號書式 雜藥検査願

一方名 藥味 分量
製法 用法
用量
功能

右雜藥販賣仕度候間御検査之上召許証御下渡被成下度藥品相添ヒ此段奉願候也

何郡何町村何番地居住族籍

年月日

戶長 氏 名印

第二號書式 雜藥改正願

一方名

藥味 分量

製法 用法

用量

功能

右明治何年何月何日御検査為許証御下渡營業仕居候處今般藥味分量製法用法用
量功能左之通改正仕度候間御許可被成下度依テ藥品相添ヒ此段奉願候也

藥味 分量 製法 用法 用量 功能

(署名書式第一號式ニ同シ)

第三號書式

雜藥行商願

一方名 一方名

何府縣何郡町村番地族籍

右雜藥發賣者 氏 名

肩書同上

右雜藥發賣者 氏 名

右雜藥何方 請覽 仕度依テ別紙雜藥發賣者所持ノ免許証寫相添ヒ此段奉願候也

何郡何町村何番地族籍

年月日

戶長 氏 名印

縣令宛

○藥種商并製藥者取締細則

縣令第十六號 (明治二十二年二月五日)

藥種商并製造者取締細則左之通相定ム

藥種商并製造者取締細則

第一條 藥種商製造者免許証鑑札ヲ受ケントスル者ハ族籍住所氏名ヲ詳記シ縣廳

ニ願出ツヘシ

第二條 藥種商製造者免許証鑑札ヲ毀損シ失シ又ハ族籍氏名ヲ變換シタルトキ

ハ其事由ヲ記シ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ縣廳ニ願出ツヘシ
 第三條 藥種商製造者廢業死亡又ハ他府縣へ轉住セントスルハ免許鑑札ヲ縣廳ニ返納スヘシ
 第四條 藥種商製造者管内ニ於テ他町村ニ轉住スルトキハ其旨前住地ヨリ縣廳ニ届出尙現住地所轄郡役所ニ届出ツヘシ
 第五條 藥種商ニ於テ一容器ノ藥品ヲ更ニ數容器ニ分ツトキハ其分テタル容器ニ製造者(藥品製造會社ナレハ其所在地名及會社名)若クハ外國藥品取引人ノ住所氏名ト自己ノ住所氏名トヲ併記スヘシ
 但毒藥劇藥ハ封緘ヲ開キテ小分スルコトヲ得ス
 第六條 藥種商ニ於テ數容器ニ分テタル藥品又ハ製造者自己ノ藥品ニハ其容器ニ一定ノ封緘ヲナスヘシ
 但衛生試驗所ノ検査印紙ヲ附付シタル者ハ此限ニアラス
 第七條 藥種商製造者ニ於テ使用スル封緘用印紙ノ衛生試驗所検査印紙ニ紛ハレキ者ト認ムルトキハ改訂ヲ命ヘルコトアルヘシ
 第八條 藥種商製藥者ハ醫藥用品ト醫藥用外品トヲ區別シ置クヘシ
 第九條 製藥者ハ毎年製造及販賣セシ藥品ノ種類量數ヲ統計シ製表ノ上翌年一月三十一日限縣廳ニ届出ツヘシ
 第十條 藥種商製藥者ハ左式ノ商標ヲ店頭ニ掲クヘシ
 第十一條 藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品販賣及製造ノ業ヲ營マントスル者ハ第一條ノ免許鑑札ヲ受クルニ及ハスト雖トモ該條ニ準シ届出其他第八

<p>條第九條ヲ遵守スヘシ 第十二條 第五條第六條第八條ニ違背シ又ハ第七條ノ命令ニ違ハサル者并ニ第十一條藥劑師ニシテ第八條ヲ遵守セサル者ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス 第十三條 前數條ノ願届書ハ所轄郡役所ヲ經由シ差出スヘシ 第十四條 此細則施行以前ニ於テ内務省ヨリ製藥免許鑑札ヲ受ケタルモノハ此細則ニ依リ更ニ免許鑑札ヲ受ケヘシ 第十五條 此細則施行 前ニ於テ當廳ヨリ附與シタル藥種商免許鑑札ハ有効ノモノトス 第十六條 此細則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス 第十七條 明治十四年七月本縣甲第七十九號布達製藥營業者取締及試驗規則明治十六年十二月本縣乙第百卅四號布達製藥規則ハ此細則施行ノ日ヨリ廢止ス</p> <p>二尺五寸</p>	<p>鑑札番號</p> <p>八寸 官製藥者</p> <p>八寸 許製藥者</p> <p>縣郡町村番地</p> <p>氏名</p>	<p>鑑札番號</p> <p>八寸 官藥種商</p> <p>八寸 許藥種商</p> <p>縣郡町村番地</p> <p>氏名</p>
--	---	---

○藥舖及藥種商者藥品攜帶行商不相成ノ件

縣令甲第八十號 (明治二十年五月十八日)
藥舖及藥種商免許營業者ト雖トモ藥品攜帶シ行商候儀ハ相成ラザル義ニ候條右心得違ノ者無之様堅ク相心得ヘシ

○阿片製造及卸賣手續ノ件

縣令第四十號 (明治三十年四月八日)
阿片製造及卸賣手續左ノ通相定ム 但明治二十三年六月令違乙第三十四號藥用阿片受拂手續ハ廢止ス

阿片製造及卸賣手續

- 第一條 阿片法第一條ニ依リ阿片製造ノ許可ヲ受ケントスル者ハ族籍、住所、職業、氏名、年齢ヲ詳記シタル願書ヲ縣廳ニ差出シヘシ
- 第二條 阿片法第二條ニ依リ阿片ヲ納付セントスル者ハ第一書式ノ納付書ニ現品ヲ添ヘ毎年十二月十日迄ニ縣廳ニ差出スヘシ
- 第三條 阿片法施行規則第三條ニ依リ卸賣人阿片ノ拂下ヲ受ケントスルトキハ上半期(四月ヨリ九月迄)ハ某年三月中下半年(十月ヨリ翌年三月迄)ハ其年九月中第二號書式ニ依リタル請求書ヲ縣廳ニ差出スヘシ
- 第四條 卸賣人ハ拂下クル阿片ハ當廳ヨリ直ニ本人ニ向ケ發送スルヲ以テ現品受領ノ上ハ明治三十年三月内務省告示第三十號ノ價格ニ依リ本品ニ相當スル代價ヲ納入告知書ニ依リ上納スヘシ 但本人當廳ニ出頭受領スル場合ハ此限

ニアラス

第五條 第四條ノ拂下ヲ爲シタルトキハ當廳ヨリ通知ヲ發スルニ依リ郡役所ニ於テハ明治二十六年十二月訓令乙第三十九號ニ依リ拂下代金收納ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 阿片施行規則第四條阿片卸賣人ノ看板ハ左式ニ依ル可シ

阿片卸賣所

縣國郡町(村)	某
---------	---

第七條 阿片法施行規則第五條ノ既製ノ阿片納付書又ハ販賣餘買戻請求書ハ第三號書式ニ依リ調製シ縣廳ニ差出ス可シ

第八條 阿片法施行規則第八條ニ依リ藥劑師藥種商ノ備フヘキ帳簿ハ第四號書式ニ依ル可シ

第九條 阿片法施行規則第九條ニ依リ卸賣人ヨリ差出ス可キ阿片賣拂表ハ第五號書式ニ依リ調製シ翌年四月十五日迄ニ縣廳ニ差出ス可シ

第十條 前各條ニ依リ製造人又ハ卸賣人ヨリ差出スヘキ願届等ハ總テ所轄郡役所ヲ經由スヘシ

(第一號書式)

阿片納付書

一阿片 量目何程
右納付候也

住 所

阿片製造人

某印

年 月 日

內務省御中

(第二號書式)

藥用阿片下請求書

一藥用阿片 何久入 何個

右本年度上半年期販賣見込高二候間御拂下相成度此段及請求候也

住 所

藥用阿片卸賣人

某印

年 月 日

福島縣應御中

(第三號書式ノ一)

阿片納付書

一阿片 量目何程

右免許製造人某廢業(死亡)ニ付既製品納付候也

住 所

戶主(相續人)

某印

年 月 日

內務省御中

(第三號書式ノ二)

藥用阿片買戻請求書

一藥用阿片 何久入 何邊

右卸賣人某今般廢業(死亡)ニ付御買戻相成度此段及請求候也

住 所

戶主(相續人)

某印

年 月 日

內務省御中

(第四號書式)

表

明治何年度藥用阿片受拂簿

縣郡町(村)大字何字何々番地

藥劑師(藥種商) 某

買受ノ部

買受年月日	百分中モルヒ子 含 量	容器種類	員數	收入元賣渡人
何年何月何日	何乃至何々	何久入	何邊	住 所 職 業 氏 名
				郡町村 字番地
				卸賣人又ハ 藥劑師藥種商
				某

賣拂ノ部			
賣拂年月日	百分中モルヒ子 含	容器種類	數量
何年何月何日	何乃至何々	何々入	何處又ハ 何處ハ
(第五號書式)			
藥用阿片賣拂表進達ニ付添申			
明治何年度藥用阿片受拂表別紙ノ通調製仕候ニ付此段添申候也			
年月日		住	所
福島縣知事宛		藥用阿片卸賣人	藥劑師又ハ藥種商
			某

紙	表
明治何年度藥用阿片受拂表	縣郡町(村)大字何字何々番地 藥用阿片卸賣人 藥劑師又ハ藥種商 某

拂受年月日	百分中モルヒ子 含	容器種類	員	數	拂受代	價

前年度ヨリ越高等	何乃至何々	何々入	何	壘	金何圓何拾錢
何年何月何日	同	同	同	同	同
賣拂ノ具					
賣拂年月日	百分中モルヒ子 含	容器種類員	數代	價	買入人 住
何年何月何日	何乃至何々	何々入何	壘	何圓何拾錢	國郡町 番地
受拂差引殘					
藥用阿片何壘 明治何年何月何日現在高					
內	何々入	何壘			
	何々入	何壘			
前書ノ通相違無之候也					
年月日		縣郡町(村)大字何字何々番地			
		藥用阿片卸賣人 藥劑師又ハ藥種商			
					某

○阿片卸賣人指定ノ件

告示第八十二號 (明治三十年四月八日)

本年三月法律第二十七號阿片法第五條ニ依リ後記ノ者阿片卸賣人ニ指定ス

- | | | | |
|------|------|---|------|
| 信夫郡 | 福島町 | 庄 | 司市郎 |
| 安達郡 | 二本松町 | 水 | 井長藏 |
| 安積郡 | 郡山町 | 根 | 本祐太郎 |
| 岩瀨郡 | 須賀川町 | 伊 | 藤仲兵衛 |
| 北會津郡 | 若松町 | 仲 | 野恭平 |
| 同 | | 森 | 川善兵衛 |
| 石城郡 | 平町 | 鈴 | 木堅助 |
| 西白河郡 | 白河町 | 安 | 田平助 |

○牛乳營業取締施行規則ノ件

縣令第四十六號 (明治三十三年六月二十五日)

明治二十五年三月縣令第十三號牛乳搾取及販賣取締規則左ノ通改正シ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス

牛乳營業取締施行規則

- 第一條 明治三十三年四月内務省令第十五號牛乳營業取締規則第二條第二號ノ牛乳脂肪含量ハ全乳ニ在リテハ百分中一、七分以上脱脂乳ニ在リテハ百分中〇、五分以上トス
- 第二條 牛乳搾取ノ業ヲ營マントスルモノハ其願書ニ設備ノ概略ヲ記シ且ツ其場所ノ位置構造及ヒ近傍ノ圖面ヲ添ヘ當廳ニ願出ル札ヲ受クヘシ
- 第三條 牛乳搾取場ニハ牛舎運動場及牛乳畜場ヲ設置スヘシ
- 第四條 牛搾乳場ノ位置構造ハ左ノ規程ニ據ルヘシ
 - 一 牛乳搾取場ハ土地乾燥ニシテ人家及飲料ホチ距離十五間以上トス
 - 二 牛舎ハ一頭毎ニ一區畫ヲ設ケ横幅五尺奥行八尺以上トス
 - 三 牛舎ノ地盤ハ石、煉瓦石、漆喰又ハ一寸以上ノ厚板等ヲ用ヒ陶器又ハ堅牢ナル木製等ノ屎樋ヲ布設シ且ツ適當ナル勾配ヲ付シ糞尿ノ疏通ニ便ナラシムルヘシ
 - 四 運動場ノ周圍ニハ堅固ナル土手、柵又ハ塙塙ヲ設クヘシ
 - 五 乳牛置場ハ不潔物混入ノ虞ナキ樣構造ヲ爲スヘシ
 - 六 糞尿溜若クハ不潔物溜ハ牛乳置場ニ接近セサル位置ニ之ヲ設クヘシ其構造ハ陶器漆喰又ハ堅牢ナル桶類ヲ用ヒ蓋及適當ノ雨除ヲ設クヘシ
- 第五條 乳製品製造ノ業ヲ營マントスル者ハ其願書ニ設備ノ概略(製造器械ノ名稱)等ヲ記シ且ツ其場所ノ位置構造圖面ヲ添ヘ當廳ニ願出ル札ヲ受クヘシ但牛乳搾取場内ニ於テ製造ヲ爲サントスル者亦本條ニ同シ
- 第六條 牛乳搾取場及乳製品製造場ノ全部若クハ一部ノ位置構造ヲ變更セントスルトキハ其願書ニ圖面ヲ添ヘ當廳ニ願出認可ヲ受クヘシ
- 第七條 牛乳搾取場又ハ乳製品製造場ノ新設若クハ變更ノ工事落成レタル時ハ所轄警察官署ニ届出テ検査ヲ受ケルヘシ其検査ヲ受ケサル時ハ使用ルコトヲ得ス
- 第八條 牛乳搾取場又ハ乳製品製造場少クモ毎日一回以上掃除スヘシ

第九條 牛乳搾取場ニハ乳牛及犍牛（乳牛出產ノモノ）ノ外他ノ獸畜ヲ飼養スルコトヲ得ス

第十條 乳牛及犍牛ハ獸醫ノ診斷ヲ受ケ其健牛タルノ證明アルモノニアラサレハ牛舎運動場又ハ搾取所内ニ入ラシムルコトヲ得ス

第十一條 明治三十三年四月内務省令第十五號牛乳營業取締規則第五條第一號ニ該當スル病牛ナルトキハ直ニ他所ニ移シ健牛ト離隔スヘシ

第十二條 牛乳配布ノ容器及牛乳器ハ使用前一旦煮沸シタルモノニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第十三條 牛乳搾取場ニハ第一號書式ノ牛籍簿ヲ備ヘ置キ其種類產地年齡毛色等ヲ記載シ置クヘシ畜牛ニ増減アリタルトキハ牛籍簿ヲ加除シ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ 但乳牛ノ増加シタルトキハ獸醫ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十四條 牛乳ノ請買ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署ニ願出鑑札ヲ受クヘシ 但其願書ニハ牛乳搾取業者ノ連署ヲ要ス

第十五條 牛乳搾取又ハ乳製品製造業者廢業若クハ本縣外ニ轉居セントスルトキハ鑑札ヲ添ヘ其旨直ニ當廳ニ届出ツヘシ請買者本項ニ該當スルトキハ鑑札ヲ添其旨直ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第十六條 牛乳搾取又ハ乳製品製造業者ニ於テ鑑札ヲ遺失紛失若クハ毀損スルカ又ハ轉居若クハ氏名ヲ變更シタルトキハ五日以内ニ當廳ニ願出鑑札ノ再渡若クハ書換ヲ受クヘシ請買者本項ニ該當スルトキハ所轄警察署ニ願出其手續ヲ爲スヘシ

續チ爲スヘシ

第十七條 牛乳搾取及乳製品製造業者又ハ牛乳請買業者ハ店頭若クハ門戸ニ第二號書式ノ看板ヲ掲出スヘシ

第十八條 乳牛中明治三十三年内務省令第十五號牛乳營業取締規則第五條第一號ニ該當スル病牛アリタルトキハ當該官吏又ハ衛生技術員ノ指示ニヨリ其角ニ番號若クハ符號ヲ烙記シ又ハ其耳朶ニ番號若クハ符號ヲ記セル耳鑑ヲ付スヘシ

第十九條 牛乳營業者ハ雇人ト否トナ問ハス牛乳又乳製品若クハ其容器量器ノ取扱ヲ爲ストキハ純白ナル被服ヲ纏フヘシ 但場外ニ於テハ此限ニアラス

第二十條 本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ願書ハ所轄警察官署ヲ經由ヘシ

第二十一條 本則第六條第八條第九條第十條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條及第十九條ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第一號書式

表
牛 籍 簿
牛乳搾取營業人住所
氏 名

用紙半紙

第 一 種 類 名 稱	何 何	第 一 種 類 毛 色	第 一 種 類 產 地	第 一 種 類 年 齡	第 一 種 類 特 殊 標 記	第 一 種 類 廢 止 年 月 日	第 一 種 類 備 考	住 所	第 一 種 類 持 主 名
牛乳搾取(乳製品製造)營業	住 氏 所 名	牛乳受賣營業	住 氏 所 名	三 尺			年 月 日 年 月 日	年 月 日 年 月 日	年 月 日 年 月 日
							年 月 日 年 月 日	年 月 日 年 月 日	年 月 日 年 月 日
							年 月 日 年 月 日	年 月 日 年 月 日	年 月 日 年 月 日
							年 月 日 年 月 日	年 月 日 年 月 日	年 月 日 年 月 日
							年 月 日 年 月 日	年 月 日 年 月 日	年 月 日 年 月 日

訓示第二一號 (明治三十三年八月二十五日) (警 部 長)

牛乳營業取締施行規則取扱手續ノ件
牛乳營業取締施行規則取扱手續

- 第一條** 牛乳營業取締施行規則第二條第五條及第六條ノ願書ヲ受理シタルトキハ牛乳搾取場ニ在リテハ同則第四條各號乳製品製造場ニ在テハ添付ノ圖面ニ依リ臨檢調査ヲ遂ケ意見ヲ付シテ進達スヘシ
- 第二條** 搾取場ノ新設又ハ變更ヲ願出タルトキハ將來牛乳營業取締規則第四條第一號ノ距離内ニ人家及飲料水等建設セサル地ヲ撰定セシムヘシ
- 第三條** 牛乳營業取締施行規則第七條ニ依リ落成届出タルトキハ牛乳搾取場ニ在テハ同則第四條各號乳製品製造場ニ在テハ願書ニ添付ノ圖面ニ適合スルヤ否臨檢調査ヲ不都合ナキモノハ口頭ヲ以テ認可スヘシ
- 第四條** 明治三十三年四月内務省令第十五號牛乳營業取締規則第五條第一號ノ病牛アリタルトキハ施行規則第十一條及第十八條ノ手續ヲ履行シ速ニ其實情ヲ報告スヘシ
- 第五條** 牛乳營業取締施行規則第十四條ノ願出アリタルトキハ第一號書式ノ免許証ヲ下附スヘシ
- 第六條** 明治三十三年四月内務省令第十五號牛乳營業取締規則第十五條ニ該當スルモノアルトキハ速ニ其實情ヲ知事ニ具申シ指揮ヲ受クヘシ
- 第七條** 警察官吏ハ委託獸醫ヲ立會ハセ毎月一回以上營業者ノ店舗又ハ其他ノ場所ニ臨ミ左ノ事項ヲ檢査スヘシ
- 畜牛ニ異動アルトキハ牛籍簿ニ檢印スヘシ
- 一 牛籍簿ノ整理シアルヤ否

- 二 乳汁ノ長否
 - 三 乳汁容器ノ適否
 - 四 搾取場及乳製品製造場ノ掃除行届キ居ルヤ否
 - 五 白衣ヲ設備シアルヤ否
 - 六 結核病、癩病、梅毒及傳染病ニ罹レル者牛乳、乳製品、容器、量器ノ取扱ヲ爲シ居ラサルヤ否
 - 七 畜牛ニ病牛ナキヤ否
 - 八 病牛ニ付シタル耳鐐又ハ烙印ヲ消除セサルヤ否
- 其他規則ニ基キ注意スヘキ事項
- 第八條 警察官署ニハ第二號書式ノ牛乳營業者臺帳ヲ調製シ異動アル毎ニ加除スヘシ

第一號書式

<p>表</p> <p>福島縣 國郡市 大字 字 番地 氏名 年 齡</p> <p>牛乳請賣營業免許証</p>	<p>裏</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>福島縣何警察(分)署</p> <p>第 號</p>
---	---

第二號書式	
番號	第 號
許可	明治 年 月 日
轉居	明治 年 月 日
改氏名	明治 年 月 日
廢業	明治 年 月 日
備 考	
牛乳營業者又ハ乳製品製造營業者住所氏名年齢	
牛乳請賣營業者住所氏名年齢	

記載例

各營業者ハ口譯トナスヘシ

番號ハ各營業者別ニ起號スヘシ

牛乳請賣者ニ係ルトキハ牛乳營業者ノ住所氏名ヲ前欄ニ記載スヘシ

○乳汁檢查成績表樣式ノ件

訓示第三八號 (明治三十三年十二月五日) (警部長)

乳汁檢查ノ成績ハ左記樣式ニ依リ取調翌月五日限リ報告スヘシ
但明治三十一年二月訓示第一五號ハ之ヲ廢止ス
(樣式)

乳汁檢查成績表

檢查日期	場所	検査者 官職姓名	全乳又 乳ノ別	比重	脂肪含量	飲料ニ 不適量		營業者 住所氏名
						乳量	量	

備考 營業者某乳牛何頭此搾乳高何程
右及報告候也
年 月 日

警察署長又ハ分署長名

警部長宛

○牛乳檢查用藥品器具保存注意方ノ件

衛生第二四六二號 (明治三十三年十月十二日) (衛生課長)

牛乳檢查用藥品及器具保存方注意周到ナラサル爲メ藥品ノ性分揮發セシメ或ハ
器具破損シ使用シ能ハサルニ至ルモノ往々有之候條左記ノ各項ニ依リ取扱方注

意相成度依命此段及通牒候也

- 一 エーテルハ揮發シ易キヲ以テ密栓シ冷暗處ニ貯フルコト
- 一 沌酒精ハ(九十乃至九十二プロセント含量)揮發性强キヲ以テ密栓シ貯フルコト
- 一 エーテル及アルコールハ三四回使用丈テ其口小瓶ニ移シ使用スルコト
- 一 ニーテルヲ容ルヘキ小瓶ハ周圍ニ黒紙ヲ貼用スルコト
- 一 苛性加里ハ溶解シ易キヲ以テ能ク密栓シ貯フルコト
- 一 苛性加里溶液ハ豫メ「二十五プロセント」ニ溶解シ其口小瓶ニ入レ置クコト
- 一 牛乳檢查用器ハ適宜ノ箱ヲ調製シ入レ置クコト
- 一 牛乳檢查用器ハ破損シ易キヲ以テ叮嚀ニ取扱フコト
- 一 檢查用器使用後ハ能ク洗滌シ不潔ナカラセムルコト

○屠獸場及獸肉販賣取締規則ノ件

縣令第一三號 (明治二十六年二月)

第一章 屠獸場

- 第一條 屠獸場ハ自用ト販賣トヲ問ハス牛馬羊豚ヲ屠殺スル所トス此屠獸場ノ外ニ於テハ一般屠殺スルコトヲ許サス
- 第二條 屠獸場ヲ新設又ハ移轉セントスルトキハ其願書ニ屠獸場ノ位置構造並近傍ノ圖面ヲ添ヘ縣廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ 但借地ニ係ルトキハ地主連署スヘシ
- 屠獸場ヲ讓渡サントスル者ハ讓受人ト連署シ縣廳ニ願出テ鑑札ノ書換ヲ請フ

（シ）

屠獸場ノ構場ヲ變更セントスルトキハ圖面ヲ添へ縣廳ニ願出ツヘシ

第三條 第二條第一項第三項ノ工事落成スルモ所轄警察署又ハ分署ニ届出檢査ヲ受クルニアラサレハ開業スルコトヲ許サズ 但屠獸ノ種類、頭數、屠殺月日、營業者ノ氏名等ハ毎月取纏メ其翌月五日迄ニ所轄郡役所ニ通報スヘシ

第四條 屠獸場ノ位置構造等ハ左ノ各項ニ依ルヘシ
一 屠獸場ノ位置ハ人家ヲ距ルコト六十間以上飲料水ヲ距ルコト三十間以上タルヘシ

二 屠獸場ノ 二ハ土手又ハ塋塚ヲ設クヘシ

三 屠室ノ地盤ハ石又ハ煉瓦漆喰若クハ厚板等ヲ以テ敷設シ内部ノ四壁ハ板ヲ張り「ペンキ」ヲ塗ヘシ

四 汚物溜及汚水ヲ疏通スル溝渠ハ厚板其他ノ不透透質ノモノヲ以テ造リ且適當ナル蓋ヲ用フヘシ 但汚物溜ハ屠室外ニ設クヘシ
五 骨置場ハ適當ナル穴ヲ穿テ石又ハ煉瓦若クハ木材等ヲ以テ疊ミ且堅牢ナル蓋ヲ用ユヘシ

第五條 屠獸場及屠室ハ屠殺終リタル後速カニ臟腑皮骨及血液汚水汚物ノ類ヲ取棄テ掃除若クハ洗滌スヘシ

第六條 屠殺場ニハ左ノ標柱ヲ建設スヘシ
六寸角



横 明治何年 月 日許可
正面 屠 獸 場

地上ヨリ六尺以上

横 郡町村氏名

第七條 屠獸セントスルトキハ屠殺スヘキ日時ヲ定メ町村長ノ加印ヲ受ケ前日迄ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

委託獸醫ニハ警察署又ハ分署ヨリ前項ノ日時ヲ通知スヘシ
第八條 屠殺ノ際ハ警察官吏立會ノ上委託獸醫ノ檢査ヲ受クヘシ 但屠殺時間ハ午前七時ヨリ午後五時迄トス

第九條 屠殺セシ獸肉ニハ其蹄若クハ骨ニ委託獸醫ノ檢印ヲ受クヘシ其檢印ナキモノハ場外ニ出スコトヲ得ス

第十條 警察官吏又ハ委託獸醫ニ於テ病獸又ハ肉質不良ト認定シタルトキハ警察官吏ニ於テ屠殺又ハ販賣ヲ禁止ス

第十一條 屠殺又ハ販賣禁止ニ關スル總テノ處置ハ警察官吏ノ指揮ニ從フヘシ
第十二條 屠獸場使用料及屠殺手数料ハ屠獸ノ種別ニ依リ豫メ其額ヲ定メ所轄警察署又ハ分署へ届出ツヘシ定額ヲ増減スルトキ亦同シ

第十三條 正當ノ事故ナクシテ屠殺ノ需メヲ拒絕シ使用料若クハ手数料ノ外別ニ金錢ヲ請求スルコトヲ得ス
第十四條 屠殺營業者ニ於テ廢業若クハ管外ニ轉居スルトキハ鑑札ヲ縣廳ニ納

付スヘシ

第十五條 屠殺營業者ニ於テ鑑札ヲ遺失若クハ毀損スルカ又ハ管内轉居若クハ氏名ヲ變更スルトキハ縣廳ニ願出鑑札ノ再授又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 獸肉販賣

第十六條 獸肉販賣營業トハ牛馬羊豚肉ヲ卸賣又ハ小賣スルモノヲ云フ

第十七條 獸肉ハ屠獸場ニ所テ屠殺シ檢印ヲ受ケタルモノニ非ラレハ販賣スルコトヲ許サス

他府縣ニ於テ屠殺シタル獸肉ハ其府縣ノ檢査ヲ證明シ得ルモノニアラサレハ販賣スルコトヲ許サス

第十八條 獸肉販賣營業ヲ爲サントスルモノハ族籍住所氏名及獸肉ノ種類ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第十九條 獸肉販賣營業者ハ左ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

何肉販賣營業
住 所
氏 名
巾八寸
豎三尺

第二十條 獸肉販賣營業者自ラ行商シ又ハ買子ヲシテ行商セシメントスルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ願出行商鑑札ヲ受ケ行商ノ際ハ必ス之ヲ携帯スヘシ

第二十一條 (二十七年三月縣令第三十號ヲ以テ削除)

第二十二條 獸類傳染病流行スルトキハ管内一般若クハ一部ヲ限リ獸肉販賣ヲ停止スルコトアルヘシ

止スルコトアルヘシ

第二十三條 腐敗シタル獸肉又ハ諸種ノ肉ヲ混合シ若クハ獸名ヲ詐稱シテ販賣スヘカラス

第二十四條 獸肉ハ清潔ナル麻布又ハ綿布ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第二十五條 馬肉ト他ノ獸肉ト同一ノ場所ニ於テ販賣シ又ハ馬肉ト他ノ獸肉ト同一ニ行商スルヲ許サス

第二十六條 獸肉ハ警察官吏ニ於テ臨時檢査ヲ爲シ若シ不良ト認ムルトキハ販賣ヲ停止ス

第二十七條 獸肉販賣營業者ニ於テ廢業管内外轉居又ハ鑑札ノ遺失紛失又ハ毀損若クハ氏名ヲ變更スルトキハ第十五條第十六條ノ例ニ依リ所轄警察署又ハ分署ヘ其手續ヲ爲スヘシ

第三章 罰 則

第二十八條 本則第一條第二條第一項第三條第九條第十七條第十八條第二十條第二十三條第二十五條ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第二十九條 本則第二條(二項三項)第五條第六條第八條第十二條第十三條第十五條第十九條第二十四條第二十七條ヲ犯シタル者ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

一 従前免許ヲ得タル者ニシテ本則ノ制限ニ抵觸スルモノハ明治二十七年三

月三十一日限り改造シ第三條ノ検査ヲ受クヘシ
前項ノ規定ニ違背スル者ハ免許ノ効ヲ失フモノトス

○屠獸場及獸肉販賣取締規則取扱手續ノ件

警本訓示第九四號 (明治二十七年五月)

第一條 規則第二條第一項第三項ニ依リ願出タルトキハ圖面及仕法書ノ調査ハ勿論規則第四條ノ各項ニ牴觸スル廉ナキヤ否ヤ臨檢調査シ意見ヲ附シ進達スヘシ

第二條 規則第三條ニ依リ工事落成届出タルトキハ規則第四條各項ニ適合スルヤ否ヤ圖面及仕法書ニ照合シ臨檢調査ノ上許否スヘシ

第三條 規則第八條ニ依リ屠殺シタル獸類ノ頭數ヲ年四期ニ區分シ第一號表式ニ依リ無有共翌月五日迄ニ報告スヘシ 但屠獸ノ種類、頭數、屠殺月日、營業者ノ氏名等ハ毎月取纏メ其翌月五日迄ニ所轄郡役所ニ通報スヘシ

第四條 規則第十條及第十一條ニ依リ屠殺又ハ販賣ヲ禁止シタルトキハ相當ノ措置ヲナシ營業者ヲシテ奸譎ノ所爲ナカラシムル様豫テ注意スヘシ

第五條 規則第二條第二項及第十五條ニ依リ讓受渡又ハ再授書換願出タルトキハ添書進達スヘシ

第六條 規則第十八條ニ依リ願出タルトキハ第二號書式ノ免許鑑札ヲ下付スヘシ 規則第二十條ニ依リ願出タルトキハ第三號書式ノ行商鑑札ヲ下付スヘシ

第七條 規則第二十二條ニ依リ獸肉販賣ノ停止ヲ必要ト認メタル場合ニ於テハ其病勢及傳播ノ模様等詳細取調意見ヲ付シ上申スヘシ

第八條 規則第二十三條第二十四條第二十五條ノ違背者ナキヤ否ヤ店舖又ハ行商者ニ就キ一箇月一回以上臨時検査ヲ爲スヘシ

第九條 規則第二十七條ニ依リ届出者クハ願出ツルモノアルトキハ規則第十四條第十五條ノ例ニ準シ書換又ハ再授ノ手續ヲ爲スヘシ

迄附ニ係ル鑑札ハ棄却スヘシ

第十條 營業者臺帳ハ第四號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

鑑札ハ必ス番號ヲ附シ營業者臺帳ト合章(行商鑑札ヲ除ク)ヲ爲スヘシ

第一號表式

自何月		何月		何月		何月		合計	
至何月		何月		何月		何月		合計	
類別	何	何	何	何	何	何	何	何	何
牛	何	何	何	何	何	何	何	何	何
馬	何	何	何	何	何	何	何	何	何
羊	何	何	何	何	何	何	何	何	何
豚	何	何	何	何	何	何	何	何	何
合計	何	何	何	何	何	何	何	何	何

第二號書式

合章	福島縣 國郡	明治年 月 日
大字	字 番地	福島縣
氏名	裏	警察署
一牛(馬羊豚肉)		(警察分署) 印

右販賣免許可證

第三號書式

用材適宜 三寸

第 號

表 一牛馬羊豚肉行商鑑札

郡 番地
行商人氏 名

明治 年 月 日

警察署
又ハ分署印

烙印

第四號書式

許可	明治	年	月	日
轉居	明治	年	月	日
改姓名	明治	年	月	日
廢業	明治	年	月	日
許可	明治	年	月	日
轉居	明治	年	月	日
改姓名	明治	年	月	日
廢業	明治	年	月	日

○屠獸檢査委託獸醫心得ノ件

縣訓令丁第八號 (明治二十六年三月)

第一條 獸類ノ檢査ヲナストキハ營業人ノ氏名牛馬羊豚ノ別ヲ簿冊ニ記シ順次檢査ナリ異常ナキモノハ直ニ屠殺ヲ許スヘシ

第二條 左ノ諸症ニ罹リタル獸類ハ屠殺ヲ禁スルコトヲ警察官ニ申立ツヘシ

一 豚麻疹、トリヒチ、狂犬、咬傷、中毒諸症、癌腫、腐敗、インフリエ

二 黃胆、熱性諸症、水腫諸症、膿毒症、敗血症、尿毒症、赤痢、痘瘡、惡液質壞疽、胸膜肺炎、皮疽、鼻疽

三 肝蛭、肺蛭、結核、胞虫ノ諸症ニシテ重キモノ

第三條 前條諸症ノ外尙患性ニシテ食用ニ害アリト認ムルトキハ屠殺ヲ禁スルコトヲ警察官ニ申立ツヘシ

檢査ヲ經屠殺シタル獸類ト雖モ病理的變狀ヲ呈シ食用ニ供シ難キモノハ其販賣ヲ禁スルコトヲ警察官ニ申立ツヘシ

第四條 局部ノ病ニシテ其害全身ニ及ハサレモノハ患部ヲ切截シ除却セシムルコトヲ警察官ニ申立他ハ食用ニ供セシムルヲ得

第五條 屠殺禁止ヲ命セラレタル獸類ニハ角爪ヲ禁止ニ烙印ヲ押スヘシ 但疾病全治ノ後再檢査ニ於テ屠殺ヲ許可シタルトキハ禁印ヲ消却スヘシ

第六條 毎月左式ノ獸類檢査表ヲ製シ翌月五日限り所轄警察署又ハ分署ヘ報告スヘシ

何月中獸類檢査表

屠殺 檢査總數	牛	馬	羊	豚	計
	牛	牛	牛	牛	

右及報告候也
年月日

住 所
何何村屠殺檢査委託獸醫
氏 名

何警察署長(分署長)宛

第七條 屠殺禁止ニ係ル病狀等ハ皆之ヲ簿冊ニ登錄シ後日ノ參考ニ供スヘシ

第八條 檢査ニ從事シタルトキハ屠獸一頭ニ付キ牛金貳拾五錢馬羊豚金拾五錢ノ手當ヲ給ス

第九條 委託獸醫疾病流行其他支障アルトキハ他ノ支障ニ代理ヲ委嘱シ所轄警察署又ハ分署へ届出ツヘシ

縣令第一號 (明治三十四年二月二十一日)
○冰雪營業取締施行規則ノ件

冰雪營業取締施行規則左ノ通相定メ明治三十四年二月一日ヨリ施行ス

第一條 冰雪ノ採收、製造營業ヲ爲サントスルモノハ願書ニ左ノ事項ヲ詳具シ所轄警察官署ヲ經由シ毎年縣廳ノ認可ヲ受クヘシ其増減變更セントスルトキ

亦同

水ニ在リテハ用水四合以上願書ニ添付シ水質ノ檢査ヲ受クヘシ

一 採收場、製造場、貯藏場ノ位置、坪數並其附近ノ圖面但河川湖池等ニ於テ水ヲ採收セントスル者ハ前填ノ外尙其河川湖池等ノ名稱及採收區域

二 採收場、製造場、及貯藏場ノ構造仕樣書及圖面並落成期日

三 用水ノ種類(水道井戸溪流等ノ區別)位置並導水ノ構造仕樣書

四 採收、製造及貯藏ノ方法

五 官有地ニ係ルトキハ使用許可証寫他人ノ所有ニ係ルトキハ地主ノ連署又ハ承諾書

第二條 採收場及製造場ハ肥料製造場、肥料貯藏場、汚物置場、溝渠、屠殺場、國縣里道、鐵道、人家、厠圍等ヨリ三十間以上貯藏場ニ在テハ二十間以上ノ距離ヲ保有スヘシ

第三條 採收場又ハ製造場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 但河川湖池等ヲ區劃シ一時凍水ヲ採收セントスルモノハ此限ニアラス

一 氷池ハ地平面ヨリ一尺以上ノ堤防ヲ築造シ雨水及汚物ノ混入セサル樣裝置ヲ爲スコト

二 氷池ノ深サハ三尺以上トシ其周圍及底部ハ石、煉瓦石「セメント」コンクリート又ハ一寸以上ノ厚板ヲ敷設シ其接合部ハ密着セシメ汚水ノ滲透ヲ防止スル樣裝置ヲ爲スコト

三 氷池ハ殘水ヲ排除シ得ヘキ樣排水口ヲ設クルコト

四 導水管ハ石、煉瓦石、陶管、金屬、若クハ木竹材ヲ使用シ其接合部及水
導口ニハ汚水ノ滲透ヲ防止スル裝置ヲ爲スコト

五 水池ノ周圍ニハ適當ノ塵芥除キ設クルコト

第四條 貯藏場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ
一 貯藏場ノ地盤ハ石、煉瓦石、漆喰敷キ「コンクリート」又ハ一寸以上ノ厚
板張トナシ且ツ内部ノ周圍ハ板張ト爲スコト
二 貯藏場内適當ノ場所ニ融解水ヲ排除スヘキ裝置ヲ爲ナスコト

第五條 採收場、製造場、及貯藏場ノ工事落成シタルトキハ所轄警察官署ヲ經
由シ縣廳ニ届出檢査ヲ受クヘシ其檢査ヲ受ケサルモノハ使用スルコトヲ得ス

第六條 採收場、製造場ノ異ナル氷雪ヲ同一ノ貯藏場ニ貯藏セントスルトキハ
之レカ區別ヲ爲シ且ツ其產地ヲ明記シタル標札ヲ見易キ場所ニ釘付スヘシ

第七條 氷雪ノ採收場、製造場、又ハ貯藏場ヲ賣買讓與セントスルトキハ双方
連署ヲ以テ所轄警察官署ヲ經由シ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ

第八條 氷雪ヲ貯藏シ又ハ他ノ貯藏場ニ運搬セントスルトキハ其貯藏場ノ位置
氷雪ノ數量及其年月日時ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第九條 氷雪ヲ發賣セントスルトキハ其採收、製造及貯藏ノ場所並數量ヲ詳記
シ氷雪十斤ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經由シ縣廳ニ届出檢査証ヲ受クヘシ

第十條 本縣外ヨリ輸入シタル氷雪ヲ發賣セントスルトキハ其產地、數量、採
收製造者ノ住所氏名貯藏ノ場所及當該官廳ノ許可証寫及檢査用氷雪十斤ヲ添
ヘ所轄警察官署ヲ經由シ縣廳ニ届出檢査証ヲ受クヘシ

第十一條 檢査ヲ受クヘキ用水及氷雪ハ警察官吏ノ立會ヲ求メ現場ニ於テ清潔
ナル容器ニ入レ之ニ封印ヲ受ケ縣廳ニ直送スヘシ

採收場、製造場ノ異ナル氷雪ハ容器ヲ異ニシ且ツ其產地ヲ記載スヘシ

第十二條 氷雪ノ採收、製造ノ場所ニハ其區域並認可ノ年月日及其營業者ノ住
所氏名ヲ六寸角ノ標木ニ記シ地上ヨリ六尺以上ニ樹ツヘシ

第十三條 檢査受ケタル氷雪ハ檢査ヲ受ケサル氷雪トナシ同一ノ貯藏場ニ貯藏ス
ルコトヲ得ス

第十四條 採收場、製造場及貯藏場ノ構造ニ破損ヲ生シタルトキハ速ニ修繕ナ
加フヘシ

第十五條 第九條第十條ニ依リ檢査ヲ受ケタル氷雪ヲ販賣シ又ハ卸賣、請買營
業ヲ爲サントスル者ハ檢査証寫ヲ添ヘ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ
前項ノ營業者自ラ行商シ又ハ商子ヲシテ行商ヲ爲サントスルトキハ所轄警察
官署ニ届出標札ヲ受ケ行商中携帶スヘシ

第十六條 氷雪採收及ヒ製造販賣、卸賣、請買營業者ハ左ノ看板ヲ店頭ニ掲ク
ヘシ

用材板	氷雪	採收販賣 製造販賣 卸賣 請買	營業者	氏名	幅七寸 豎二尺五寸
-----	----	--------------------------	-----	----	--------------

第十七條 氷雪ノ採收製造營業者住所氏名ニ異動ヲ生シ又ハ廢業シタルトキハ

本人ヨリ死亡シタルトキハ戸主若クハ番相續者ヨリ五日以内所轄警察官署ヲ經由シ縣廳ニ其他ノ營業者ハ五日以内ニ前例ニ倣ヒ所轄警察官署ニ届出ツヘ

第十八條 氷雪ノ採收、製造業業者ハ其販賣高ヲ取調翌月十日迄ニ所轄警察官署ニ届出ツヘ

第十九條 第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第二十條 本則施行前縣廳ノ許可ヲ受ケ設置シタル凍氷製造場及貯藏場ニシテ本則第二條第三條第四條ノ制限ニ抵觸スルモノハ本則第一條ニ依リ縣廳ノ許可ヲ受ケ特ニ使用スルコトヲ得

第二十一條 本則ハ雪ニ關シテハ明治三十五年一月一日ヨリ施行ス

第二十二條 明治二十七年三月縣令第二十九號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

○氷雪營業取締施行規則取扱手續

訓示第二號 (明治三十四年一月二十二日)

(警 部 長)

氷雪營業取締施行規則取扱手續左ノ通相定メ明治三十四年二月一日ヨリ施行ス

第一條 施行規則第一條ニ依リ願出タルトキハ同第二條第三條第四條第二十條

ニ依リ願書ノ調査ヲ爲シ且臨檢ノ上意見ヲ付シ進達スヘシ

第二條 施行規則第五條ニ依リ落成届出タルトキハ前條ノ願書ニ依リ調査ノ上意見ヲ付シ進達スヘシ

第三條 施行規則第七條ニ依リ届出アリタルトキハ調査ノ上意見ヲ付シ進達スヘシ

第四條 施行規則第八條ニ依リ届出アリタルトキハ貯藏場又ハ運搬先ノ貯藏場ヲ臨檢調査スヘシ

第五條 施行規則第九條第十條ニ依リ届出アリタルトキハ届書調査ノ上氷雪ト共ニ送付スヘシ

第六條 施行規則第十五條第二項ノ届出アリタルトキハ調査ノ上第一號書式ノ鑑札ヲ附與スヘシ

第七條 氷雪期節中ハ毎月一回以上採收場、製造場、貯藏場ニ就キ施行規則第六條第十條第十三條第十四條第十六條ニ違背ノ廉ナキヤ否ヤヲ檢査スヘシ

第八條 營業者臺帳ハ第二號及第三號書式ニ準シ調製整理スヘシ

第九條 明治三十三年七月内務省令第三十七號第三條ニ該當セサルモノアルトキハ速ニ其事實ヲ知事ニ具申シ指揮ヲ受クヘシ

附 則

第十條 明治二十七年(六月)訓示第一二三號ハ本手續施行ノ日ヨリ廢止ス

第一號書式 (用材適宜)

三寸

第 二 表

第 一 號

「烙印

警察署
又ハ警察分署

水(雪)行商鑑札

郡町村大字番地族籍
行商人 氏名

裏 水(雪)

郡町村大字番地族籍
製造人 氏名

年月日

第二號書式

採取場地名	許可年月日	製造場地名	許可年月日	貯藏場地名	許可年月日	住所
						採取(製造(貯藏)者)氏名
番號	許可年月日	採取場地名	貯藏場地名	貯水斤數	番號	許可年月日
考 備						製造場地名 貯藏場地名 貯水斤數

記載例

施行規則第一條ニ依リ許可セラレタルトキハ前欄ニ記入スヘシ
 施行規則第九條第十條ニ依リ検査証ヲ付與セラレタルトキハ後欄(記入スヘシ)
 備考欄ニハ採取場、製造場、貯藏場増減變更又ハ移轉ヲナシタルトキ及同

第五條ノ検査ヲ遂ク許可シタル年月日等其他參考トナルヘキモノヲ記スヘシ

第三號書式 (水(雪)販賣卸賣請賣行商營業者臺帳)

許 可	明 治 年 月 日
轉 居	明 治 年 月 日
改 氏 名	明 治 年 月 日
廢 業	明 治 年 月 日

○水製造及貯藏方法心得ノ件

縣告諭第三號 (明治二十一年十月二十七日)

凍水製造及貯藏方法製水者心得ノ爲メ左ニ其概略ヲ示ス

水製造及貯藏方法心得

第一 水製造法

一 天然水ヲ製造シテ飲料ニ供セント欲スルニハ製水場即チ水池ヲ撰定設置スル
 ナ第一トス凡製水場ヲ設クルニ湧泉溪流清川等水質ノ善良ナルモノヲ撰ミ其
 近傍ニテ汚穢物ノ混入スル憂ナキ清潔ノ地ニ就キ池ヲ掘リ以テ製水場トナス
 ヘシ決シテ耕地等ヲ流過シ來ル處ノ池沼川流或ハ田面溝渠等誘害物ヲ含有セ
 ル恐アル場所ニ於テ製造ヲ爲ス可ラス
 一 製水場ヲ設置スルニ當リ製水者ニ於テ最メ注意スヘキモノハ成ルヘク日光ヲ
 避クルノ地ヲ撰ムニアリ故ニ西南或ハ東南ニ山峯又ハ岡陵ヲ控ヒ或ハ森林鬱

茂ノ蔭ニシテ終日太陽ノ光線ヲ蔽遮蔭翳シ常ニ風ノ吹キ通ス地ヲ以テ適當ナリトス

一製氷場ハ殊ニ池ヲ掘リ以テ新設スルチ第一良トス然レトモ水質善良ニシテ汚穢物含有セル憂テキニ於テハ山間等ニアル在來ノ池ヲ用ユルモ可ナリトス又木板ヲ以テ箱ヲ製シ製氷用ニ供スルモ亦可ナルモノナリ

一製氷場ノ構造方ハ水池ノ内面悉皆敷石煉瓦或ハ木板ヲ以テ圍ヒ又ハ「セメント」叩ニスルチ第一トス然レトモ地質ニ依リ汚泥ノ池水ニ混入スルノ憂ナキ地ニアリテハ池底面へ小砂利等ヲ敷クカ如キ便宜ノ方法ヲ設クルモ妨ケナカルヘシ

一在來ノ池ヲ以テ製氷場ニ充テントセンニハ毎年八九月ノ頃ニ於テ池中ノ蕪穢汚泥ヲ浚渫シ夏中ノ腐敗水ヲ落シ更ニ清水ヲ引キ入レ又之ヲ落シ如此掃除スルコト再三充分池中ヲ清潔ナラシメ而シテ十一月下旬ニ至リ更ニ清水ヲ引入レ結氷セシムヘシ

一水池ニ水ヲ引入ルニハ樋管ヲ以テ樋ノ上端口ニハ細目ナル濾網ヲ以テスルカ又ハ適宜ノ裝置ヲ設ケ藤芥ノ流入ヲ防クヘシ

一水池溜水ノ量ニ於ケル一定ノ度ヲ失セサル様注意スヘキモ亦緊要ノコトナリトス若シ凍氷半ニ際シテ水量俄ニ減少セルガ如キコトアレハ凍氷自ラ其重量ニ堪エス下ニ低リテ破裂スルノ憂アルノミナラス水量ノ増減ハ大ニ凍氷ノ厚薄上ニ關係ヲ來スモノナリ故ニ水池ノ水量ニ増減ヲ來サザルガ爲メ終始一室ノ少許水ヲ掛ケ流シ置クヘシカクスルトキハ又水池ニアル溜水ノ腐敗ヲ防ク

ノ便アルモノナリ

一水池ニアル水量ノ多寡地底ノ淺深ハ凍氷ノ厚薄上ニ關係アルヲ以テ寒暖ノ強弱ニヨリ度ヲ計リテ溜水ノ分量ヲ定ムルモ亦製氷者ニ於テ最モ必要ナル務トス如何トナレハ寒氣ノ弱キ地ニアリテ多量ノ水ヲ水池ニ引置クトキハ水温冷却スルノ力弱ク隨テ凍氷スルノ薄キナ見ルナリ而シテ寒氣ノ強キ地ニアリテ又少量ノ水ヲ溜シ置クトキハ水池中一箇ノ水ヲモ洩サス悉皆結氷スルヲ以テ伐氷ノ際困難スルノミナラス到底善良ノ凍氷ヲ得ル能ハサルナリ故ニ假令ハ凡一寸乃至二三寸凍氷セシムル地ニアリテハ溜水ノ量一尺乃至二尺ヲ度トシ四寸乃至五六寸凍氷スルノ地ニ於テハ溜水ノ量二尺乃至三四尺ヲ限リトセハ可ナルモノナリ

一烈風ノ爲メ土砂塵芥等ヲ水池中へ吹キ入ルコトアリ然ルニ水池ノ溜水未タ結氷セサルトキハ其水ヲ落シ新ニ清水ヲ引入レ又已ニ結氷セサルニ於テハ其凍氷ヲ排除スルニ要ス假令細微ノ土砂塵芥ト雖トモ一旦凍氷中ニ混入スルニ於テハ試驗上成績ノ不良ナルハ勿論夏期飲料ニ際シ「コップ」ノ中ニ沈澱シ顯ハルモノナリ故ニ水池ノ近傍ニハ土砂塵芥等ノ障害ナキ地ヲ擇定スルモ亦緊要ノコトナリ

一池水已ニ凍リテ未タ伐氷ノ期ニ至ラサル内降雪アリテ氷上ニ堆積スルトキハ努メテ此ヲ拂ヒ除ケサルヘカラス然レトモ凍氷未タ二寸以下ノトキニ當リ俄然暖氣トナルノミナラス時トシテハ雨雪ノ交降シテ氷上堆積スルトキハ海水ニ重荷ヲ負ヒ遂ニ凍氷沈シ墮テ氷上ニ水ヲ受ケ又ハ寒氣トナリ氷上薄ノ雪一

時ニ變シテ結氷スルコトアリ此即千塵芥交リノ氷雪ニシテ販賣許可ヲ得サルハ多ク此等ノ分ナリ故ニ廢棄スルノ外ナキナリ

第二 伐氷法

一 伐氷ノ期節ハ小寒大寒ノ交ニ於テ極寒ノ日ヲ良シトシト雖トモ氣節ノ變動ヲ推察シ伐氷ノ期ヲ誤ラサルヲ必要ナリトス如何トナレハ已ニ適度ノ凍氷ヲ得ルモ伐氷ノ時期ヲ誤リ遷延スル内俄然南風溫暖ノ氣ヲ催スカ或ハ降雨ニ遇ヒ己ニ結氷シタルモノ假令全氷融解セスト雖トモ表面幾分ノ融解スルトキハ氷ノ厚サ番ニ減少スルノミナラス亦俄カニ寒氣トナリ表面一旦融解セル氷水再ヒ凍リテ氷トナルコトアリ此亦粗糲不透明塵芥混リノ凍氷ニシテ不良品ノ一ナリトス

一 凍氷ヲ伐採スルノ法先ツ伐氷セントスル寸尺ニ從ヒ隨意縱横ニ定規板ヲ以テ水面ヘ伐採スヘキ筋ヲ劃シ然ル後大鋸ヲ以テ挽伐ルヘシ然レトモ便宜一方便ヨリ氷一枚ヲ、伐リ離スヘキモノニシテ若シ數枚ヲ連ネ或ハ水池ノ四隅ヲ先ニ伐リ離ストキハ伐氷上甚タ困難ヲ來スノミナラス亦收獲上損失ヲ招クモノナリ己ニ伐リ離シ枚々筒々池中ニ浮游セル氷ヲ竹竿端等ニ鈎ヲ付シ之ヲ以テ引集シ或ハ氷塊ト稱スルモノヲ造リ之レヲ以テ引キ揚グルハ便ナリトス

一 凍氷ヲ伐採スルノ尺寸ハ一定ノ法アルニアラスト雖モ長サ二尺横一尺五寸ト爲スハ運搬便利ニシテ兼テ又々見分上宜シキモノナリ

一 伐採セシ凍氷ハ假リニ日除ク小屋ヲ設ケ之レニ積置キ一夜以上暴露スルヲ以テ却テ氷質ヲ堅緻透明ニスルモノナリ然レトモ太陽ノ光線ヲ避クヘシ若シ日光ヲ受クルトキハ氷質透明ヲ失シ脆粗不長ノ氷ト變スルモノナリ

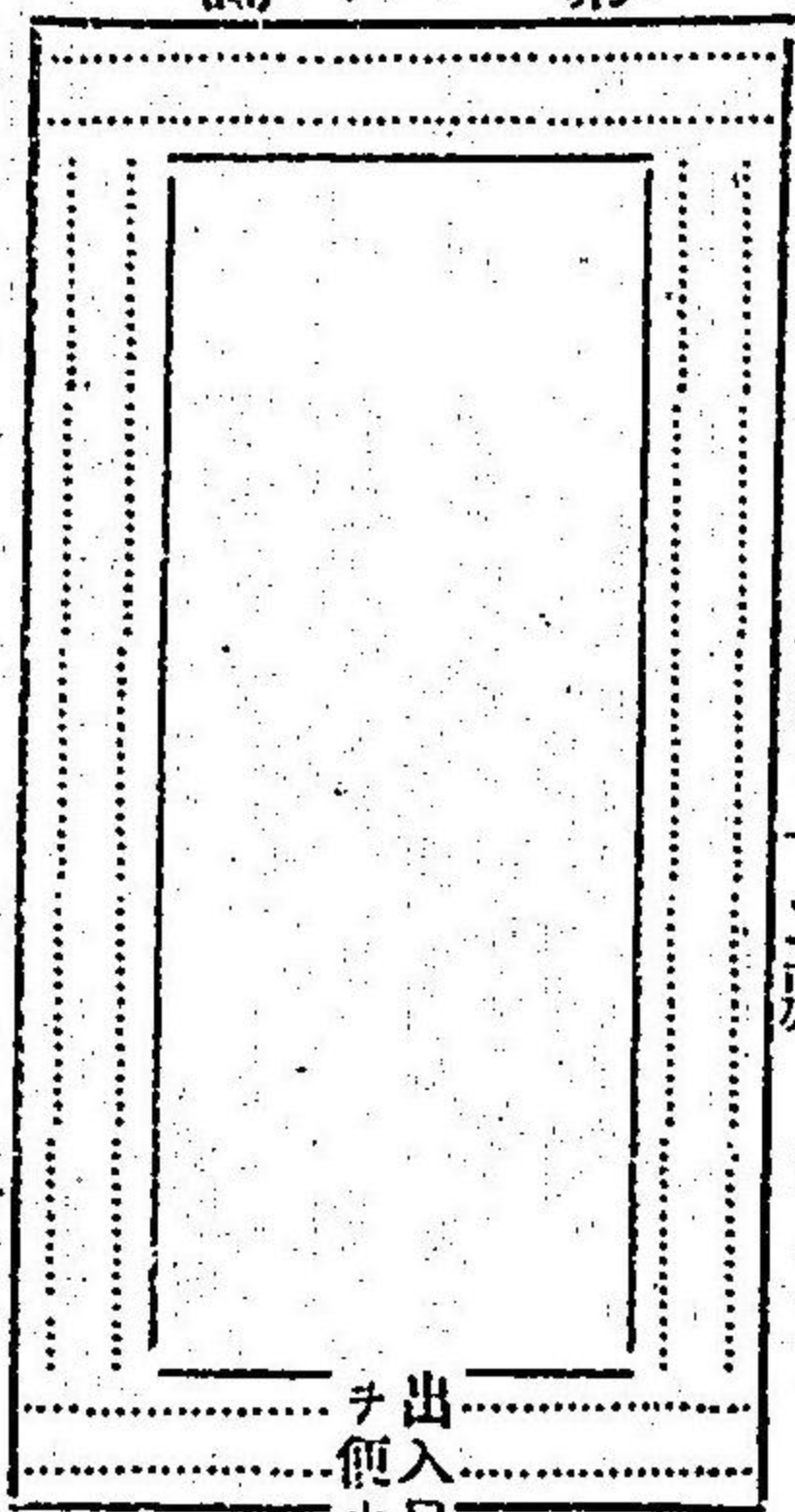
第三 蓄藏法

一 氷室ノ構造法ハ重要ノコトニテ氷室構造ノ完備スルト否トハ貯氷減否ノ度ニ大ナル關係アルモノナリ故ニ貯氷者ニ於テハ氷室ノ構造ニ最モ注意スヘキモノトス先ツ氷室構造方ノ概略ヲ示サン外圍ハ尋常日本造リノ土藏トナシ其内側面ヨリ四邊凡ソ三尺ヲ隔テ二重室ヲ築造スルニ煉瓦又ハ木板ヲ以テ構造スルヲ良トス此二重室ノ外圍土藏ノ内側面トノ三尺ノ空間ニハ四圍トモ大鋸屑ヲ以テ充塞シ而シテ氷室中土間ノ部分ヘ「セメント」叩ノ流シ形ニスルカ或ハ木板ヲ以テ構造スルカ又ハ氷室ヲ建設スルニ當リ砂地ヲ撰ミテ設置スルカ何レノ方法ニヨルモ適宜ノ勾配ヲ付シ貯氷融解水ノ室中ニ溜溜スルノ憂ヲ防クヘシ若シ氷室中ニ水ノ溜溜スルコトアレハ貯氷ヲ損害スルモノナリ故ニ敷椽ヲ設クヲ良トス次ニ天井ノ構造ハ氷室ノ大小ニヨルト雖トモ中間ニ一二ヶ所ノ口ヲ設ケ水蒸氣ノ蒸騰發散スルノ便ヲ設クルヲ良トス其外天井上ニ大鋸屑五寸以上敷置クニ堪ユヘキ堅固ノ構造ニヨルヘシ而シテ出入口ハ上下二ヶ所ニ設クルヲ最モ便ナリトス

一 前項ノ外氷室ヲ三重造リトナスモ亦良シトス其方法ハ外一重ノ口造ハ日除ケトナスニ足ルハキ構造ニシテ即チ尋常家屋造ニシテ内第二重造モ亦煉瓦ヲ以テ

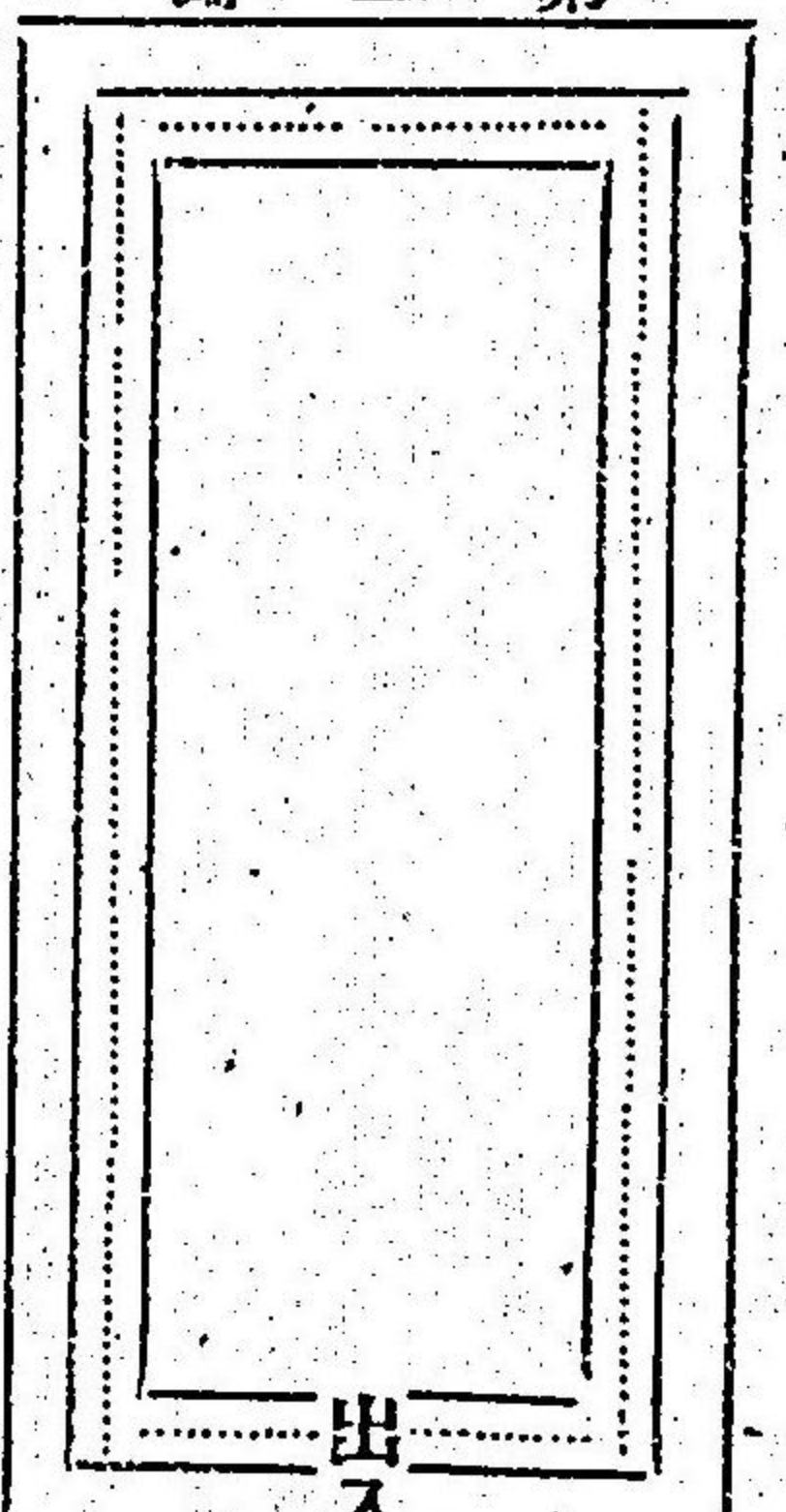
スルカ或ハ尋常家屋造トシ内第三重造ニ至リテハ木板ヲ以テ構造スルモ可ナ
 リトス而シテ第二、第三重室ノ中間ニハ大鋸屑ヲ充塞スルモノナリ
 一又土窟ヲ以テ氷室トナスモ亦前項ニ準シ土窟中ニ二重ニ木板ヲ以テ圍フカ又
 ハ石ナ壘ミ築造スルカ何レニヨルモ土崩ヲ防クニ堪ユヘキ構造ヲ設クヘシ
 一氷室構造ノ略圖ヲ左ニ示ス

土藏



煉瓦又ハ木板

三尺ノ間鋸屑ヲ充塞スルナリ
 又炭粉ヲ用ユルモ良トス



煉瓦又ハ木板

第一第二重ハ尋常家屋造リ内第三重ハ木
 板ヲ以テ構造スルモ可ナリ第二第三重ノ
 間ニハ鋸屑ヲ充塞スルナリ

一凍氷貯藏ノ法ハ平面積トナスヨリ横面積トナスノチ長トス平面積トセハ暖暑

ノ候ニ至リ漸々貯氷自然ニ融解シ其融解水積氷間ニ滲溜スルノ憂アリ且ツ水
 ノ滲溜ハ融解力ヲ増進スルノ勢アリ故ニ横面積トセハ此憂ヲ防クノ便アル者
 ナリ此レ必竟氷ノ性質タルヤ霜柱狀ニ結氷スルモノナレハナリ
 一貯氷ハ大鋸屑ヲ以テ圍繞充塞シ空氣ノ侵入ヲ防クヲ要ス故ニ積氷接合ノ空間
 ニハ大鋸屑充塞シ空氣ノ流通ヲ防塞スヘシ然レトモ又氷屑ヲ細粉ニ碎キ此ニ
 代用充塞スルモ却テ益アリトス
 一氷ト水ノ間ニ一々鋸屑ヲ敷キ圍繞スルニ及ハスト雖トモ積氷重疊ノ間ハ一層
 毎ニ鋸屑ヲ敷クヲ便利トス積氷間ニ鋸屑ヲ用ヘス氷屑ヲ以テ其間隙ヲ充塞セ
 ルトキハ自然ト凝固シ氷室中一氷塊トナリ藏出ニ際シ困難ヲ來スノ憂アリト
 云フ
 一貯氷后五六月ノ候ニ至リ時々氷室ヲ巡視シ積氷中空隙ヲ生スル所アレハ勉メ
 テ大鋸屑ヲ以テ充塞密閉シ外氣ノ積氷間ニ侵入スルヲ防クヘシ

第四 雜法

一貯氷ノ融解減少スル比例ハ大略始メ一萬斤貯氷スルモノハ暑中販賣即チ賣上
 高ニ至リテハ五六千斤ニ過キサルモノナリ其甚シキニ至リテハ三四千斤ニ止
 マルモノアリ如斯貯氷減少ノ差異アル所以ノモノハ氷室構造ノ完否及貯氷ノ
 際不注意ニ關係スヘシト雖トモ亦暑中藏出ニ際シ一氷室ニ於ケル一週日前后
 ナリテ賣却スルモノト二週或ハ三週以上ニ亘リ屢々氷室ヲ開閉シ賣捌チ爲ス
 ニ依ル此必竟外氣侵入ノ爲メ大ニ融解力ヲ増進シ減少ヲ來スニヨルモノナリ
 一水池及氷室ヲ設置スルハ衛生上及凍氷ノ如何ニ注意スヘキハ勿論ナリト雖ト

モ又營業者ニ於テハ運搬及販路ノ點ニ注意シ其始ニ於テ計算ヲ立テサル可ラ
 ス如何トナレハ假令善良ノ凉水ヲ得ルト雖トモ通路險峻等ノ爲メ運搬上意外
 ノ失費ヲ來シ販賣上收支相償ハサルコトアレハナリ
 一水ノ斤數ヲ推測計算スルノ法ハ六尺立方チ五噸トス（一噸ハ凡我二百七十二
 貫目）而シテ又長サ二尺幅一尺五寸ノモノハ厚サ五分ヲ以テ一貫目ト計算ス
 ルモノナリ

○清涼飲料水營業取締施行規則ノ件

縣令第四十七號（明治三十三年六月二十五日）

清涼飲料水營業取締施行規則

清涼飲料水營業取締施行規則

- 第一條 明治三十三年六月內務省令第三十號清涼飲料水營業取締規則第二條ニ
 依リ清涼飲料水製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具備シ其製造原料
 品ヲ添ヘ當廳ニ願出鑑札ヲ受クヘシ
 但其事項ヲ變更セントスルトキハ其事由ヲ具シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ
 一 製造場ノ位置及構造ノ圖面
 二 製造器械ノ名稱及個數
 但器械ヲ用キサル者ハ其製造方法
 三 原料品名及其配合分量
 四 用水汲取ノ場所及水質試驗成績書
 五 容器類洗滌用水汲取ノ場所

第二條 清涼飲料水製造ノ原料水ハ新鮮ナル蒸溜水又ハ煮沸水ニアラサレハ使
 用スルコトヲ得ス

第三條 本則第一條ノ認可ヲ得タル者工事落成シタルトキハ其旨當廳ニ届出檢
 査ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第四條 清涼飲料水容器類ハ使用ノ都度沸湯又ハ煮沸水ヲ以テ洗滌スルニアラ
 サレハ使用スルコトヲ得ス

第五條 ラムネ製造場ノ地盤ハ石、煉瓦、「コンクリート」漆喰或ハ厚板ヲ以
 テ緻密ニ張詰メ且ツ適當ノ排水溝ヲ設ケ場内ハ空氣ノ流通ニ便ナル裝置ヲ爲
 スヘシ

第六條 本縣外ニ於テ製造シタル清涼飲料水ヲ請賣セントスルモノハ其製造者
 ノ住所氏名ヲ記シ當該官廳ノ許可シタル證憑并ニ現品ヲ添ヘ當廳ニ届出ツヘ
 シ

本縣内ニ於テ製造シタルモノアルトキハ其種類及製造者ノ氏名ヲ記シ所轄警
 察官署ニ届出ツヘシ

第七條 製造者廢業又ハ死亡（遺族ヨリ）改氏名轉住等異動アリタルトキハ十日
 以内ニ當廳ニ届出ツヘシ請賣者本項ニ該當スルトキハ前項ノ日限内ニ所轄警
 察官署ニ届出ヘシ

第八條 本則ニ依リ進出スヘキ願届ハ總テ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第九條 本則第二條第三條第四條第六條第七條ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘
 留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十條 本則施行ノ期限ハ明治三十三年六月内務省令第三十號清涼飲料水營業取締規則第十四條ニ據ル

○清涼飲料水營業取締施行規則取扱手續ノ件
訓示第二〇號 (明治三十三年八月二十五日)

(警 部 長)

清涼飲料水營業取締施行規則取扱手續左ノ通相定ム

清涼飲料水營業取締施行規則取扱手續

第一條 清涼飲料水營業取締施行規則第一條ノ願書ヲ受理シタルトキハ同條各號ニ依リ其位置構造及場所ノ適否ヲ臨檢調査ノ上意見ヲ付シテ進達スヘシ
ラム子製造場ニ關シテハ前項ノ外尙同則第五條ノ適否ヲ調査スヘシ製造用ニ供スル井戸ハ可成製造場内又ハ其附近ノモノヲ撰定セシムヘシ
水質試驗成績書ヲ添付セス用水ノ檢査ヲ受ケントスル者アルトキハ警察官吏立會ノ上現場ニ於テ汲取ラセ封印ヲ施シ營業者ヲシテ警察部ニ送達セシムヘシ

第二條 清涼飲料水營業取締施行規則第三條同第六條第一項ノ届書ヲ受理シタルトキハ速ニ警察部ニ進達スヘシ

第三條 ラム子製造ノ業ヲ開始シタルトキハ明治三十三年二月法律第十五號第二條ニ依リ製品ニ標シ徵シ警察部ニ回送スヘシ

第四條 明治三十三年六月内務省令第二十號清涼飲料水營業取締規則第九條ニ

該當スルモノアルトキハ速ニ其事實ヲ知事ニ具申シ指揮ヲ受クヘシ
第五條 警察官吏ハ毎月一回以上營業者ノ店舗又ハ其他ノ場所ニ臨ミ左ノ事項ヲ檢査スヘシ

- 一 容器ハ使用ノ都度沸湯又ハ煮沸水ヲ以テ洗滌スルヤ否
- 二 清涼飲料水製造ノ原料水ニハ新鮮ナル蒸溜水又ハ煮沸水ヲ使用シ居ヤ否
- 三 衛生上有害ナル容器ヲ使用セサルヤ否
- 四 清涼飲料水ノ良否
- 五 販賣スル清涼飲料水容器ニ封緘アルヤ否
- 六 清涼飲料水ノ調製器、容器、量器及製造場、清涼飲料水ヲ取扱フ場所清潔ナルヤ否
- 七 結核、癩病、微毒及傳染病ニ罹レル者清涼飲料水ノ調製若クハ小分ニ從事セサルヤ否
- 八 用水井戸ノ良否

其他規則ニ基キ注意スヘキ事項

第六條 警察官署ニハ左記様式ノ清涼飲料水營業者臺帳ヲ調製シ異動アル毎ニ加除スヘシ

番 號	第 號	製 造 者	住 所 氏 名	製 造 場	位 置	製 造 機 械	名 稱 個 數
		製 造 者 年 齡	住 所 氏 名				

原品名	取用場所	番號	製造者姓名	請賣者姓名	備考

記載例

他縣ノ製造ニ依ル清涼飲料水ヲ請賣スル場合ハ製造許可ノ欄ニ認可ノ年月日ヲ記入シ本縣内ノ製造ニ係ルトキハ同欄ニ届出ノ年月日ヲ記入スヘシ
 備考欄ニハ廢業死亡改氏名轉住其他異動アリタル年月日及其事由ヲ記入スヘシ
 製造者ト請賣トハ口譯ニスヘシ
 番號ハ各營業者別ニ起號スヘシ

○飲料水供用心得ノ件

縣番外 (明治十五年六月十八日)
 不良ノ水ヲ飲用ニ供スルハ健康上ニ傷害アルハ勿論ニ候處從來ノ慣習ニテ其品性ノ良否ヲ問ハス一ニ供用ノ便ヲ謀ル井戸水道等其位置構造ノ適否ヲ撰ハス之

ナ飲用シ途ニ病患ノ基因トナリ災害ヲ被ル不勘殊ニ傳染病流行ノ際ニ於テ最モ然リトナス故ニ善長水ヲ撰用スルハ苟モ忽ニスヘカラサル義ニ候條自今其有私
 有ノ別ナク別紙飲料水供用心得ニ照據々各自一層可致注意此旨諭達候事
 (別紙)

飲料水供用心得

第一 凡ソ飲料水ハ無色透明ニシテ臭氣ナク其味清涼爽快ナルヲ良トス
 第二 凡ソ水ハ其所在ノ狀況ニ從テ其名稱及品性ヲ異ニシテ飲料ニ適否アリ大路
 左ノ如シ

一 泉水

泉水ハ自ラ湧出スル水ニシテ其通過スル土壤ノ狀況ニヨリ其性質ヲ異ニ
 スト雖モ概スルニ清潔爽快ニシテ善長ナル飲料水トナスヘシ然レトモ多
 量ノ鐵質性ヲ含ム鑛泉ノ如キハ全ク飲料ニ供スヘカラス

一 井水

井水ニ深井淺井ノ二種アリ深井水ハ即チ掘抜井ニシテ又地底水ト云フ其
 水ハ高山ヨリ地下ニ滲透シタル水ニシテ地層中最モ堅緻ナル岩石層花崗
 石層等ノ下層ニアリ地面水ト全ク其水脈ヲ異ニス故ニ動植物ノ汚物其
 他ノ有害物ヲ含ム事ナク概シテ澄明純潔ニシテ良好ナル飲料水トナスヘ
 シ淺井水ハ即チ通常ノ堀井ニシテサシ水又地面水ト云フ雨雪其他ノ水氣
 鬆粗ナル地層中ニ滲透滲溜シタル水ニシテ有機物ヲ含ム殊ニ人家多キ土
 地又ハ溝池等ノ近傍ニ於テハ種々ノ汚穢ヲ來ス故ニ善長飲水トナスヘカ

ラス然レモ若シ此淺井ノ外ニ供給ノ方法ナキハ第十項ノ法ヲ履行シテ之ヲ用ユヘシ但シ融雪霖雨等ノ爲ニ俄ニ水量ヲ増シ或ハ混濁ヲ生スル淺井水ハ全ク供用スヘカラス

一河水

河水ハ動物植物性ノ腐敗若シクハ排泄物等ノ注流スルニ因テ時々多量ノ有機物ヲ含有スルモノナリ故ニ飲料ニ供セサルヲ良トス然レモ常ニ走流休止ナキヲ以テ自然其有機物ヲ酸化變性セム故ニ岩石多キ山間ノ河水溪流即チ急流激湍殊ニ瀑布等ノ水ハ飲料ニ供スルモ妨サナキモノナリ

一湖水 附池沼水

此種ノ水亦動物植物性ノ汚物流入スルニ由テ有害物ノ含量頗ル多シ加フルニ常ニ停滯シテ河水ノ如ク流動セサルカ故ニ其有害物ヲ酸化スル作用ニ乏シケレハ飲料ニ供スルハ宜シカラス

一雨水

雨水ハ多ク氣類ヲ含ミ清淨ニシテ飲料ニ供シ得ヘント雖モ其受器ノ善惡及土地ノ狀況ニヨリテ塵埃ヲ混シ或ハ汚染スルコトアルヲ以テ飲料ニ供スヘカラス

雪水亦然リ

第三 井戸水道並泉水槽ハ庖厨浴室便所肥溜芥溜又ハ溝池墓地畜場屠場魚干場其他濕地等ノ近傍ニアルハ各種ノ汚水滲淫シテ善良水モ遂ニ變惡スルノ恐アル故ニ勉メテ之ヲ遠ク向陽ノ地ヲ撰ムヘシ

第四 井戸泉水等ハ必ス石材若クハ木材ニテ井側ヲ据ヘ且小屋及蓋ヲ設ケ雨露塵埃ノ侵入土層ノ壤崩及汚水ノ滲入ヲ防クヘシ

第五 木製井側ハ内外兩面ヲ焦灼炭化セシメ其周圍ニ木炭若クハ獸炭等ヲ填メ井側ノ腐敗及汚水ノ滲透ヲ防クヘシ但水道管又ハ下水溜等ノ周圍ニ木炭獸炭ヲ填充スル亦汚水ノ滲入漏出ヲ防クノ効アリ水質ヲ保護スルノ良法トス

第六 水道管ニ銅鉛等ヲ用ユレハ水ノ品性ニ由テ自ラ之ヲ侵蝕シ其毒質ヲ水中ニ混シ健康ヲ傷害スルノ基因トナル故ニ鐵管若クハ木竹陶器製ヲ用ユヘシ

第七 内井ハ塵埃汚物攪入シ易シ故ニ汲酌ノ便アルモ寧ロ外井戸ニ改造シ健康ノ安全ヲ圖ルニ若カサルモノトス

第八 一帶ノ溪流河水ヲ數家相連用スルモノアリ其水假令善良ナルモ其掃除供用法ヲ嚴密ニ履行スルニアラサレハ飲用セサルヲ良トス尤モ傳染病流行ノ際ハ殊ニ注意スヘシ但河水溪流ハ其上流ニ於テ用ユル部落ノ有無ヲ問ハス已ニ人家ノ近傍又ハ耕地等ノ間ヲ通過シタルモノヲ用ユルハ宜シカラス

第九 假令善良ナル水モ數日間庖厨ニ及貯シ且ツ其水槽ヲ開放スルトキハ頗ル汚染スルモノトス故ニ水槽ハ時々洗淨シ常ニ良好ナル蓋覆ヲ設クヘシ

第十 凡ソ飲料ニ供セントスル水ノ良否不分明ナルモノハ沸騰スルカ又ハ木炭獸炭砂層ニ可ナリ等ニ由テ一回以上濾過シテ用ユレハ安全ナルモノトス

○飲料水取締規則ノ件

縣乙第十二號

(明治十五年七月十八日)

飲料水取締規則別冊ノ通相定メ候條此旨布達候事

飲料水取締規則

- 第一條 井戸水道泉水槽等ハ每年少ナクトモ一回以上必ス浚洶シ其水源及近傍ハ常ニ洒掃チ怠ル可ラス
- 第二條 井水泉水ハ汚水等ノ滲入セサル様石又ハ木材ヲ以テ井側ヲ設クヘシ
- 第三條 井戸泉水槽ハ雨露塵埃ヲ避クル爲メ可成小屋又ハ掩蓋ヲ設クヘシ
- 第四條 下水溝ハ井戸流ヲ距ル三間以内ハ木石若クハ墜土等ヲ以テ之ヲ構造ス
但下水溝ヲ設タルニ支障アル地ハ下水溜ヲ設クルモ妨ナシト雖トモ井戸ヲ距ル三間以外タルヘシ
- 第五條 下水溜ハ前條ニ準シテ之ヲ構造シ該水ハ溢出セサル様時々汲取ルヘシ
- 第六條 井側井戸流下水溝及溜等ノ破損シタルトキハ速ニ修理スヘシ
- 第七條 飲料水汲採場及其近傍ニ於テ汚垢ノ物品ヲ洗濯シ或ハ肉屑殘物ヲ投棄スヘカラス
- 第八條 井戸水道及泉水槽ハ便所肥溜芥溜其他墓地畜場屠場等接近ノ地ニ設クヘカラス
但現ニ本條ニ觸ル、分ハ便所其他ノ障害物ヲ隔離スヘシト雖モ容易ニ改造シ難キモノハ井戸水道ノ周圍ニ木炭等ヲ填充シ汚水滲淫ヲ防クヘシ
- 第九條 居宅園内ニ井戸泉水等飲料水汲採場ヲ要スルモノハ其旨門戸ニ表示スヘシ
但居宅園外ニアルモノハ其所有主ノ姓名ヲ表示スヘシ

第十條 飲料ニ供セス雜用ニ止マルモノト雖トモ第一條及第九條ヲ履行スヘシ

第十一條 警察官吏若クハ衛生委員ニ於テ地視察スルコトアルヘシ

○飲料水検査出願手續ノ件

告示第二百八十三號 (明治三十三年六月二十五日)

飲料水検査出願手續左ノ通相定ム

飲料水検査出願手續

- 第一條 飲料水ノ検査ヲ請ハントスル者ハ出願人ノ住所、氏名及井水、堀貫井水、泉水、河水等ノ別ヲ其願書ニ記載シ且ツ原水凡ソ一升ヲ清淨ナル磁壘又ハ硝子壘ニ容レ新ラシキ「キルク」ヲ以テ密塞シ更ニ之ヲ嚴封シ出願人ノ住所、氏名、水ノ種類等ヲ記載シタル木札ヲ其容器ニ付シ願書ニ添ヘ當廳ニ願出ツヘシ
- 第二條 検査ニ供スル水ヲ採酌セシトスルトキハ先ツ其容器ヲ撰擇スヘキハ勿論採酌前原水ヲ以テ再三其容器ヲ洗滌シタル後採酌スヘシ
- 第三條 検査了リタルトキハ其成績書ヲ下付スヘキニ依リ飲料ニ適シ且ツ相當ノ構造アリテ汚水流入ノ虞ナキモノニハ左ノ標札ヲ付スルハ妨ケナシ

明治	年月	日
檢	査	濟
飲料ニ適ス		

第四條 願書及現品送付ニ係ル一切ノ費用ハ出願人ノ負擔トス

第五條 願書ハ所轄ノ市役所ハ町村役場郡役所ヲ經由シ現品ハ直送スルモ妨ケ

○飲食物玩弄品着色料ノ件

縣乙第二十一號 (明治十九年三月五日)

飲食物及玩弄品着色料ハ其品類ヲ撰ハス安ニ之ヲ使用スルトキハ人身ノ健康ヲ害シ或ハ甚シクモ中毒症ニ罹リ危險ノ至リニ付自今左ニ列記スル無害品ノ外右

着色ニ使用スルヲ許サス

此旨布達候事

但シ左ノ品類外着色料ニ相用度品類ハ其品名産地或ハ製法及製造人姓名ヲ記

シ現品相添願出ツヘシ

白色ノ色質類

胡粉 炭酸石灰ヨリ成ル

角粉 鹿角象牙骨等ヲ白ク燻タルモノニシテ成分燐酸及炭酸ノ石炭鹽ナリ

石膏 一名(硫酸石灰)

白土 白色粘土ヲ淘汰セルモノ

葛粉

アスペスト末 硫酸鹽ヨリナル

滑石ヲ淘汰セルモノ硫酸マクシテヨリ成赤色ノ色質類

鐵丹

猩脂「コックスイリチス」ト唱フル小蟲ノ水液ニ浸シタル木綿ナリ

麒麟血 東印度等ニ産スル麒麟血樹ノ實ヨリ滲漏セル樹脂ナリ

燒製セル酸化鐵

茜草

蘇木

日本紅紅花色ヲ以テ製スルモノ

玫瑰

代赭石淘汰セル(血石)酸化鐵ノ粘土ヲ含ムアリ或ハ含マサルアリ

赤蘇木及アラシリー木ノ浸汁

カルタミーネ紅藍ノ花ヨリ採リタル色質ナリ

赤色ノ漆用色質

コセニールラック

護謨ラック

茜草ラック

赤蘇木ラック

酒精並ニ「リキエール」ヲ染ムルニ用ユル色汁

美人草ノ葉汁

狗骨南天ノ實汁

覆盆子ノ實汁

黃色ノ色質類

黄土、硅酸礬土ノ含ム水酸化鐵ヲ混スルモノ
黃柏及黃柏越幾斯越幾斯トハ物質ノ浸出液ヲ蒸發シテ製スルモノヲ云フ以下

同シ
泊芙蓉

山梔子

楠皮并練ズミ棠梨子皮ヲ以テ製スルモノ

狗骨南天越幾斯

鬱金ウツコン 鬱金根ヨリ製シタルモノハ毒ナシト雖トモ坊間ニ於テ鬱金砂ト稱スル者ハ即チ「ピクリン」酸ニシテ毒アリ注意スヘシ

青色ノ色質類

生藍

藍紙干草紙

花藍蠟

棒藍露

玉藍露

赤蘇木ノ「アルカリ」性浸液并越幾斯

ナルサイレ海草ヨリ得タル暗青色ノ泥

紫色ノ色質類

ラツクムース

紫草根中ノ色質

此他前ニ記載スル無害ノ赤色及青色々質ノ混合物

綠色ノ色質類

青粉 野菜ヲ以テ製スルモノ

挽茶

綠汁鼠李ノ未熟ナル實ヲ細末トシ泡酸セシメ其液ニ明礬ヲ混シ加里ヲ以テ沈澱セシメタルモノ

綠土 硅酸亞酸化鐵ノ加里マクネンヤ及粘土ヲ混スルモノ

此他前ニ記載スル青色及黄色々質混合物

褐色ノ色質類

代赭石

赤石脂 酸化鐵粘土含有ノ者

藏粉

蒲黃

桂枝

綠土 洋名 (ウンブラ) 粘土ニ含水酸化鐵及合水「マクネン」ヲ混スルモノ

鐵綠 洋名 (ピーステル) 酸化滿瀧ト含水過酸化滿瀧トヨリ成ル

此他無害ノ赤色及黑色々質ノ混合物

黑色ノ色質類

骨炭

玉墨

- 黒石脂 黒色ノ「パラヒート」
- 油煙
- 松煙
- 煤植物性ノ炭
- 礦色ノ色質類
- 雲母
- 純金箔及粉
- 純銀箔及粉
- 糖錫箔

○販賣ノ飲食物ニ覆蓋ヲ設ル件

縣令第五一號 (明治二十八年八月)

賣販ノ目的ヲ以テ飲食物(其儘食用スルモノ)ヲ店頭又ハ路傍ニ陳列シ或ハ行商スルルキハ必ス適當ノ覆蓋ヲ設クヘシ違フ者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○飲食物ニ覆蓋ヲ設ケシムル件

警本訓示第一六七號 (明治二十八年十月)

本年八月縣令第五十一號店頭又ハ路傍ニ陳列シ或ハ行商スル飲食物ニ覆蓋ヲ設ケシムル件發布相成候ニ付テハ嚴重ニ取締ヲ爲スヘキハ勿論ノ筈ニ候處往往于今周到セサル向有之哉ニ相聞ヘ遺憾不抄候條此際本令ヲ履行シ目的ヲ達スルコ

トナ期スヘシ

○店舗ニ露列シ及行商スル飲食物販賣者告諭ノ件

告諭第三號 (明治二十年四月二十二日)

飲食物ニ土砂塵埃又ハ蠅虫類ノ附着點集スルハ啞ニ汚穢不潔ナラシムルノミナラス往々傳染病傳播ノ媒介物トナル恐アルヲ以テ店頭露列ノ飲食物ニ覆蓋ヲ設クヘキ旨曾テ告諭及置候處于今實施セサル向有之哉ニ相聞ヘ候條追々溫暖ノ候ニ際シ惡疫發生ノ憂モ有之候ニ付販賣者ニ於テ厚ク此意ヲ體シ店舗又ハ路傍ニ露列シ或ハ行商スル飲食物ニシテ其儘食用スヘキモノニハ必ス適宜ノ覆蓋ヲ設クヘシ

○墓地及埋葬取締規則ノ件

縣令第三二號 (明治二十九年三月)

明治十八年(二月)乙第十四號墓地及埋葬取締規則左ノ通改正ス

墓地及埋葬取締規則

第一條 墓地及火葬場ハ從前許可シタルモノニ限ル 但已ムコトヲ得サル事情アルトキハ之ヲ取廣メ又ハ新設スルコトヲ得

第二條 墓地ヲ取廣メ又ハ新設セントスルトキハ國縣道、鐵道、河川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六十間以上ニシテ土地高燥飲料水ニ障リナク且ツ成ルヘク荒蕪ノ地ヲ選ミ左ノ事項ヲ具備シタル書面二通ニ町村長ノ加印ヲ得所轄警察ト署ヲ經由シ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ 但一戸平均五坪ヲ超過スルヲ得

- 一 出願人ノ住所、族籍、氏名
- 二 町村字番地、地種、地目及其段別
- 三 出願地及其近傍ノ圖面 但圖面中ニハ近傍ノ人家、國縣道、里道(一等)河川、飲用水ノ位置及其直徑距離等ヲ記入スベシ
- 四 他人ノ所有地ニ係ルトキハ其承諾書
- 第三條 火葬場ヲ取廣メ又ハ新設セントスルトキハ國縣道、鐵道、河川ニ沿ハス人家及人民輻輳ノ地ヲ隔ル凡ソ二百間以上ニシテ風上ニ位セラル地ヲ選ミ左ノ事項ヲ具備シタル書面ニ通ニ町村長ノ加印ヲ得所轄警察官署ヲ經由シ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
 - 一 出願人ノ住所、族籍、氏名
 - 二 町村字番地、地種地目及其段別
 - 三 出願地及其近傍ノ圖面 但圖面中ニハ近傍ノ人家、國縣道、里道(一等)河川、飲用水ノ位置及其直徑距離等ヲ記入スベシ
 - 四 火葬、煙筒(縮圖添付)及塙塙若クハ土手ノ構造仕様書 但第六條但書ニ據リ火葬、煙筒ヲ設ケサルトキハ其旨附記ス可シ
 - 五 他人ノ所有地ニ係ルトキハ其承諾書
- 第四條 墓地及火葬場ハ其町村ニ適當ノ場所ナキトキハ他町村ニ設置シ又ハ聯合シテ之ヲ設ケルコトヲ得
- 第五條 墓地ハ周圍ニ樹木ヲ栽エ又ハ土手ヲ築キ他ノ地域ト區別スヘシ

- 第六條 墓地内ニ一丈以内ノ樹木塙塙ヲ存スヘカラス 但從前現存スルモノハ此限リニアラス
 - 第七條 火葬場ハ火爐、煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クヘキ裝置ヲ爲スヘシ 但山林原野ニシテ人家遠隔ノ場所ハ此限リニアラス
 - 第八條 火葬場ハ周圍ニ三尺以上ノ塙塙若クハ土手ヲ設ケ其入口ニ左ノ標木ヲ建ツヘシ
- (横面) 明何年何月何日許可

(正面) 火葬場

凡五寸角
- 第九條 墓地及火葬場ノ樹木ヲ伐採セントスルトキハ町村長ノ加印ヲ得所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ
 - 第十條 墓地及火葬場ハ清潔ヲ旨トシ掃除修繕ヲ怠ル可ラス
 - 第十一條 墓地及火葬場ハ種族、宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ居住シ又ハ其町村ニ於テ死亡シタルモノハ何人ニテモ埋葬又ハ火葬スルコトヲ得 但特別ノ習慣アルモノハ此限リニアラス
 - 第十二條 虎列刺、發疹蜜杖斯、痘瘡患者ノ死體及死刑者ノ遺體ハ各別ニ墓地ノ一隅ヲ區畫シ其内ニ埋葬スヘシ 但本條傳染病患者ト雖モ火葬ノ遺骨ハ此限リニアラス
 - 第十三條 傳染病患者、死産兒及相當官吏ノ許可シタル變死者ノ死體若クハ刑

死者ノ遺骸ハ死後二十四時間ヲ經過セスト雖モ埋葬又ハ火葬スルコトヲ得
第十四條 墳墓ノ深サハ六尺以上トス若シ土地ニヨリ六尺ニ到リ難キモノ及ヒ
火葬ノ遺骨ハ格別ナリトス 但虎列剌、發疹瘰癧、痘疹患者ノ死體ハ八尺
以上トス

第十五條 舊墓地ハ埋葬スルコトヲ得ス 但火葬ノ遺骨ハ警察官署ニ届出埋瘞
スルコトヲ得

第十六條 火葬ハ成ルヘク日出前日没後之レヲ行フヘシ

第十七條 墓地及火葬場ハ管理者ヲ置キ其氏名ヲ町村役場及所轄警察官署ニ届
出ツヘシ其異動アリタルトキ亦同シ

第十八條 死體ヲ埋葬又ハ火葬セントスルトキハ左ノ事項ニ該當スル書面ヲ添
ヘ町村役場ニ届出若クハ火葬認許證ヲ受ケ之レヲ墓地又ハ埋葬火葬場管理者
ニ渡スヘシ

一 病死者ハ主治醫ノ死亡届若シ醫師ノ治療ヲ受クルノ暇ナクシテ死亡シタ
ル者ハ醫師ノ檢案書

二 妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師又ハ産婆ノ死産證

三 變死ニ係ルトキハ檢視官ノ檢印アレ立會醫師ノ檢案書

四 囚徒ノ死屍ハ司獄官ノ死刑執行證明書若クハ司獄官ノ檢印アル獄醫ノ死
亡證寫

第十九條 改葬セントスルトキハ左ノ事項ヲ記シ現葬地管理者ノ加印ヲ得所轄
警察官署ニ願出許可ヲ受ケ之ヲ改葬地ノ管理者ニ渡スヘシ

一 死亡ノ住所、族籍、氏名

二 死亡ノ原因又ハ病名

三 埋葬セシ年月日、場所

四 改葬ノ事由及場所
第二十條 火葬ノ遺骨ヲ墓地ニ埋葬セントスルトキハ死者ノ族籍、氏名、死亡
ノ年月日ヲ記シ管理者ニ届出ツヘシ

第二十一條 管理者ハ第十八條第十九條第二十條ノ手續ヲ爲サシテ埋葬、火
葬、改葬又ハ埋瘞シタル者アルコトヲ發見シタルトキハ直チニ警察官ニ申告
スヘシ

第二十二條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル認許證、許可證、遺骨埋瘞届ヲ編纂
シ一月ヨリ起算シ毎三ヶ月分ヲ取纏メ翌月十日マテニ所轄警察官署ノ檢閲ヲ
受ケ町村役場ニ差出スヘシ

第二十三條 管理者ハ墓地又ハ火葬場ノ圖面及墓籍ヲ調製シ墓籍ニハ死者ノ族
籍、氏名、死亡及埋葬、改葬、遺骨、埋瘞ノ年月日ヲ記入スヘシ

第二十四條 墓標ニ死屍ノ誌銘傳贊等鐫刻シ又ハ別ニ碑表ヲ建設セントスルモ
ノハ左ノ事項ヲ具備シタル書面ニ町村長ノ加印ヲ得所轄警察官署ニ願出許可
ヲ受クヘシ

但單ニ死者ニ死者ノ氏名、族籍、官位、勳爵、法號、生死年月日建立者氏
名ヲ記スルハ此限リニアラス

一 建設ノ場所及墓碑ノ縮圖

二 誌名傳贊ノ全文
 三 墓地外ニシテ他人ノ所有地ニ係ルトキハ其承諾書
 第二十五條 墓地及埋葬取締規則第三條及此細則第二條第三條ニ違背シタル者ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス
 第二十六條 墓地及埋葬取締規則第四條第五條第六條第七條及此細則第七條第八條第九條第十二條第十四條第十五條第十七條ニ違背シタル者ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス
 第二十七條 此細則第二十條第二十二條第二十三條ニ違背シ又ハ第十八條ノ認許證第十九條ノ許可證ヲ管理者ニ渡ササル者ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス
 此細則第五條第六條第十條ニ違背シ官署ノ督促ニ從ハサル者又同シ
 ○墓地取締方ノ件
 警乙號一〇四號 (明治二十二年五月)
 墓地ヲ清淨開閉ノ靈域タラシムルハ一般人民ノ敬愛心ヲ厚フセムル所以ニシテ自然風俗ヲ温良ナラシムルハ一方便タルヤ疑ナ容レス故ニ墓地ノ整然タルヲ將タ蕪雜ナルハ以テ其土地ノ文野ヲトシ人情ノ厚薄ヲ判スルニ足ルト云フモ亦過言ニアラサルヘシ然ルニ輓近ニ至リ墓地取締ノ法漸ク緩慢ニ流レ該取締ヲシテ恰モ警察事務ノ範圍外ニ放擲セシモノ、如ク其一ニナ舉クレハ或ハ墓地其他トノ地所トキ境界互ニ犬牙錯雜シテ區域ノ判明ナラサルアリ或ハ荆棘鬱蒼シテ墓墳ヲ埋没スルアリ甚キニ至リテハ墓地境內ニ於テ私ニ道路ヲ設ケ縱橫ニ貫通

スルコト一般道路ト異ナラサルモノ比比皆然リ此等ハ畢竟墓地ノ美觀ヲ損シ從テ風俗ヲ温厚ナラシムルノ道ニアラサルヲ以テ以後漸次ニ之レカ取締ヲ爲シ以テ整然淨地タルニ負カサルヲ期セサルヘカラス且又墓地濫設ノ弊及埋葬法ノ不完全其他墓地ヲ新設スヘキ場所ニ對スル檢査法ノ杜撰ナル等往往可有之哉ニ相聞ヘ右ハ經濟上衛生上ニ重大ノ關係ヲ有スルモノナレハ此等詳細ノ取締方法ニ付テハ別ニ保安課長ヨリ通牒可致候條自今本件ニ對シテハ一層精細ノ審査ヲ遂ケ決メテ不都合ナキ様取計フヘシ

○埋葬認許証雛形ノ件

訓令甲第三十九號 (明治二十七年七月二十三日)

町村役場

明治十八年(四月)丁第二十六號埋葬認許証雛形左ノ通改正ス

埋葬認許証雛形 堅凡五寸

第何號	本籍住所身分
病名死亡年月日時	氏名
火葬認許證	何年何月何日
何年何月何日	何郡
	何町村長 氏名
	名

川市川市

用紙厚紙紙質適宜

○埋火葬認許証ハ町村役場ニ於テ下付方ノ件
訓令甲第三十六號 (明治二十七年七月二日) 町村役場

今般縣令第六十四號ヲ以テ墓地及埋葬取締細則第十六條ニ關スル諸届手續廢止ニ付テハ自今埋火葬認許証ハ死亡地ノ町村役場ニ於テ相渡候儀ト心得ヘシ

○埋火葬認許証ト死産證書等ハ各別ニスルノ件
訓令甲第六十二號 (明治三十三年七月四日) 郡市役所 町村役場

墓地及埋葬取締規則ニ依リ死産ニ關シ埋火葬認許証ヲ與フルトキハ其順序ニ從ヒ特別ニ番號ヲ附スヘシ

○官有地ヲ拂下ル墓地又ハ火葬場ヲ調査方ノ件
衛第五二九號 (明治三十三年五月二十三日) (衛生課長)

官有地拂下ヲ受ケ墓地又ハ火葬場ノ取撥若クハ新設ヲ出願スルモノアリタルトキハ墓地及埋葬取締細則取扱手續ニ依ルノ外處理方明治二十九年八月保第一二九一號ヲ以テ及通牒置候ニ付從來該通牒ニ依リ御取扱相成居候處元來官有地拂下ノ許否ハ主務省ノ指令ヲ俟テ處理スル趣キニ有之爲メニ荏苒數ヶ月ヲ經過スト雖トモ今尙ホ未濟ノ件アリ處理上差支候ニ付キ自今ハ出願人ノ便利ヲ謀リ處理上降速ヲ期セン爲メ明治三十三年八月農商務省令第二十五號國有林野法施行規

則ニ基キ火葬場ニ就テハ同則第五章以下ニ依リ貸付願ノ手續ヲ墓地ニ就テハ同則第七章ニ定メラレタル規則ニ依リ讓與願ヲ地元市町村長ノ名義ヲ以テ所轄小林区署ヲ經テ管轄大林區署長ニ宛テ出願セシメ其許可ヲ得タル後該寫ヲ添付シ出願セシメラレ候様致度此段及通牒候也

追テ明治二十九年八月保第一二九一號通牒第一項第五號明治二十四年九月農商務省告示第八項官有森林原野及產物特賣規程ハ明治三十二年八月農商務省令第二十六號國有林野及產物賣拂規則附則第五十一條ニ依リ廢止セラレ候ニ付警察類典加除訂正相成度爲念此段申添候也

○化製場取締規則ノ件

縣令第二九號 (明治二十八年四月)

第一條 本則ニ於テ化製場ト稱スルハ獸畜ノ死屍ヲ原料トシ肥料、脂肪、膠ヲ製造スル場所ヲ云フ

第二條 化製場ヲ新設又ハ移轉セントスルモノハ左ノ事項ヲ具備シタル書面ヲ以テ所轄警察官署ヲ經由シ縣廳ニ願出許可ヲ受ケヘシ

一 出願人ノ住所、族籍、氏名、年齢

二 化製場敷地ノ位置、構造、坪數及其略圖

三 化製場敷地ノ近傍見取圖(圖面ニハ國鐵道、鐵道線路、人家、飲)

四 借地ナルトキハ地主ノ連署又ハ承諾書若シ官地ナルトキハ其許可書ノ寫

第三條 化製場ノ構造ヲ變更セントスルトキハ其圖面ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經

由縣廳ニ出願許可ヲ受クヘシ

第四條 化製場ノ新設、移轉又ハ變更ノ許可ヲ得工事落シタルトキハ所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クヘシ

新設移轉又ハ變更ノ許可ヲ得タル後正當ノ理由ナクシテ三月以内ニ工事ニ着手セサルモノハ許可ノ效ヲ失フ

第五條 轉居、改氏名其他身分ニ異動ナ生シタルトキ又ハ廢業シタルトキハ七日以内ニ所轄警察官署ヲ經由シ縣廳ニ届出ツヘシ

化製場ヲ讓渡シタルトキハ讓受人連署ノ上前項ノ例ニ依ルヘシ

第六條 化製場ノ位置、構造等ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

- 一 化製場ノ位置ハ國縣道、鐵道線路、人家、飲料水及人家ニ使用スル流水ヲ距レコト各百二十間以上トス
- 二 火焚場、煙筒等ハ火災ノ虞ナキ構造スヘシ
- 三 化製場ニハ窓扉又ハ屋上ニ空氣抜ヲ設クヘシ
- 四 化製場ノ外圍ハ高サ五尺以上ノ牆壁ヲ設クヘシ
- 五 化製室及原料ノ置場ハ血液汚汁等地盤滲流セサル様裝置シ且ツ汚物溜ニ通スル溝渠ヲ設クヘシ
- 六 汚物溜ハ不滲透質ノモノヲ以テ造リ且ツ適當ノ蓋ヲ設クヘシ

第七條 化製ノ原料ヲ運搬スルトキハ覆蓋アル箱又ハ桶ヲ用ユヘシ

化製ノ原料ハ場外ニ於テ乾燥、洗滌等總テ取扱ヲ爲スヘカラス

第八條 化製場ハ常に清潔ニナシ毎日一回以上掃除スヘシ

第九條 化製場ニハ左式ノ看板ヲ掲クヘシ
 堅三尺

用材適宜
化製場
住 所
氏 名
寸 八 幅

第十條 牛痘、炭疽熱、鼻疽、皮疽、傳染性胸膜肺炎、傳染性齶口瘡、羊痘ニ罹リタル獸畜ノ死屍ハ化製ノ原料ニ用ユルコトヲ許サス

第十一條 第二條第三條第四條第一項第七條第八條第十條ヲ犯シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十三條 從來ノ化製場ニシテ繼續營業セントスル者ハ本則ニ依リ本年五月三十一日迄ニ縣廳ニ願出ツヘシ

第十四條 從來ノ化製場ニシテ本則第六條ニ抵觸スルモノハ明治二十九年三月三十一日迄移轉又ハ改造ヲ猶豫ス

○胞衣及産穢物取扱方ノ件

縣令第三十一號 (明治二十七年三月二十八日)
 胞衣及産穢物ハ住家ニ接近セル場所ニ埋納ス可ラス

胞衣及産穢物取扱營業者ハ一定ノ埋納焼却場ノ外埋納又ハ焼却スルヲ許サス
前項ノ營業ヲ爲サントスルモノハ埋納焼却場ノ地名、坪數、構造等詳記シ圖面
ヲ添付シ所轄警察官署ヲ經由シ縣廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
(願書式)

胞衣及産穢物取扱營業願

何郡何町大字何字何番地ノ内

一 地目何反何畝歩

右胸衣埋納地

同

右産穢物焼却場

右ハ本年三月縣令第三十一號ニ依リ前記ノ地所ヲ以テ胞衣埋納地及産穢物焼
却場トシ營業仕度別紙構造圖面相添此段奉願候也

何郡何町大字何字何番地

年 月 日

願 人 氏 名

同

同 同

(以下倣之)

同

地 主 同

縣 知 事 宛

○獸畜死屍取締規則ノ件

縣令第五十號 (明治三十三年六月二十五日)

明治二十一年(六月)縣令第六十五號獸畜死屍取締規則左ノ通改正シ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス

獸畜死屍取締規則

第一條 本則ニ於テ獸畜ノ死屍ト稱スルハ牛馬羊豚犬猫ノ死体ヲ謂フ

第二條 獸畜ノ死屍ハ其所有者、所有者若シ不明ナルトキハ死屍所在地ノ地主
家主又ハ市町村ニ於テ死屍處分ノ方法處分ノ月日時及處分ノ場所ヲ口頭若
クハ書面ヲ以テ牛馬羊豚ハ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ所轄警察官署又ハ巡査駐在所
ニ届出承認ヲ受クヘシ

第三條 獸畜ノ死屍所有者又ハ死屍所在地ノ地主遠隔ニシテ直ニ處分スルコト
能ハサルトキハ死屍所在地ノ地主又ハ其市町村ニ於テ處置スヘシ

第四條 獸畜ノ死屍ハ人家及飲料水國道縣道鐵道ヲ距ル二百間以内ノ地ニ於テ
埋焼却皮骨ノ剝取又ハ解体ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 死屍ヲ埋却スル擴穴ノ深サハ牛馬ニアリテハ八尺以上羊豚犬猫ニアリ
テハ三尺以上トス

第六條 死屍ヲ燒却スルニハ適當ノ方法ヲ以テ充分ニ之ヲ燒盡シ未燃燒物ヲ殘
留セシムヘカラス

第七條 獸畜死屍ノ埋焼却場若クハ皮骨剝取場ヲ設置セントスルトキハ本則第

五條ノ規定以外ノ土地ニシテ左ノ事項ヲ具備シ所轄警察官署ヲ經由シ當廳へ願出許可ヲ受クヘシ

其變更ヲ要スルトキ亦同シ

一 地種地目反別及四隣ノ地種地目并ニ地形圖面

二 人家飲料水國道縣道鐵道トノ距離

三 土地官有ニ係ルトキハ許可證ノ寫他人ノ所有ニ係ルトキハ承諾書又ハ地主ノ連署

第八條 獸畜死屍埋焼却場ハ一市町村ニテ所以上設置スルコトヲ得ス 但土地ノ狀況ニ依リ必要ト認メタルトキハ特ニ許可スルコトアルヘシ

第九條 獸畜死屍埋焼却場ニハ標木ヲ建設シ其境界ヲ明ニスヘシ

第十條 肥料ニ供スル目的ヲ以テ獸畜ノ死屍ヲ溜桶ニ貯藏セントスルモノハ本則第四條規定以外ノ地ニ其溜桶ヲ設置シ且ツ之ニ堅牢ナル覆蓋ヲ設クヘシ但田畑又ハ山林原野ニ設置スル溜桶ニシテ堅牢ナル覆蓋ヲ有スルモノハ此限ニアラス

第十一條 獸畜死屍ノ埋焼却場ニハ管理者ヲ置キ不潔ナラシメサル様常ニ注意セシムヘシ

第十二條 死屍ノ焼却ハ成ルヘク日没後ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十三條 本則第二條第四條第五條第六條第七條第十條ニ違背シタル者八十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○中毒品類告諭ノ件

告諭第一號 (明治二十二年七月十二日)

毎年夏期ノ候ニ於テうつぎ中毒ノ爲メ相繼レ候モノ往々報告有之右ハ其實ノ鮮紅美麗ナルヨリ多ク兒女子等之レヲ採リ遊戯甞弄スルノ際誤テ之ヲ食スルニ出ツルヲ以テ各自父兄等ニ於テ兒女子等ニ懇篤説示シ不虞ノ患毒ニ罹カラサル様精々注意スヘシ

毒うつぎハ山野殊ニ河原ニ多ク灌木ニマテ高サ二三尺ヨリ五六尺ニ至ル幹ハうつぎニ似テ葉ハ兩對排生シ形テ尖長ニシテ三縱道アリ初夏經色ノ穂ヲ抽細花簇生シ赤色扁圓ノ莢ヲ結熟シク鮮紅甚タ美ナリ今其名稱各地異ナルヲ以テ左ニ略記ス

山うつぎ かなうつぎ 河原うつぎ 毒の木 馬洗うつぎ 鳥驚シ 猿殺
人ころばん なべはり ねつみころし ねつころし いちろべころし わ
うれんじゆ ふろしきづみ
又此木ニテ嚼キ殺キ若クハ薪ニ雜ヘテ味噌ヲ燒キ食ヘハ死ス故ニ罨不燒、味噌不燒ノ名アリ

○變死者中毒者ニ對シ毒劇藥買入レノ方法等

報告方ノ件

訓令第一九號 (明治三十三年八月一日) (警 部 長)
近來毒劇藥ヲ服用シ自殺又ハ中毒ニ罹ル者少ナカラス就テハ今後右等之變死者

又ハ中毒者有之節ハ毒劇購買入レノ方法及其買入先等詳細取調其都度報告スヘ

○理髮營業者取締規則ノ件

縣令第五十二號 (明治三十三年六月二十五日)

理髮營業者取締規則左ノ通相定メ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス

理髮營業者取締規則

- 第一條 本則ハ店舗ヲ開キ若クハ店舗外ニ於テ剃鬚斬髮ノ營業ヲ爲ス者ニ適用ス
- 第二條 理髮店舗ノ開設又ハ店舗外營業ヲ爲サムト欲スル者ハ其住所氏名年齢ヲ記シ開業前所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ
- 第三條 營業者轉居改氏名又ハ廢業ノ時ハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘ
- 第四條 癩痢又ハ皮膚ニ疾患アルモノ殊ニ傳染性ノ疾患アル者ハ理髮業ニ從事セシムヘラス
- 第五條 店舗内ハ常ニ清潔ナラシメ毛髮等ハ一定ノ容器ニ納メ床上ニ散亂セルムヘカラス
- 第六條 營業用ノ湯水及客ニ供スル椅子座布團手拭頸卷浴布刷毛櫛ノ類ハ清潔ナルモノヲ用ユヘシ
- 第七條 營業ニ從事スル者ハ純白ナル衣服ヲ纏ヒ且ツ一客ノ理髮終ル毎ニ必ス石鹼ヲ以テ手指ヲ洗淨スヘシ

第八條 店舗内營業者ハ二十倍ノ炭酸曹達溶液ヲ備ヘ店舗外營業者ハ該液ヲ携帶シテ剪刀剃「シヤキ」櫛刷毛等ヲ使用後毎回洗淨スヘシ 但炭酸曹達溶液ハ毎日一回以上取換ユヘシ

第九條 剃髮斬髮ハ際使用セタル手拭頸卷ハ使用後毎回洗滌シ覆布ハ必ス白布ヲ用キ且ツ少クトモ一週間ニ一回以上洗濯スヘシ

第十條 皮膚ニ疾患アル者其他傳染性ノ疾患アリト認めル者ニ對シ理髮シタルトキハ二十倍ノ石炭酸水ヲ以テ其手ヲ洗ヒ更ニ清水ヲ以テ濯キ且該容ニ使用シタル覆布手拭頸卷等ハ二十倍ノ石炭酸水ニ二十時間以上浸漬シタル後洗濯シ若ハ熱湯中ニテ三十分以上煮沸シ剃刀「シヤキ」櫛、刷毛等ノ類ハ二十倍ノ石炭酸水ニ浸漬シタル後更ニ清水ヲ以テ洗拭スヘシ 但本項ハ消毒ノ他ノ方法ニ依ルモ妨ケナシト雖トモ此場合ニ於テハ其方法ヲ所轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

第十一條 雇人等ノ所爲ト雖トモ總テ店舗主其責ニ任スヘシ

第十二條 警察官吏ハ時々其店舗ニ臨ミ檢査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條 本則第二條乃至第十條ニ違背シタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十四條 従前ノ理髮營業者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ本則第二條ノ手續ヲ履行スヘシ

第十五條 本則施行ニ關シ一郡又ハ一市町村若ハ聯合シテ同業者ノ組合ヲ設ケ

規約ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ得テ施行スルコトヲ得

○理髮營業者取扱取締手續ノ件

訓示第二二號 (明治三十三年八月二十五日) (警察部)

理髮營業者取扱取締手續左ノ通相定ム

理髮營業者取扱取締規程

- 第一條 理髮營業者取扱取締規程第二條ノ届出アリタルトキハ左ノ各號ヲ調査シ不都合ナキモノハ認可スヘシ
- 一 規則第五條ノ容器第六條ノ物品及第七條ノ白衣ヲ設備シアルヤ否
- 二 規則第八條ノ藥品及器具ヲ設備シアルヤ否
- 三 白衣、頸卷、及覆布ハ取換ヒ得ヘキ豫備品アルヤ否
- 四 理髮業ニ従事スル者癩病又ハ傳染性ノ疾患アル者ニアラサルヤ否
- 第二條 理髮營業者取扱取締規程第十條但書ニ依リ届出タルトキハ消毒ノ方法ヲ審査シ不都合ナキモノハ認可スヘシ
- 第三條 理髮營業者取扱取締規程第十五條ニ依リ届出タルトキハ調査ヲ遂ケ不都合ナキモノハ認可スヘシ
- 第四條 警察官吏ハ時々營業者ノ店舗ニ臨ミ左ノ事項ヲ検査スヘシ
 - 一 規則第四條ノ疾患者理髮業ニ従事シ居ラサルヤ否
 - 二 規則第五條乃至第九條ノ物品ヲ設備シ且ツ清潔ナルモノヲ使用シ居ルヤ否
 - 三 規則第十條ノ消毒方法ヲ履行シ居ルヤ否

其他規則ニ基キ注意スヘキ事項

第五條 警察官吏ハ左記様式ノ理髮營業者臺帳ヲ調製シ異動アル毎ニ加除ス

許可	明治	年	月	日	住所
轉居	明治	年	月	日	族稱
改氏名	明治	年	月	日	氏名
廢業	明治	年	月	日	年齢

○各種工場ニ於テ負傷者患者届出方ノ件

縣令第四十三號 (明治三十二年六月)

各種ノ工場(鑛山業、炭山業、製糸場、紡績業、機業場、陶器、磁器、漆器其他ノ工業場)ニ於テ入院治療ヲ要スル程ノ負傷者ヲ生シタルトキハ其首長管理人又ハ其代理者ヨリ即時所轄警察署ニ届出ツヘシ

寄宿舎又ハ社宅アル工場ニ於テハ其首長管理人又ハ其代理者ヨリ毎月末日現在其社宅ニ在ル職工數及其患者數ヲ翌月三日迄ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ但本項ノ患者中疾病負傷ノ爲メ休業三十日以上ニ涉ル者アルトキハ其職名姓名年齢病症等ヲ詳細ニ附記スヘシ

第二項職工數及其患者數ハ本年一月以降六月盡日迄ノ數ヲ取調來ル七月五日迄

ニ其首長管理人又ハ代理者ヨリ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

○工場衛生ニ關スル件

訓示第五七號 (明治三十二年六月)

工場衛生ニ關スル件ニ付今般令達ノ次第モ有之候處左ノ例ニ據リ取扱ハルヘシ

一 縣令第四十三號第一項ノ届出及第二項末段ノ病傷者アリタルトキハ現場

ニ臨ミ負傷者救護ニ關スル顛末ヲ視察シ其狀況ハ詳細報告スヘシ

一 第二項職工數及其患者數ハ各工場別ニ取調毎年一月七月兩度ニ前半年度表ヲ製シ報告スヘシ

一 縣令第四十三號第三項ニ掲ケタル届出アリタルトキハ各工場ハ別ニ前項ニ左倣ヒ取調ヘ來ル七月十日迄ニ報告スヘシ

第十八類 統計

○勸業通信規則ノ件

縣令乙第四十二號 (明治十九年六月三十日)

郡 役 所 「戸長役場」

勸業通信規則及通信事項様式別冊ノ通改正ス

但此規則ニ關スル從則ノ違指令ハ總テ廢止ス

右相違候事

勸業通信規則

第一條 農工商山林ニ關スル事件ハ此規則ニ依リ郡役所「戸長役場」ヨリ縣廳ニ報告スヘシ

但主務課郡役所「戸長役場」ハ互ニ諮問應答スルコトアルヘシ

〔戸長役場ノ下ニ勸業通信委員トアリシヲ二十六年三月福島縣訓令第三號ヲ以テ削除又主務課ハ元勸業課トアリシヲ二十八年三月福島縣訓令第七號ヲ以テ改正〕

第二條 通信ヲ分チ定期臨時ノ二種トス

第三條 定期報トハ時ニ報告期限ヲ定メタルヲ云フ

第四條 臨時報トハ事ト時トキ問ハス臨時報告スヘキモノヲ云フ

第五條 定期報ハ勸業通信事項様式ニ掲記セタル毎報道期十五日前ニ町村役場

ハ郡役所ヘ報告シ郡役所ハ調査統計シテ該報道期ニ縣廳ヘ報告スヘシ(二十年八月三月福島縣訓令甲第七號ヲ以テ改正)

但通信事項様式中他ニ報告ヲ依囑スル明文アルモノハ此限ニアラス(二十年

二年十一月福島縣訓令甲第二百號ヲ以テ追加)

第六條 臨時報ハ郡役所「戸長役場」ヨリ直ニ縣廳ヘ報告スルモノトス

但非常ノ變異ニ係ル場合ハ急報スヘシ

第七條 通信事項並様式報告期限ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 報告上物質狀等文辭ニ盡シ難キモノハ圖畫寫眞雜形若クハ見本等ヲ添

ヘ數量比例歩合等ニ依ルモノハ表ヲ附スヘシ

第九條 報告ハ可成平易ノ文字ヲ用キ又數量歩合等ニシテ地方慣用ノ稱呼アル

モノ及ヒ方言等ハ加フヘシ

(別冊様式)異ス

○勸業通信事項様式ノ件

縣訓令甲第八十一號 (明治三十二年十二月二十八日)

郡役所 市役所 町村役場

勸業通信事項様式別冊之通改正ス

(別冊)

福島縣勸業通信事項様式目錄及備考

一般ノ注意

一 備考ニハ前年若クハ平年ニ對スル増減理由及其年ノ概況並將來ノ

模様ヲ記スヘシ

一 事實ヲキモノハ「」又事實未詳ノトキハ「未詳」ノ二字ヲ記スヘシ

第一 耕作捕魚採藻業(調査毎年報告期翌年四月十日限)

一 戸内各人ノ職業ニ拘ラス該戸ノ首長タル者ノ營ム職業ニ依リ其事實ヲ採集スルモノトス

一 該戸ノ首長タル者事故アリテ自ラ家業ヲ營マスト雖モ其家ニ於テ之ニ代

ル者アルトキハ尙本表ノ戸數ニ算入スヘシ

一 耕作業ヲ專業トシテ自作ト小作トヲ兼ル者又之ヲ兼業トシテ自作ト小作

トヲ兼ル者ハ自作小作ノ内重ナル方ニ記入スヘシ

一 捕魚採藻業ニシテ耕作業ノ自作ト小作トヲ兼ル者亦前項ニ同シ

一 專業ノ欄ニハ耕作又ハ捕魚採藻ノ業ヲ一途ニ營ムルモノヲ記入スヘシ

一 耕作業中兼業ノ欄ニハ耕作業ヲ本トスルト否トヲ問ハス總テ該業ト他ノ

業(採魚採藻ヲ除ク)トヲ併セ營ムモノヲ記入スヘシ

一 耕作業中捕魚採藻兼業ノ欄ニハ耕作業ヲ本トシテ捕魚採藻業ヲ兼テ營ム

モノヲ記入スヘシ

一 捕魚採藻業中ノ兼業ノ欄ニハ捕魚採藻業ヲ本トスルト否トヲ問ハス總テ

營業ト他ノ業(耕作業ヲ除ク)トヲ併セ營ムモノヲ記入スヘシ

一 捕魚採藻業中耕作兼業ノ欄ニハ捕魚採藻業ヲ本トシテ耕作業ヲ兼テ營ム

モノヲ記入スヘシ

第二 耕作地 (調査毎年、報告期翌年四月十日限)

一 段別ハ土地臺帳ニ符合スルヲ要ス

一 畑ノ段別ハ一毛作二毛作ニ拘ラス現段別ヲ掲クヘシ

一 苗代田ハ植付ヲ爲サル、モ之ヲ作付段別ニ算入スヘシ

- 一 自作小作ノ段別ハ作付不作付ニ關ラヌ調査スヘシ
- 第三 米 (調査毎年、報告期翌年一月十日限)
 - 一 苗代跡地ニテ作付セサルモノハ本表作付段別ニ加入スヘカラス
 - 一 一段歩収穫高ノ計數ハ單位以下三位ヲ存スルモノトス
- 第四 麥 (調査毎年、報告期其年八月十日限)
 - 一 一段歩ノ収穫高ノ計數ハ前表ニ同シ
- 第五 米作被害(調査毎年、報告期其年十一月十日限)
 - 一 被害ノ方部及其月日概況及ヒ前年ニ對スル損害ヲ記スヘシ
 - 一 虫害ハ其種類及蔓延ノ概況ヲモ記入スヘシ
- 第六 食用及特用製產物(調査毎年、報告期翌年二月十日限)
 - 一 實綿、葉藍、葉煙草等ハ乾燥シタルモノ大麻ハ莖ヲ去リ且乾燥シタルモノヲ以テ數フヘシ
 - 一 何レトアル欄ヘハ所掲ノ外地方ニ於テ重要ナル食用若クハ特用農產物トシテ耕作スルモノヲ掲クヘシ
- 第七 桑畑及茶畑段別(調査毎年六月末日現在、報告期其年八月十日限)
 - 一 見積段別ノ欄ニハ桑茶畑以外ニ散在セル桑茶ノ株數ヲ近傍桑茶畑ニ比準シ段別ヲ見積リテ記スヘシ
- 第八 桑畑被害(調査毎年、報告期其年十一月十日限)
 - 一 備考記入方ハ米作被害ニ同シ
- 第九 春蠶 (調査毎年、報告期其年八月十日限)

- 一 飼養戸數ハ其盛期ノ戸數ヲ期スヘシ
- 一 價額ハ生産者ヨリ製糸家若クハ仲買人等ニ賣渡ス相場ニテ記入スヘシ
- 一 以下諸表ノ價額モ亦之ニ準ス
- 一 備考ニハ其狀況(氣候ノ適否、飼養ノ經過桑葉ノ過不足)ヲ記スヘシ
- 一 天蠶作蠶ハ本表ニ進シ別表トナスヘシ
- 第十 夏秋蠶(調査毎年、報告期其年十一月十日限)
 - 一 備考記入方春蠶ニ同シ
- 第十一 蠶糸類及真綿蠶種(調査毎年、報告期翌年二月十日限)
 - 一 製糸戸數ハ其年七月末日現在又蠶種糸製造戸數ハ其年七月末日現在ヲ記スヘシ
 - 一 (指定ノ月日ニ季節ニ違セサルトキハ盛期ノ數ヲ記スヘシ)
 - 一 蠶種製造枚數蠶數ハ其年中ニ製造セシモノヲ掲クヘシ
 - 一 備考トシテ其年製糸ノ概況(繭解舒ノ長否品質ノ如何等)ヲ記スヘシ
- 第十二 茶 (調査毎年、報告期翌年三月十日限)
 - 一 製造戸數ハ其年五月末日現在ヲ記スヘシ(指定ノ月日ニ季節ニ違セサルトキハ盛期ノ數)ヲ期スヘシ
 - 一 焙爐ヲ裝置セテ多量ニ製造スルモノハ自家用ト雖モ調査スヘシ
- 第十三 砂糖 (調査毎年、報告期翌年三月十日限)
 - 一 製造戸數及搾車數ハ其年十二月末日現在ヲ記スヘシ
 - 一 白下ニハ製糖ノ原料ニ充テタル量ヲモ合算スヘシ

- 一 洋式搾車アルトキハ別ニ之ハ記スヘシ
- 第十四 漆汁 (諸查毎年、報告期翌年三月十日限)
 - 一 漆樹數及製造戸數ハ其年八月末日現在ヲ記スヘシ
 - 一 漆樹ハ漆汁ヲ採リ得ルモノノミヲ記スヘシ
- 第十五 牛馬 (調査毎月十二月末日現在、報告期翌年三月十日限)
 - 一 本表中ニハ中央官應用ノモノ、外總テ合算スヘシ
 - 一 其年中ニ出產シテ死亡シタルモノハ出產ノ欄ト斃死ノ欄トノ双方ニ記スヘシ
- 第十六 獸疫ニテ死セシモノト雖モ撲殺セシモノ、外ハ總テ斃死ノ欄ニ記スヘシ
- 第十七 羊豚及鶏 (調査毎年十二月末日現在、報告期翌年三月十日限)
 - 一 鶏卵ハ其年一ケ年中ニ產出セシ數ヲ記スヘシ
 - 一 屠殺 (調査毎年、報告期翌年三月十日限)
 - 一 斤量ハ内臓及毛皮ヲ除キタルモノヲ掲ケ且検査濟食品ニ適スルモノタルヘシ
 - 一 一斤ハ百六十匁ヲ以テ計算スヘシ
 - 一 成牛トハ二歳以上額トハ當歳ノモノヲ云フ
- 第十八 會社 (調査毎年十二月末日現在、報告期翌年三月十日限)
 - 一 本票ハ一會社毎ニ雛形ノ通り記入シ一票毎ニ番號ヲ附シ之ヲ一括シテ其封筒ニ總計何枚ト記スヘシ
 - 一 會社種類ノ欄ニハ合名、合資、株式合資ノ別ヲ記スヘシ

- 一 營業種別ノ欄ニハ何々賣買若クハ何々製造ト記スヘシ但シ了解シ難キ者ハ註釋ヲ加フヘシ
- 一 社債トハ社債券ヲ發行シテ弘ク債權者ヲ募集シ以テ金員ヲ借入ル、モノヲ云フ
- 一 損益金及配當割合ハ最近ノ一ケ年分ヲ記スヘシ
- 一 支店ニ於テハ金錢以外ノ各事項ヲ記入報告スヘシ
- 一 會社ニシテ工場ヲ有スルモノハ別ニ工場票ヲ差出スヘシ
- 一 本票用紙ハ厚紙ヲ用ヒ其寸法ハ曲尺縱五寸横四寸五分トス
- 第十九 綿絲紡績 (調査毎年、報告期翌年四月十日限)
 - 一 職工ハ平常使用スル數(一日ノ)ヲ記スヘシ
 - 一 賃錢ハ老幼ヲ除キ一日一人ノ平均ヲ記スルモノトス但幼年者ヲ用ユル事アレハ其賃錢ヲ別ニ記スヘシ
- 第二十 織物 (調査毎年、報告期翌年三月十日限)
 - 一 機業戸數(機業ヲ業トスル工場、機械ヲ營業トスル獨立營業)及機數ハ其年十二月末日ノ現在ヲ記スヘシ
 - 一 職工ハ平常使用スル數(一日ノ)ヲ記スヘシ
 - 一 機械機トハ水力、蒸力、瓦斯力等ニヨリテ運轉スル機械織機ヲ云フ以外ハ凡テ(ハッタン機ノ如キモ)手織機ト必得ヘシ
 - 一 其他ノ織物ノ欄ニハ反物ノ形體ヲナシテ所掲ノ部類ニ入ラサル織物ヲ記スヘシ

- 一 本表ニハ自家用織物ハ合算スヘカラス
- 一 帶地ハ子供帶ハ男女トモ二本ヲ以テ一本ニ數ヘ女帶地半巾物ハ二本ヲ以テ一本トス
- 一 匹ハ反ニ換算シ(平絹ハ匹)其他卷、本、枚、碼等ヲ以テ稱呼スルモノハ數量價額トモ各自別ニ列載スヘシ
- 第二十一 蠶表吳薩莞莖(調査(自毎年七月)至翌年六月)一ケ年、報告期翌年九月十日限)
 - 一 製造戸數ハ其年十二月末日現在ヲ記スヘシ
 - 一 莞莖一本トハ四十「ヤード」ヲ云フ
- 第二十二 陶磁器(調査毎年、報告期翌年四月十日限)
 - 一 製造戸數ハ其年十二月末日現在ヲ記スヘシ
 - 一 職工ハ平常使用スル數(一日ノ)ヲ記スヘシ
 - 一 實用品何分裝飾品何分又ハ何ヤノ類ト記スヘシ
 - 一 價格ハ一般卸賣相場ヲ以テ計算スヘシ
- 第二十三 漆器(調査毎年、報告期翌年四月十日限)
 - 一 備考記入方陶磁器ニ同シ
- 第二十四 工産物雜類(調査毎年、報告期翌年四月十日限)
 - 一 製造戸數ハ其年十二月末日現在職工ハ平常使用スル數(一日ノ)ヲ記スヘシ
 - 一 價格ハ一般卸賣相場ヲ以テ計算スヘシ
 - 一 備考欄ニハ各種ノ首要産地及其算出高ノ割合並ニ業務ノ概況ヲ記スヘシ

- 一 何カトアル欄ニハ本表列記外ノモノニシテ其地方ノ重要品ト認ムルモノヲ記スヘシ
- 第二十五 工場(調査毎年十二月末日現在、報告期翌年三月十日限)
 - 一 本表ハ一工場毎ニ縦形ノ通り記入スヘシ一票毎ニ番號ヲ附シ之レヲ一括シテ基封筒ニ總計何枚ト記スヘシ
 - 一 本票ハ工場所有主ノ會社タルト一個人タルヲ問ハス職工十人以上ヲ有スル總テノ工場ニ通スルモノトス
 - 一 分工場ハ本工場ト區別スル爲メニ分工場ト記スヘシ
 - 一 製造品種ニハ往々了解シ難キモノアレハ其用途性質ヲ明ニ記スヘシ
 - 一 原動力ノ欄ニハ蒸氣力、水力電氣力、瀛力電氣力、水力瀛力併用電氣力、水力、瓦斯力、風力等ト記スヘシ
 - 一 職工數ハ平常使用スル數(一日ノ)ヲ掲グルモノトス
 - 一 日傭労働人夫ハ見通シ一日ノ人數ヲ記スヘシ但杜氏ノ如キハ職工トシ水汲及米搗ノ如キハ日傭労働人夫トス
 - 一 職工ノ賃金ハ概略平均一人一日ノ賃錢ヲ掲クルモノトス但高低ニ拘ラス最モ多クノモノカ一日ニ受クル高キ記スルモノトス
 - 一 就業日數ハ休業日ヲ除キタル一箇年中ノ日數ヲ記シ一日就業時間ハ平均何時間若クハ夏ハ何時間冬ハ何時間ト記スヘシ
 - 一 日本形水車ハ機關數欄ニ日本形水車幾個ト記スヘシ
 - 一 本票用紙ハ厚紙ヲ用ヒ其大サハ曲尺縱五寸五分廣四寸五分トス

- 第三十六 漁船(船調査毎年、報告期翌年三月十日限)
 - 一 現在敷ノ欄ニハ其年十二月末日現在ノモノヲ記スヘシ
 - 一 新製ノ欄ニハ其年内竣工ノモノヲ記スヘシ
 - 一 廢用漁船トハ漁用ニ堪ヘスヲ使用ヲ廢シタルモノヲ云フ但難破船ヲ加フヘカラス
 - 一 廢用漁船ノ平均船齡ハ其欄ニ記入スル各船ノ年齡ヲ合計シ船ノ總數ヲ以テ除シタルモノヲ掲クヘシ又計ノ欄ニ記入スル平均船齡ハ該欄ニ記入スル各船ノ年齡ヲ合計シ船ノ總數ヲ以テ除シタルモノヲ掲クヘシ上ノ三欄ニ記載シタル平均船齡ヲ平均スヘカラス
- 第二十七 雜破漁船(調査毎年、報告期翌年三月十日限)
 - 一 本表ハ船籍所在地ヨリ報告スヘシ
- 第二十八 漁獲物(調査毎年、報告期翌年三月十日限)
 - 一 本表ハ何方ニテ漁獲セシヲ問ハス所屬漁民ノ捕獲シタルモノヲ悉皆記スルモノトス
 - 一 何々トアル欄ニハ各地方ニ於ケル重要ナル漁獲物ヲ列記シ右側ニ假名ヲ附スヘシ
 - 一 其他ノ欄ニハ本表列記外ノ水産鹹水淡水産物ノ價額ヲ記スヘシ
- 第二十九 水産製造物(調査毎年、報告期翌年三月十日限)
 - 一 何々トアル欄ニハ各地方ニ於ケル重要ナル水産製造物ヲ列記シ右側ニ假名ヲ附スヘシ

- 一 其他ノ欄ニハ本表列記外ノ水産製造物價額ヲ記スヘシ
- 第三十 鹽(調査毎年、報告期翌年三月十日限)
 - 第三十一 水産養殖(調査毎年、報告期翌年四月十日限)
 - 一 個所又坪數ハ其年十二月末日現在ヲ記スヘシ
 - 一 牡蠣ハ貝付ノ儘計算スヘシ
 - 一 何々ノ欄ニハ其地方ノ重要水産養殖物ヲ記スヘシ
 - 第三十二 遠洋漁業(調査(自毎年七月)至翌年六月)一ケ年、報告期翌年九月十日限)
 - 一 遠洋漁業トハ房州沖ヨリ北海道方面或ハ露領沿海朝鮮沿海臺灣沿海ノ如キ遠隔海面ノ漁獵ヲ云フ
 - 一 場所ノ欄ニハ漁獵ニ從事セシ海面ヲ記スヘシ
 - 第三十三 森林植栽(調査毎年、報告期翌年四月十日限)
 - 一 本表ニハ國有林及御料林部分林ヲ除ク
 - 一 何々トアル欄ニハ其地方ノ重要ナル樹木ヲ記スヘシ
 - 一 補植ハ面積ノ欄ヲ天然下種ハ數量ノ欄ヲ省キ其他ハ本表ニ準シ前表トナスヘシ
 - 第三十四 森林代採(調査毎年、報告期翌年四月十日限)
 - 一 本表ニハ國有林及御料林部分林ヲ除ク
 - 一 雜木トハ主ニ薪炭材トナスヘキ混淆ノ樹木ヲ云フ
 - 一 一柵トハ百〇八立方(六、六、三)トス然レトモ民林所有者ヨリ報告セシムルニハ其地方慣習ノ柵又ハ束ヲ以テ之ヲ改算シテ表ニ掲クルヲ便トス

- 一 價額ハ凡テ山元相場ヲ以テ計算スヘシ
- 一 竹類ハ一束ノ繩ノ假令ハ三尺繩ノ四尺繩ノ如シヲ備考ニ記スヘシ
- 一 何々トアル欄ニハ其他方ノ重要ナル樹木及竹類ヲ記スヘシ
- 第三十五 物價(調査毎月、報告期) (上半期其年七月十五日限)
(下半期其年一月十五日限)
- 一 本表ニ掲クル品目ハ適宜取捨スルコトヲ得
- 一 商品ハ同種ノ内各其立物ヲ定メ置キ其名稱(假令ハ米ナレハ肥後米食鹽ナレハ本齋田ノ如シ)ヲ記入シ其相場ヲ取ルヘシ若シ前年定メタル立物ナキトキハ成ルヘク同格ノモノ、相場ヲ取ルヘシ
- 一 商品ハ凡テ中等品ヲ標準トスヘシ若シ相場立タルトキハ其品名ノ下ニ「」ヲ記シ相場不詳トキハ不詳トスヘシ
- 一 百斤トハ總テ十六貫ト知ルヘシ(習慣上百六十匁以外ノ目方ヲ以テ賣買スルモノアラハ必ス其目方ヲ注記スヘシ)
- 一 前年若クハ平年ニ比シ著シキ差異生シタルトキハ成ルヘク其理由ヲ記スヘシ
- 第三十六 賃錢(調査毎年、報告期) (上半期其年八月十五日限)
(下半期其年三月十五日限)
- 一 本表ニ掲クル職業ノ種類ハ適宜増減スルヲ得
- 一 養蠶絲繰杜氏等其他季節ヲ限リ營業スルモノハ其季節ヲ限リ營業スルモノハ其季節間ノ見通シニテ調査シ調査ノ月日ヲ記入スヘシ
- 一 前年若クハ平年ニ比シ著シキ高低生シタルモノアルトキハ成ル可ク其理由ヲ記スヘシ

- 一 賃錢ハ男女トモ壯年ノ者ニ就テ調査ス可ク老幼ノ賃錢ヲ記入ス可カラズ
- 第三十七 馬市(調査毎年、報告期翌年四月十日限)
- 一 管内ノ産馬ノミ糶賣スル市ハ市場名ノ下ニ産ノ符ヲ記シ自他ノ産ヲ問ハス賣買スル市トテ區別スヘシ(假令ハ白河市、三春糶産ノ如シ)
- 第三十八 定期ニ報告ヲ要スル件(毎年其期節)
- 一 米作播種ヨリ開花迄ノ景況
- 一 稲ノ發育ト花ノ着キ方ニ付郡内ヲ見渡シタル一般作物ノ模様假令ハ一般ニ前年又ハ平年ヨリ善シ、惡シ異ナラス或ハ郡内十ヶ村ノ内七ヶ村ハ農作ノ狀ヲ呈シ三ヶ村ハ平年作ニ劣レルカ如キ等
- 一 同開花ヨリ成熟迄ノ景況
- 一 開花ノ景況報告ニ準ス
- 一 麥作播種ヨリ成熟迄ノ景況
- 一 麥作景況報告ニ準ス
- 一 養蠶掃立ヨリ三齡マテノ景況
- 一 (一)掃立ノ初期、何月初旬、中旬、下旬
- 一 (二)掃立蠶量ノ増減「多少」(三)生育ノ善惡(四)桑葉ノ有余、不足(五)収繭ノ豫想高
- 一 同三齡後ヨリ成繭迄ノ景況
- 一 前報告ニ準ス
- 以上電報文ノ如ク簡單明瞭ニ記スルヲ要ス
- 第三十九 時々報告ヲ要スル件

第四	考 備	合 計	何 郡 米				明治何年	調查主任印
			粳 米	糯 米	陸 米	作付反別 收穫高		
			粳 米	糯 米	陸 米	一段歩收穫高		
			一石二付概價					
第三	考 備	合 計	畑					

第四十 至急報告ヲ要スル件

第一	考 備	合 計	何 郡 耕作及捕魚採藻業				明治何年	調查主任印
			兼 捕魚採藻業	兼 業	專 業	自 耕作		
			兼 捕魚採藻業	兼 業	專 業	小 業		
			兼 耕作採藻業	兼 業	專 業	捕魚採藻業		
第二	考 備	合 計	田					
何郡 耕作地		明治何年	二毛作	一毛作	作付反別 不作為反別 自作反別 小作反別			
			二毛作	一毛作	計			
			二毛作	一毛作				
			二毛作	一毛作				

第六										考 備	
市何郡 食用及特用農産物											
大豆	小豆	粟	稗	黍	蕎麥	甘薯	馬鈴薯	蘿蔔	菜種	作付段別 收穫高	明治何年
									藥種(土根)		
									苧 綿		
									大 麻		
									苧 麻		
									葉 煙 草		
									葉 藍		
									田 作		
									畑 作		

調査主任印

第五										考 備	
市何郡 米作被害											
合計	陸米	糯米	粳米	水害	旱害	虫害	風及雨害	病	其他	作付段別 收穫高	明治何年

調査主任印

飼養戶數	市何郡 春 瀨	明治何年	調查主任印	第九						調查主任印
				考備	合計	立木	刈桑	根刈	霜害 風害 水害 虫害 其他 計 損害見積 高	

茶畑	桑畑	種目	市何郡 桑畑及茶畑段別	明治何年六月末日現在	調查主任印	第七		何々	蒔蒔(根塊)
						考備	何々		
合計	合計	根刈							
四年以上	立木	刈桑							
三年以下									

戶數 製絲製造所 自 宅		何郡市 繅絲類及真綿繅種	明治何年	第十一						掃立數		
				考 備	合 計	屑 繭	出 殼 繭	玉 繭	繭	數 量	一石二付價額	框 製
調查主任印												

飼養戶數		何郡市 夏 秋 繅	明治何年	第十						掃立數		
				考 備	合 計	屑 繭	出 殼 繭	玉 繭	繭	數 量	一石二付價格	框 製
調查主任印												

製造戶數		數	量	一貫目ニ付價額
推車數	製造戶數			
市何郡 砂糖				
明治何年				
調查主任印				

第十三

考備	製造高櫃製	編種普通製	戶編種製造數	真綿	屑絲及屑物	玉絲	熨斗絲	生絲		數	量	一貫目ニ付價額
								坐操	器械			
市何郡 茶												
明治何年												
調查主任印												

第十二

第十五									
馬			牛			何郡牛馬		明治何年十二月末日現在	
計	外種	雜種	內種	計	外種	雜種	內種	牝	頭
								計	數
								上ノ内乳用	
								牝	年
								牝	内
								牝	出
								牝	産
								牝	計
								牝	年
								牝	内
								牝	斃
								牝	計

考備	雜液	瀨濕(枝搦)

調査主任印

第十四									
正味(幹搦)		製造戸數	漆樹數	何郡漆汁		明治何年		數	
	數								量
									一貫目ニ付價額

考備	糖蜜	黑砂糖	赤砂糖	白砂糖	白下

調査主任印

考 備	鶏 卵	鶏	豚			山 羊	綿 羊	牛	考 備
			計	外 種	雜 種				
何 郡 羊 豚 及 鶏									
明治何年十二月末日現在									
[調査主任印]									

考 備	豚	羊	馬	犢	成 牛	屠殺場		考 備
						頭 數	斤 量	
何 郡 屠 殺 場								
明治何年								
[調査主任印]								

何 郡 市

會 社 種 類

明治何年十二月末日現在

積 立 金

織工		機數		機業戶數	何地其他計	市河郡織物ノ一(絹織物) 明治何年	考備
女	男	手織機	器械機				

第二十ノ一

調査主任印

第十九ノ二

考備	紡績所名	會社				債社			
		資本總額	創設年月	所在地名	營業種別	最近損益	最近損益	債拂込額	社總額
	資拂込金								
	一日平均運轉ノ針數								
	管絲出來高								
	平均一日使馬力								
	營業日數								
	就一日平均時間								

第十九ノ一

明治何年

調査主任印

第二十ノ二

機業戸數	何郡織物ノ二 (絹綿交織、綿織、 麻織、其他織物)	明治何年	考備	合計				其他	女帶地類	男帶地類	袴地類	海氣類 (綾海氣等)
				帶本數	匹數	本數	反數					
	何											
	地											
	其											
	他											
	計											

調査主任印

透綾類	紹類	平絹類 (節平絹等)	紬太織類	糸織類 (綾系織等)	斜子類	羽二重類 (片羽二重、羽二重、 重類、羽二重、羽二重、 重類)	縮緬類 (白縮緬、 召縮緬等)	絞織類 (金、 關、 珍)	附屬工				
									計	女	男	計	
									數量				
									價額				
									數量				
									價額				
									數量				
									價額				

織物														
織						物								
其他	女帶地類	男帶地類	袴地類	蚊帳地類	縮木綿 織色(背縞、干木綿織、草木綿等) 縮フアンネル	縮木綿	紵木綿	縞木綿	二子其他	白木綿	計		其他	女帶地類
											本數	反數		
反		本								反			反	
反		本								反			反	
反		本								反			反	

交綿絹					附屬工		職工			機數			
男帶地類	袴地類	糸入木綿	二子其他	縮綿類	紋織類	計	女	男	計	女	男	手織機	器械機
						數量							
						價額						人	台
						數量							
						價額						人	台
						數量							
						價額						人	台

第二十二

考備	輸出 向莞 莞	吳 蔴			疊 表			戶製 數造 莞 蔴 蔴表及吳蔴業 蔴表及吳蔴業	
		計	並 吳 蔴	本 間 吳 蔴	計	其 他	琉 球		備 後
	*								

調查主任印

市何 郡陶磁器
何 地其
他
明治何年
計

第二十一

考備	價額 合計	毛織物 (羅紗、毛布、價 フランソワ、 肩掛等)	其他ノ織物	織 物				物		
				計	其 他	蚊 帳 地	上 布 類	生 蔴 布	計	
									本 數	反 數

調查主任印

市何 郡疊表吳蔴及莞蔴
自明治何年七月一
至何年六月一
夕年

油					市何郡 工產物雜種	明治何年	備考
類計	其他	綿實油	荏油	菜種油			
					數量		
					價額		
					製造戶數		
					職男		
					職女		
					計		

第二十四

考備	製造品價額	附屬工		職工	
		計	女	計	女

調查主任印

製造戶數	市何郡 漆器	明治何年	考備	製造品價額	附屬工		職工		窯數			製造戶數
					計	女	計	女	其他	錦窯	登窯	

第二十三

製造戶數	市何郡 漆器	明治何年	考備	製造品價額	附屬工		職工		窯數			製造戶數
					計	女	計	女	其他	錦窯	登窯	

調查主任印

第二十六ノ一

票 場 工										號	何	備	考	
原 動 力	一 日 就 業 時 間	執 業 日 數	製 造 品 種	創 業 年 月	(特 主 社 名) 社 名	工 場 所 在 地 名	工 場 名 稱	機 關 數	公 稱 馬 力	何 郡 市				
											員 人 弟 徒 及 工 職			
人 夫	日 勞 働	錢 入 ノ 日	職 工		徒 弟		計							
			男	女	男	女								

第二十五

明治何年十二月末日現在

調査主任印

千百五十五

何	青 銅 器 銅 器	麥 稗 真 田	類 草			紙 和			摺 付 木	薄 荷 腦 油	樟 腦 油	製 藍 (藍 玉 及 藥 ナクサ)	晒 蠟	生 蠟
			計	馬 草	牛 草	計	其 他	半 紙						

千百五十四

第二十七 市何郡 難破漁船

遭難ノ場所	月	日	遭難ノ種類	船數	乘込總員	死亡	負傷	死生不明	計	備考					
										破壞	漂流	行先不明	顛覆	其他	

調査主任印

第二十八 市何郡 漁獲物

所屬町村名	漁浦湖川名	所屬町村名	漁浦湖川名	計	數	量	價	額

明治何年

第二十六ノ二 市何郡 漁船ノ二

濱浦湖川名	現在數	年內新造	年內廢用	現在數	年內新造	年內廢用	計	備考

調査主任印

第二十六ノ一 市何郡 漁船ノ一

濱浦湖川名	現在數	年內新造	年內廢用	現在數	年內新造	年內廢用	計	備考

調査主任印

乾鮑 スルメ	海參 ナマコ	鰻 スルメ	市町		明治何年	備考	計	其他淡水産	其他鹹水産	鮎 アユ	鱒 マス	鮭 サケ	鱈 スズキ	石花菜 ササゲ
			濱浦湖川名 所属町村名	濱浦湖川名 所属町村名										
							1							
							1							
							1							

第二十九

調査主任印

鮭 イワシ	鱈 カツナ	鯖 サバ	鮪 ヒラメ	鰺 アヒ	鯛 タヒ	鰻 スルメ	鱈 フカ	北寄 ホツキ	海鼠 ナマコ	牡蛎 カキ	蛤 ハマグリ	石首魚 イシモチ	クロガ アラ	鰻 カレイ	鰻 ヒラメ	鮭 タコ

第三十一									
其他	何々	何々	牡蛎	鮫	鯉	市河 郡 水産 養殖		明治何年	備考
						養殖場數	同面積		

千百六十一

第三十													
其他	何々	何々	魚油	干鰯	鯧榨粕	海苔	鹽鮪	鱈鱈	鮪節	鯉節	田作	乾鰯	備考

千百六十一

第三十四ノ一

市阿 郡 森林伐採ノ一 (國有林及御料林
部分林ヲ除ク)

明治何年

千百六十三

考 備	計	何々	何々	櫻	栗	樟	松	杉	羅漢	扁柏
調査主任印										

第三十三

市阿 郡 森林植栽 (國有林及御料林
部分林ヲ除ク)

明治何年

面 積 數 量 植 栽 費

考 備	計	漁獲種類	場所	季節	船數	乘組員數	噸數	乘組員數	噸數	乘組員數	噸數	乘組員數	噸數
調査主任印													

第三十二

市阿 郡 遠洋漁業

自明治何年七月
至同何年六月 一ノ年

考 備	計												
調査主任印													

千百六十二

第三十五

品名	市何那物價	調查時期 每半年 七、八月、九月、十月、十一月、十二月	福島、若松、平	明治何年 上半年 下半年	平均
	種建物名稱				

考備	計	何々	何々	何々	江南竹	淡竹	若竹	數	量價	額

第三十四ノ二

市何那森林伐採ノ二(竹)

明治何年

調査主任印

考備	合	雜	計	木	潤葉樹	針葉樹				樹種	目周通箇級	用	本	數	伐	額	研	炭	材	額
						其ノ櫟檜櫻栗楮樟 他+														

千百六十四

調査主任印